

兼松資料叢書（商店史料） 1

兼松商店史料 第Ⅰ卷

神戸大学 経済経営研究所 2005

兼松商店史料 第Ⅰ卷

神戸大学 経済経営研究所

本書の刊行にあたって

兼松株式会社が、その利益の社会への還元として、国内では神戸大学や一橋大学に、オーストラリアでも研究機関に寄付行為を行っていることは、周知のところである。また、明治創業以来の兼松株式会社歴史資料については、神戸大学経済経営研究所で『兼松資料』として保管・管理していて、最近でも貴重な資料がいくつか追加されている状況にある。

歴史資料の整理と公開は、専門家による体系的な作業を必要とし、そのためしばらくは封印状態にとどまっていたが、神戸大学大学院経済学研究科の天野雅敏教授の決断で整理と公開に向けて数年前から作業が開始された。その成果として、天野・井川編集『兼松資料目録』（一九九九年）の出版で資料の全貌が示され、ホームページ「兼松資料画像目録」では写真で実物資料の一部が見られます。当初から貴重資料として注目されていたのは、兼松商店の歴史を内部の要職の方が記録された資料であった。資料研究の手始めとして、天野教授の大学院演習においてその解読に取り掛かり、当時大学院生の藤村・小松の二名に加えて門外漢である私もその現場に参加する光栄に預かったことを懐かしく感じている。書物の形態でのその史料の公開が本書『商店史料』第一巻であり、

今後第二巻、第三巻……と継続されるはずである。

歴史資料の保管はことのほか大変なことであり、資料の劣化を防ぎながら多くの人に活用していただくには、保管庫の整備と貸し出し管理に費用を要する。そのために、兼松貿易研究基金（兼松株式会社の神戸大学経済経営研究所への寄付金）からの援助がなされている。その基金の常務理事の一人として、記して感謝申し上げます。

兼松資料の公開に当たっては、プライバシーの問題など兼松株式会社との間で考え方のすり合わせが必要であり、兼松株式会社の関係の方々からのご協力に対し厚くお礼申し上げますと同時に、資料の継続的な公開を辛抱強く支えていただくをお願い致します。なお、本来ならば山地秀俊経済経営研究所長にこの挨拶文をお願いすべきですが、『商店史料』との個人的なかかわりから私にその担当を許されたことを含め、所長をはじめ本書の出版に貢献された研究所のスタッフの方々にお礼を申し上げます。

平成十八年 二月吉日

財団法人兼松貿易研究基金常務理事
神戸大学経済経営研究所教授

井川一宏

御挨拶にかえて

明治半ばに神戸で産声をあげた兼松商店は、まもなく創業百二十周年を迎える兼松株式会社になりました。その軌跡は平坦な道ばかりではなく、幾たびか風雪に耐える時期もありましたが、諸先賢の宜しき御采配によってそれを乗り越え、二十一世紀に再び大きく飛翔しようとしています。

今回、神戸大学経済経営研究所から弊社の歴史を伝えるこのような資料集が刊行されることは誠に喜ばしいかぎりです。先に刊行が始まった『日豪間通信』と共に、本資料集が企業研究の発展に貢献することを願っております。

平成十八年 初春吉日

兼松株式会社 代表取締役社長

三輪徳泰

本書の利用のために

一、本書は、すでに経済経営研究所から刊行が開始された『日豪間通信』に続く兼松資料叢書の第二期シリーズに当たる資料集である。現研究所長の山地秀俊教授の企画に始まり、財団法人兼松貿易研究基金常務理事で元研究所長の井川一宏教授の御指導で実現した。資料の翻刻は『日豪間通信』各巻と同じく藤村が担当し、校正作業は本学大学院経済学研究科の天野雅敏教授と橋野知子助教授及び藤村が分担して、最終的な調整は藤村がおこなった。

二、『兼松商店史料』は後年になって重役が執筆した文書で、史料的位置づけは二次編纂史料であるが、各種の一次資料に依拠して作成されており、また今日では失われた貴重な一次資料も豊富に含まれている。ただし兼松の沿革を編年形式で手際よく叙述する一方で、個人情報に属する記事も多数含まれ、本書ではそうした記事はプライバシー保護の必要性から割愛した。

三、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表は、原資料には題名が付されていないものは適宜付与した。また原資料では乱雑に書かれた箇所もあり、その場合は会計学の通例に従って表記を整理した。財務諸表の翻刻は本学大学院経営学研究科の清水泰洋助教授が担当した。

四、資料原文では句読点は使用されていないため、読みやすさを考慮して読点を適宜追加した。ただし連

続数字を分割する疑似的読点は資料原文に存在するものの、区々に打たれて統一されておらず、また億万千百十などの単位が明確に記載されているので誤解を生じさせる危険は小さいと判断し、繁雑さを避けて省略した。

「」や（）は原文に存在するので、記事の中略や後略など編集作業の過程で加工した箇所は「」の記号で明示した。

五、原資料にはカスレなどで判読できない箇所がある。その場合は邦字は□で、英字は∴で示した。

六、本書の翻刻に際しては古文書学の一般的な手法に則り、資料原文の旧字や俗字は常用漢字に変換すると共に、宛字は原文のままとした。近世異体字は常用漢字かカタカナに改めた。また貨幣ポンドの「£」はそのまま記載したが、重量ポンドの記号（lb、エル・ビーに横棒）は「ポンド」とカタカナで表記にしている。

（藤村 聡）

解 説

一 『兼松商店史料』について

一九九二（平成四）年十一月に兼松資料が神戸大学経済経営研究所におさめられ、一九九六（平成八）年度にはいり、その資料整理と資料目録の作成がなされるようになった。兼松資料の正確な把握と個表の作成は、神戸大学経済学部天野雅敏ゼミナールの一九九六（平成八）年、一九九七（平成九）年の古文書演習の一環としてなされた。その後、同資料の資料目録を公刊するために、目録の構成や資料の配列など巨細にわたり神戸大学経済経営研究所教授・井川一宏と藤村聡・小松義和等と討論する機会をもち、関連する諸研究を検討し、同資料の分析にはいった。こうして神戸大学経済経営研究所附属経営分析文献センターから天野雅敏・井川一宏共編『兼松資料目録』が刊行されたのが一九九九（平成十一）年二月のことであったが、その頃までには、兼松の六十周年、八十五周年、百周年などを記念して刊行された一連の社史や先行諸研究の検討をおえ、兼松の資料調査もおえていた。そして、このような過程のなかから見出されたのが、今回、その一部を紹介する『兼松商店史料』である。

兼松の六十周年を記念して公刊された『兼松回顧六十年』をひもとくと、史料編纂に関する記事がある

ことに気づくし、『兼松六十年の歩み』にも同様に「店史史料」の項目がある。これらによると、「店史史料」は、「店業の由来と経過と、その底を流れる精神とを正しく伝え、且つ事業運営の跡を検討して後代の経営に資するため」、前田卯之助の発意にもとづいてとりまとめられたものとされており、創業以来一九一七（大正六）年の合資会社の末期までを前田卯之助が、一九一八（大正七）年から一九二三（大正十二）年までを藤井松四郎が、また一九二四（大正十三）年から一九三九（昭和十四）年までを前田卯之助と富森謙吉が執筆している。前田は四篇約八二〇枚（一枚四八〇字詰）をまず執筆し、それをうけて藤井が七篇約一〇七〇枚（一枚約九〇〇字詰）を執筆したのち、前田・富森が九篇約二八一〇枚（一枚四百字詰）を執筆していたが、これらの原稿は、稿本のまま社内において所蔵されることになったのである。神戸大学経済経営研究所におさめられた兼松資料のなかにも、当初は、この『兼松商店史料』を見出すことができなかったもので、その後の兼松の資料調査の際に『兼松商店史料』の所在にも留意し、調査を進めた結果、関係者各位の協力もあり、これを見出すことができた。『兼松商店史料』をひもといて、その内容を吟味してみると、年次ごとに委曲を尽した叙述のなかに兼松商店の歴史的な歩みが余すところなく伝えられており、学問的にも貴重なものと思われた。そこで、さらにその研究を進めるとともに、それを翻刻・公刊することを予定し、天野雅敏研究室を中心にそのための作業に着手していた。そして、このほど兼松株式会社と神戸大学経済経営研究所のご理解を得て、兼松資料叢書の一環としてここに『兼松商店史料』の一部を公刊しうることとなったのである。今回公刊の対象としたのは、紙幅等の制約もあって、さ

しあたり創業前後から一九〇一（明治三十四）年までとした。また同資料のなかには、人事等の個人情報に関わる記事が散見されるが、この度の公刊に際しては、それらの翻刻をひとまず控えることとし、それらの記事の取扱いについては今後の課題とすることにしたことを記しておきたい。

二 明治中・後期の兼松商店の経営

兼松商店は、創業者の兼松房治郎によって一八八九（明治二十二）年八月十五日神戸市栄町五丁目に設立された貿易商社であり、翌年四月十日に豪州シドニーのクラレンス街九十九番地に支店を開設し、日豪直貿易に進出した。そして、一八九一（明治二十四）年八月にその支店をオツコンネル街八番地のアルバート・ビルディングに移している。兼松房治郎は、こうした事業に着手するにあたって、一八八七（明治二十）年にはじめて渡豪し、シドニーを中心に各地の視察を試みていた。その後も、一八九〇（明治二十三）年、一八九一（明治二十四）年、一八九二（明治二十五）年、一八九五（明治二十八）年、一八九八（明治三十一年）、一九〇二（明治三十五）年、一九〇五（明治三十八）年と渡豪をかさね、両国間の貿易の発展に貢献した。八回におよぶ房治郎の渡豪のうち実に六回が、本巻の対象とする時期にみられたのであり、それだけに、この時期は兼松商店の創業とその基礎を築くうえで重要な時期であったとしてよいであろう。

しかし、国内の毛織物工業の状況をみると、一八七九（明治十二）年九月に開業した官営千住製絨所が先駆的地位をしめていたのであり、その命を受けて外商を通じて羊毛の買付けにあたっていた大倉組などが羊毛流通のうえで重要な役割をはたしていた。兼松商店は当初こうした官需には進出しえず、辛酸を嘗めていたことが『兼松商店史料』の記事からうかがえる。同史料の一八九七（明治三十）年の記事の一節には、「陸軍省所管千住製絨所ハ明治八九年頃ノ創設ニ係リ、実ニ本邦毛織工業ノ鼻祖タルノミナラズ、後年民間ニ於テ徐々ニ同工業ノ試開セラル、ニ及ビテモ猶同所ノ羊毛需要高ハ遠ク他ノ群ヲ抜キ居リシガ、其供給ニ関シテハ特殊ノ事情ノ下ニ多年大倉組ノ独占ニ属シ、後福島組ガ其一部ヲ割愛セラル、ニ至リシ外ハ或ル黙契ノ下ニ断ジテ他ノ侵入ヲ許サズ、而カモ之レ等ノ所謂御用商人ハ其羊毛買付上自身何等ノ施設ヲ有スルニ非ズシテ、単ニ濠洲ノ外人 *Wool Buyer* ニ委託注文ヲ転発シテ之レヲ取次ギ、自己ハ請負式ニテ納入シ、以テ高率ノ利益ヲ占得セルニ過ギス、サレバ店祖ハ廿五年一月見本及ビ羊毛雜誌等ヲ送りテ買次方下命ヲ請願セシヲ手始メトシ、製絨所当局ハ勿論陸軍省官憲等ニ対シテモ該羊毛ノ買次ヲ商店ニ委託セラレンニハ、中間商人ノ利得ヲ省キ製絨所原料代ノ節約著シキノミナラズ彼地ニ孤軍奮闘セル日本商人ノ信用ヲ加フル所以也トノ正論ヲ以テ、或ハ堂々之レニ迫リ或ハ歎願其情ヲ尽スコト其幾回ナルヲ知ラズト雖モ、此供給壟断ハ之来一種ノ高等政策トモ称スヘキ黙契ニ属スルコトナレバ、店祖ノ所論モ運動モ固ヨリ何等ノ反響ヲ来スベクモアラズ」とある。兼松商店の羊毛の利益は、日清戦争期や条約改正による毛織物の輸入税の引上げにより毛織物工業が保護された際には大きくなるものの、通覧すると上下に変動

しており、輸入羊毛の取引にはなお脆弱性がみられたのである。一九〇〇年代初頭には、こうして、一時、豪州からの羊毛の輸入が大幅に減少し、豪州からの輸入商品総額が減少することになった。この時期には、中国との取引がみられるようになり、急激な増加を示していたのである。

『兼松商店史料』の一八九七（明治三十）年の記事のなかには「当時商店ノ所謂三大事業案」と題するものがあり、それによると、「二二日夕蚕糸貿易」、「二二日夕支那貿易ノ開拓」、「三二日夕店舗ノ新築」を三大事業と称していた。すなわち、日清戦後の兼松商店は、蚕糸貿易、対中国貿易の開拓、貿易商社にふさわしい店舗の新築を三大事業目標としていたのであり、中国貿易についていえば、大豆・豆粕を中心にして、柞蚕糸、粟、小麦等を輸入し、燐寸や綿糸等を輸出していたのである。しかし、この期の蚕糸貿易や豆粕取引を中心とする中国貿易は投機性がつよく、問題をはらんでいた。蚕糸部の取引については、『兼松商店史料』の一九〇〇（明治三十三）年の記事の一節に具体的な叙述があるので、それを紹介しよう。「昨二十二年春自己計算ノ売買兼営ヲ開始シタル商店蚕糸部ハ同年末ノ決算ニ当リ三万余円ノ巨益ヲ計上シタリト雖モ、当時熨斗出殻繭生皮苧等約五万五千斤ノ未売約手持品ヲ擁シ其棚卸シ評価約九万円ヲ以テ越年シタル実情ナレバ、相場ノ騰落極メテ激シキ商品ノ性質上前文利益ハ頗ル不確実ノモノニシテ嚴格ナル意味ヨリスレバ単ニ帳簿上ノ利益ニ過ギザリシヤモ未ダ知ル可ラズ、然ルニ此奇利ニ酔ヒタル当局ハ其勢ニ乗ジテ本年ニ入りテモ猶強氣一点張りニテ新年早々ヨリ係員ヲ諸方ニ派シテ約四万斤ノ生皮苧ヲ主トシテ濃尾地方ニテ買付ケ手持高通計十萬斤ニ垂ントセル折柄、商勢却テ下抑シノ兆ヲ示シタルモ、三

月中二僅カニ出穀繭一万七千斤前後ヲ売放チタル外ハ僅々2%乃至3%ノ損失ニ躊躇シテ見切り兼居ル内、不計モ北清事變ノ突発スルアリ、四五月ノ交遂ニ成行売抜ケヲ決行シタル頃ニハ市価ハ既ニ頂上ヨリ二三割方ノ大下落ヲ示シ居リシカバ忽チ巨額ノ損失ヲ来シタリシガ、当年後半新季節ニ入ルニ及ビ我当局ハ一變弱氣方針ヲ以テ出動シ以テ上半季ノ失敗ヲ快復セント焦慮セシ二期初僅カニ策戦ノ的中ヲ喜ビ居ルノ違モ無ク、一般市況忽チ逆転ノ結果徒ラニ先売品ノ買埋メニ狂奔セルノミニテ下半季戦モ亦所謂損失ノ上塗りニ終リ、当年度ノ売仕切高各種品通算三千余俵此金額廿六万二千余円ニ対シ純損実ニ六万四千円ヲ算シ、更ラニ同部ノ本年度資金使用高二対スル店内利息一万余円ヲ加算スルトキハ同特別会計ノ年度損失無慮七万五千円ノ巨額ニ上リ、恰カモ廿九年六月蚕糸取扱開始以来前年ニ至ル四ヶ年間ノ利益累計額ニ倍スルニ惨況ヲ呈シ、創業以来十年有余ノ苦酸ヲ経テ漸ク就ラントセル商店ノ基礎モ忽チ之レガ為メニ動揺セントシ、当年度ノ決算面ハ対銀行ノ体面取繕ヒ上種々糊塗修飾ノ苦策ニ出ヅルノ止ムヲ得ザルニ至ル」とあり、『兼松商店史料』の一九〇一（明治三十四）年の記事の一節には、「店業ノ本体タル貿易方面ニ於テハ一昨年ニハ及バズト雖モ昨年モ亦相当ノ純益ヲ挙ゲ得タルニ拘ラズ、特別会計蚕糸部ハ昨一ヶ年ニ七万数千円ノ大欠損ヲ醸シタル為メ商店ハ深創ヲ包ミテ決算面ヲ糊塗スルノ外ナキニ至リ、前年頭初ニ於ケル商店帳簿面ノ資力十七万円ハ早クモ当年初二ハ差引其十ノ三ヲ失ヒタルノミナラズ、失ヘル所ハ大切ナル純真ノ流動資本ナルニ対シ、残ル所ノ表面資力十二万円ハ其四分ノ三以上固定セル不動産ニヨリテ代表セラレ、殊ニ其帳簿価格ハ三十年春標榜資本増大ノ為メ一挙其評価ヲ倍增セルモノナレバ一般不況ノ此当時ニ於テ

厳格ナル評価ヲ試ミシカ価値ノ減退果シテ幾許カ止マル可キヤヲ知ラズ、一面昨春來ノ金融逼迫ハ漸次其度ヲ進メテ梗塞状態ニ進ミ本年ニ入りテハ形勢暗胆トシテ不穩ノ兆ヲ示シ」ていたとし、「一昨年ニハ三万余円ノ巨利ヲ収メテ商店ノ花形タル觀アリ蚕糸部モ奇利ヲ趁フテ背馳ノ結果ヲ致シ忽チ此末路ヲ見ル、商標信用樹立屑物取引改善進ンデ神戸生糸市場設定等店祖高遠ノ理想モ当局ノ実施当ヲ得ズシテ空シク葬ラレ、五年間差引（昨年糊塗免除シタル店内利息約一万円ヲ考慮シ）四万円ニ近キ大金ヲ失ヒタルノミナラズ商店全体ノ信用ヲ毀チタル損害亦決シテ輕視ス可ラズ」とされていた。また、対中国貿易の開拓についてみると、上海、蘇杭、京津、芝罘、牛莊などを一八九八（明治三十一）年に視察・調査の上、一九〇〇（明治三十三）年四月兼松洋行の招牌を掲げ上海支店を仏租界公館馬路第三号に開設していたが、北清事変に遭遇し、「同支店ハ開設以來一年ニ充タズ彼是其将来ヲ論ズルコト固ヨリ早計ナリト雖モ、昨年来ノ実績ハ商店ノ期待ニ及バザルコト遠ク且支店長大澤ニ対スル信任亦厚キヲ加フル能ハズシテ却テ著シク薄ラギタル趣アリ、殊ニ蚕糸部撤廢ニ引続キ店運一層蹙ルニ從ヒ同支店廢止ノコトモ自ラ店祖ノ考慮ニ上リ」、一九〇一（明治三十四）年六月に同支店は閉鎖されていた。なお、その前年から調査・準備が進められた牛莊出張所は一九〇一（明治三十四）年三月設置されており、「牛莊方面ノ取引ニハ大ニ力ヲ注グ」こととなった。大豆、豆粕、豆油などの日本への輸入と綿糸、雑貨などの中国への輸出をおこなない、商量も伸びたが、その後、閉鎖されるにいたっていた。その際、同出張所では、「権限ヲ越エテ為替及商品等ノ投機ニ染手シ居リシ事実明瞭」であつたという。こうして、一九〇〇年代にはいると、日露戦争期には

いるまで売上高の伸びも鈍化し、利益額はマイナスとなり、利益率の低下も顕著になり、事業の健全化と合理化をはかることが急務とされていたのである。兼松商店が、このような状況を如何に克服し、成長軌道にのったのかは、次巻において示されるはずである。

(神戸大学大学院経済学研究科 教授 天野雅敏)

〈参考文献〉

『兼松回顧六十年』(兼松株式会社、一九五〇年)

『兼松六十年の歩み』(兼松株式会社、一九五五年)

『K G 一〇〇 兼松株式会社創業百周年記念誌』(兼松株式会社、一九九〇年)

天野雅敏「明治期の貿易商社・兼松商店に関する一考察―羊毛取引を中心にして―」(『国民経済雑誌』第一八三巻第五号、二〇〇一年)

天野雅敏「貿易商社兼松商店の経営と前田卯之助―明治期を中心にして―」(『国民経済雑誌』第一八九巻第一号、二〇〇四年)

天野雅敏「明治後期の兼松商店の経営動向と日本商社の豪州進出」(『大阪大学経済学』第五四巻第八号、二〇〇四年)

天野雅敏「貿易商社兼松商店の発展と前田卯之助」(『神戸商工だより』復刊六一八号、二〇〇五年)

創業前

創業前ノ店祖ノ概歴、其第一次渡濠視察 三

店祖ノ貿易業ニ志シタル動念并ニ濠洲ニ着眼ノ動機 五

数字上ヨリ見タル当時ノ我対外并対濠貿易 七

視察ヲ終ヘタル店祖愈事業着手ヲ決心シテ帰朝ス、我財界不況期ニ入り曩ノ同志逡巡後援ヲ肯ゼズ 九

店祖無已バ孤力自営ヲ決心シ背水ノ陣法ニ出ヅ、辛フジテ匿名組合式出資確約ニ万七千五百円ヲ得 一

組合出資ノ約定書及副約定書（附兼松商店設立ノ主意）ノ全文 三

明治二十二年（一八八九）年

愈兼松商店ノ創立開業（於神戸栄町五丁目） 二

店舗ハ建坪九坪、店員ハ古川・北村ノ兩名ノミ、店祖次デ居ヲ神戸ニ移ス 三

出資払込ノ徴収（小口ハ早クモ滞滯）、輸出品ノ仕入レ、再渡航ノ準備 四

年末ニ於ケル商店ノ貸借対照表 六

明治二十三年（一八九〇）年

店祖北村ヲ随ヘテ第二次渡濠ス、船中ノ誓約 三

シドニー支店ノ開設 三

店祖ノ帰朝ト困難ナル内外ノ情勢、初議會召集、我財界ノ混乱不況ト出資払込難 四

初輸入ノ三重要商品 | 羊毛・牛脂・生皮 六

年度商高早クモ五万円弱 | 其内容 六

年度収支推定欠損七千円ニ近シ 五

明治二十四（一八九二）年

大犠牲ヲ忍ンデ組合出資ノ整理刷新 | 借入金ニ変更 四
 計算的ニ孤立シテ店祖ノ心事一段ノ緊張ヲ加フ 四
 店祖ノ第三次渡濠 五
 最初ノ店規 五
 店祖滞濠中ノ精勵ト留守夫人ノ日勤 五
 シドニーニ於テ小売店ノ経営 五
 シドニー支店ヲ O'Connell St.ニ移ス 五
 当年ノ新輸入品 | 屠業雜貨・鉛及調革 五
 東京海上ト保険契約ノ始マリ 六
 鈴鹿氏我が東京代理店トナルノ端緒 六
 神戸本店ヲ栄町三丁目ニ移ス 六
 年度商量七八万円、本店総益九千余円、其内容 六
 本店年度損益并ニ利益処分概表 七

明治二十五（一八九三）年

郵船会社広島丸ヲ濠洲ニ試航セシム 七
 New Calcedonia へ最初ノ移民 七
 絹手巾製造ノ自営 七
 当時ノ営業広告 七
 購買入札、焼荷競買、組合見込等ニ浮身ヲ窺ス 七
 店祖ノ第四次渡濠 七

年度商高前年ト大差ナキモ収支実績欠損ニ終ル 七九

明治二十六年（一八九三年）年

商店設備漸次整頓セントスル折柄、濠洲大恐慌ノ襲来 八三

石鹼工場鍵栄堂ノ経営 八五

輸出商品見込ミ値増シ勘定ノ妙（？）計 八七

年度商量ハ前二年ト同調、収支成績ハ見直ス 八九

明治二十七年（一八九四年）年

臨時決算ヲ行ヒ店員等ニ創業来初回ノ賞与ヲ給ス、店租金三千円ヲ追加投資シ資本金ヲ一万円トス 九三

海岸通三丁目ノ建物附地所ヲ購入シテ之ニ移ル 九五

日清戦役ノ勃発 九七

賞与ニ関スル店租ノ宣言 九八

年度商量一躍十万円台ヲ突破ス 一〇〇

年度収支差引利益約一万二千円、其内容 一〇一

年度利益金ノ処分、資本金ニ対スル初配当 一〇四

明治二十八年（一八九五年）年

生命保険業代理店ノ引受、附其終末 一〇九

店租夫人ノ参加投資五千円ヲ加ヘテ資本ヲ一万五千円トス 一一〇

店員談話会ノ創設、附其終末 一一一

規則制度ノ形式漸ク備ハル	一三三
年度商量十七万円ニ増進ス	一三五
年度収益一躍二万余円、其内容并ニ処分	一三七

明治二十九（一八九六）年

羊毛輸入税ノ免除運動成功ス	一三三
出資変形借入金ノ返弁、資本的独立	一三五
開店七週年祝賀、沿革史ノ編成	一三八
盛ンニ不動産投資ヲ行フ	一三〇
日本郵船会社ノ濠洲航路開始、其以前ノ交通状態	一三三
肉骨粉肥料ノ初輸入ハ商店ニ一努級商品ヲ加フ	一三六
蚕糸屑物取扱ノ開始	一三八
店則及事務細則ノ追加并ニ統一印刷	一四〇
年度商量躍進シテ三十五万円トナル	一五一
収入ハ商量ニ伴ハズ、利息経費ハ膨大ス、年益ハ却テ前年ニ及ハズ	一五三
利益処分後ノ商店実資力五万円ニ達ス	一五五

明治三十（一八九七）年

卒先シテ諸帳簿諸取引ノ厘単位ヲ廃ス	一五九
支配人原ノ濠洲出張	一六〇
シドニー支店資本金勘定ノ設定	一六一
資本金ヲ一躍十万円ニ増改ス（但半額ハ不動産評価増）	一六三
当時商店ノ所謂三大事業案	一六五

當時商店ノ海外電信利用度（年ニ発着各廿通台）	一六七
シドニーニ帝国領事館開設セラル	一六九
金貨本位制度ノ実施	一七一
肥料輸入営業ノ大発展ト鈴鹿肥料部	一七三
千住製絨所需要羊毛注文ノ下請	一七五
年度輸出入高（輸出ニ増シテ輸入ニ減ジ）	一七七
年度収支并ニ利益処分概表	一七九
結局大体前年ニ同ジ	一七九

明治三十一年（一八九八）年

東京支店ノ設置	一八三
東京支店仮規則	一八五
支那貿易開始ノ準備	一八八
商号并ニ支配人ノ登記、支配人ニ対スル委任契約	一九一
店祖第六次渡濠	一九二
濠洲支店規則ノ制定并ニ其充員	一九三
シドニー支店ノ計算初メテ明カナリ	一九七
前項シドニー支店大欠損ニ関スル考察	二〇一
店祖ノシドニー支店収支予算（樂觀ヲ許サズ）	二〇三
日本製モスリン初メテ市場ニ上ル	二〇五
肥料取締法制定ノ建議	二〇七
肥料輸入税免除ノ建議	二〇八
Oleins・椰子油及硫酸安母尼亞ノ初輸入	二一〇
肥料輸入高ノ猛進ニ年度輸出入額四十五六万円	二二二
経費ノ膨増ニ年度純益ハ却テ減少ス	二二三
シドニー支店当年度ノ収支——続損	二二五

シドニー支店ノ累積大欠陥五千£ノ放任繰越 二二六
 最近兩三年我が対外貿易ノ大增進ト大輸入超過、連年ノ輸入大超過ト財界ノ波瀾 二二八

明治三十二（一八九九）年

治外法権ノ撤廃ト改訂輸入関税率ノ実施 二三三
 蚕糸部ノ大飛躍 | 見込売買ニ変シ数万ノ奇利ヲ挙グ 二三五
 長崎代理店ノ締約ト其悲惨ナル終局 二三七
 店業繼承ニ関スル店祖ノ声明 二三九
 村井商会製造煙草ノ特約輸出、終ニ成功セズ 二三一
 本年ノ主ナル試輸品 | 砂糖・小麦粉・罐肉・バター 二三三
 商店輸入肥料ノ大停滞ト新規輸入頓挫 二三四
 羊毛ノ輸入扱高急増シテ初メテ二千俵ヲ超ユ 二三六
 年度輸出入高初メテ五十万円ヲ超エ六十万円ニ垂ントス 二三八
 年度巨益二万五千円外ニ蚕糸部ノ奇利三万余円 二四〇
 シドニー支店珍ラシク好蹟、店員私借千£ノ免除 二四二
 日本側巨益ノ処分、シドニー繰越欠損ハ依然放任 二四三
 以上処分後歳末ニ於ケル商店実資力十五万円ニ近シ、創業以来茲二十年余資力商量従業員数共二十倍ス 二四四

明治三十三（一九〇〇）年

創業以来十年有半ヲ閲シ、第一次発展ノ頂ニ在リシ当年初頭商店ノ資債 二四七
 調査係ヲ置キ帳簿物品検査ノ制ヲ始ム（永続セズ） 二五〇
 店祖大患ニ罹ル | 垂水ノ静養 二五一
 愈上海支店ノ開設 二五三

牛莊方面ニ対スル取引ノ開始、出張所開設ノ準備 二五五

手代名ノ廃止、転勤支度料ヲ規定ス 二五七

店則ノ完備 | 形式徒ラニ備ハリテ實質伴ハズ 二五九

本店ヲ一時栄町一丁目ニ移ス 二六四

織物係ヲ廃ス 二六五

積極経営振リト新聞広告 二六六

其頃ノ商店通信設備 二六七

其頃ノ羊毛委託注文発註振リ 二六九

郵船ノ運賃秘密戻率ノ廃止ト其頃ノ羊毛輸入規模 二七一

濠洲乳種牛ノ初輸入 二七二

濠洲小麦ノ初輸入 二七四

其頃ノ製粉界ト外国小麦商談振リ 二七六

濠洲骸炭ノ輸入 | 遂ニ大成セズ 二七八

年度輸出入高一躍百万円ヲ超ユ 二七九

業績商量ニ伴ハズ、本業年度益一万六千円ニ下ル、其収支概表 二八一

シドニ | 支店ハ又モヤ逆転シテ欠損ニ終ル 二八三

蚕糸部ノ思惑外レ、其巨損商店ノ基礎ヲ危クス 二八四

姑息ヲ極メタル内外損益欠陥ノ処理 二八六

明治三十四（一九〇二）年

深創ヲ包メル当年初ノ商店資産勘定 二九一

蚕糸部ノ撤廃 二九二

大恐慌初メテ新日本ノ経済界ヲ襲フ 二九四

肥料ノ大売掛金回収難 二九七

主銀行ノ圧迫的回収 二九九

商店破滅ニ瀕ス　―店祖畢生ノ苦悩	三〇一
山川正金支店長ノ救済ニ辛フシテ一条ノ活路ヲ開ク	三〇三
栄町地所ノ売却ト貸金勘定ノ整理切詰	三〇六
上海支店ノ閉鎖、代理店ノ設置	三〇八
上半期仮決算ト正金へ提示シタル貸借対照表	三〇〇
海岸通りニ飯店舗ヲ急造シテ之ニ復帰ス	三〇三
シドニー小売店遂ニ撤廃	三〇五
牛莊出張所ヲ開設シカヲ北清貿易ニ注グ、店祖自ラ牛莊及奧地ヲ視察ス	三〇七
古立氷砂糖売込ノ為メ上海ニ出張ス	三〇九
年度商量対濠貿易ニ著減シ、牛莊貿易ニ躍進ス	三一〇
慘憺タル当年ノ収支業績并概表	三一二
シドニー支店亦大欠損、累積ノ巨損五千四百余円	三二四
差詰処理ヲ要スル内外ノ欠陥累積無慮十二万円	三二六
巨損ノ処分　―資本金ノ半減	三三八
処分後ノ貸借対照表、正味資産事実皆無、寧口負債超過	三三〇

創
業
前

創業前ノ店祖ノ概歴 其第一次渡濠視察

店祖兼松房次郎氏（元ノ姓ヲ広間氏、其先ハ尾州ニ出ヅ、後年故アリテ兼松氏ヲ冒ス、戸籍面ハ房治郎ナルモ店祖自身之ヲ発見セシハ晩年ノコトニシテ、其以前常ニ「次」ヲ用ヒシカバ、世間房次郎ヲ知リテ房治郎ヲ知ラザルモノ多シ）ハ弘化二巳年（1845）五月廿一日ヲ以テ大阪江之子島ニ生レ、幼ニシテ父ニ生別シ少ニシテ母ヲ喪ヒ、孤独具サニ辛酸ヲ嘗ム、年齒漸ク十二、早クモ京阪伏見ノ商家ニ転々奉公シテ冷血ナル傭主ノ虐待ニ幾タビカ死ヲ思ヒシガ、稍長シテ江戸ニ赴キ、或ハ軍籍ニ入りテ両毛常総ニ戦ヒ、或ハ商界ニ身ヲ投ジテ一挙奇利ヲ博シ、更ニ陋巷ニ退キテ英語ノ苦学ニ饑寒ヲ忘ル、ガ如キ幾多ノ波瀾曲折ノ後、明治六年、機縁ヲ得テ廿九才ヲ以テ大阪三井組ニ入り、初メテ落付キタル給料生活ニ入りシガ、其超凡ノ努力ハ天稟ノ材幹ト相俟チ

テ廳テ上長ノ信認ヲ博シ、着々其地歩ヲ作り、累次ノ献策常ニ其効ヲ奏スルニ及ビ、入組當時月給僅カニ七円ノ一雇員「房吉」ハ数年ナラズシテ役附ノ列ニ入り、後ニハ主人三井元之助氏ヲ代表シテ堂島米商會所ノ肝煎（今ノ大阪堂島米穀取引所理事ニ相当ス）タルニ至リシガ、過度ノ精勵ハ遂ニ其健康ヲ毀リ、明治十四年十一月、在勤九年弱ヲ以テ深ク惜マレテ三井組ヲ辞ス

後同地中之島ニ獨立シテ薪炭卸売商ヲ自營セシガ、時偶同志間ニ海運業開始ノ議起ルニ逢ヒ、断然其業ヲ廢シテ專ラ此計画ノ為メニ奔走シ、明治十七年五月、遂ニ資本金百廿万円ヲ以テ大阪商船會社ノ設立ヲ見ルニ及ビ、其重役タルノ傍ラ大阪毎日新聞ノ經營ニ參画スル等、着々大阪實業界ニ優勢ノ地歩ヲ固メツ、アリシガ、其素願タル貿易業開始ノ機運漸ク熟セントスルヲ見シヤ、半世ノ心血ヲ灑ギテ築キタル此地盤ヲ棄ツルコト、恰カモ弊履ノ如ク、漂然トシテ单身濠洲ニ向ヒシハ實ニ明治二十年十一月一日ノ事ニ屬ス、店祖時二年四十三

店祖ノ貿易業ニ志シタル動念并ニ濠洲ニ着眼ノ動機

當時本邦ノ貿易年額ハ僅カニ一億円ニモ充タズト雖モ、将来其大ヲ致ス可キハ誠ニ見易キ所ナルニ其取引ハ殆ンド全部在留外人ノ占ムル所ニシテ、僅ニ三井物産外数社ノ海外貿易ニ染指セシモノヲ除ケバ、邦人ノ貿易ハ全然所謂居留地貿易ニ過キズ、此商權ヲ邦人ノ手裡ニ回収シテ其進展ヲ期スルコトハ實ニ我商人ノ急務タルノミナラズ、寔ニ男子一代ノ快事業ナリトハ年来店祖ノ腦裏ニ往来セシ思想ナリシガ、偶米商会所ニ勤務セシ因縁ヨリ、我産米ノ濠洲輸出ニ關聯シテ同地ノ事情ヲ研究シ、其羊毛ノ產地トシテ實ニ世界ニ冠タルヲ知ルニ及ビ、予テ其頃漸ク擡頭シ初メタル本邦綿糸紡績業二次テ起ル可キハ毛織工業ナルベキヲ信シ居タル店祖ハ、當時日濠間ノ貿易年額僅々数十万円ニ過ギザリシ事實ノ如キハ毫モ介意躊躇スル所ナク、茲ニ日濠貿易ヲ其畢生ノ事業トセシコトヲ思ヒ、恰カモ商船会社ノ事業モ略其緒ニ就キテ創業ノ任一段落ノ時機ニ際シタ

ルヲ幸トシテ、同社ヲ始メトシ、予テ関係セシ諸会社ノ役員ヲ辞シ、先ツ実地視察ノ為メ渡濠ノ件ヲ決シタルモノ、如シ

数字上ヨリ見タル当時ノ我對外并対濠貿易

之ヲ大蔵省ノ統計ニ徴スルニ明治十年ニ於ケル我邦對外貿易総額ハ輸出二千三百余万円、輸入二千七百余万円、輸出入合計五千〇七十七万余円ニシテ、尔後漸進シタルハ勿論ナルモ、其伸力遅々トシテ十年間ニ倍加スルサヘ覺束ナク、十八年ヨリ廿年ニ至ル三ヶ年間ノ数字ハ

明治年度	輸出金額	輸入金額	輸出入合計金額
十八年	3715 万円	2935 万円	6650 万円
十九年	4887 ”	3217 ”	8104 ”
二十年	5240 ”	4430 ”	9670 ”

前表ノ通りニシテ、廿年ノ貿易総額ハ猶一億円ニモ充タズ、更ラニ転ジテ此内日濠貿易額如何ト見ルニ、明治十年ニハ僅々二万六千円ノ輸出ヲ示セルモ、輸入ヲ皆無ニシテ、漸ク廿年前後ニハ

明治年度	十八年	十九年	二十年	廿一年	廿二年
輸出額	285 千円	470 千円	535 千円	638 千円	486 千円
輸入額	72 〃	80 〃	32 〃	219 〃	267 〃
輸出入合計	357 〃	550 〃	567 〃	857 〃	753 〃

前表ノ如ク年額数十万円程度ニ進ミタルニ過ギズ

此微々タル数字ヲ眺メナガラ直チニ一身ヲ日濠貿易ニ投ゼントス、世間往々以テ暴挙トシ、甚ダシキハ之レヲ狂氣ノ沙汰トシテ非難セルコト、一面ノ理由ナシトセズ、而シテ店祖ノ一切褒貶ヲ顧ミズ、断々乎トシテ勇往シタルモノ、実ニ絶大ノ決意ト卓越セル予見トニ因ラズンバアラザルベシ

視察ヲ終ヘタル店祖愈事業着手ヲ決心シテ帰朝ス
我財界不況期ニ入り曩ノ同志逡巡後援ヲ肯ゼズ

明治廿年十二月、初メテ濠洲ニ其足跡ヲ印シタル店祖ハ先ヅ Sydney ヲ根拠トシ、主トシテ N.S.W. 及ビ Victoria ノ両洲ヲ巡察シ、考察半歳、其物産ノ豊富ナルコト毫モ予期ニ反セズ、日濠貿易ノ前途正ニ甚有望ナルヲ確カメ、愈其業ヲ開始スベキ決心ヲ固メテ、翌廿一年六月帰朝、直ニ其所見ヲ詳説シテ同志ヲ勧誘スルコト切ナリト雖モ、不幸ニシテ時恰カモ我財界既ニ不況ニ傾キ居リシカバ、曩ニ店祖ノ渡濠前、予メ其後援ヲ約セシ知友等モ多クハ逡巡シテ出資ヲ肯ンセズ、却テ其計画ノ冒險的ナルヲ難シ、店祖ヲシテ其初志ヲ翻サシメントシテ説キテ曰ク、君ガ従来既ニ築キ上ゲタル地盤ニ拠リテ阪地財界ニ活動センカ、勞極メテ少ナクシテ福利ノ到ルコト甚ダ多キヤ必セリ、何ヲ苦シンテ徒ラニ危険ヲ冒シ、易ヲ捨テ、難ニ就クノ愚ヲ演ズルヤトテ、遂ニハ

其多年ノ交リヲ絶タントスルモノサヘ見ハル、ニ至レリ

店祖無已バ孤力自営ヲ決心シ背水ノ陣法ニ出ツ
辛フジテ匿名組合式出資確約二万七千五百円ヲ得

茲ニ到リテ店祖ハ主トシテ時人ニ倚ラントスルコトノ徒ラニ時ヲ費シテ得ル所無キヲ察シ、独力自営ノ決心ヲ固メ、其所有ニ係ル中ノ島地所千八百坪家屋倉庫并ニ諸株券等一切ノ資財ヲ売却換貨シテ一万数千円ヲ得、以テ先ツ背水ノ意氣ヲ示シ、更ラニ資本家并ニ有志ニ説ク所アリ、其熱誠ニ動かサレテ遂ニ後援出資ヲ約スルモノ住友家ノ一万円（伊庭貞剛氏名義五千円、田辺貞吉氏并ニ谷勘治氏名義各二千五百円、合計一万円ナルガ、此住友家ノ出資ハ同家ノ長老広瀬宰平翁ノ懇懇ニ依ルモノ多シ）、三井組西村帙四郎氏（個人トシテノ出資ラシ、先年店祖ヲ三井組ニ採用セシ人ナリ）ノ五千円、藤田組（藤田鹿太郎氏ノ名義ニテ）、藤本清兵衛（先代）、牧野宗助、和田友八諸氏ノ各式千五百円、難波二郎三郎氏ノ千五百円、田中甚兵衛氏ノ千円等、合計二万七

千五百円ノ出資確定申込ヲ得タルガ、此外約定書ニ高田久右衛門・小林八郎兵衛等ノ記名マデア
リ乍ラ、遂ニ加判出来居ラザルニ見テ、最後ニ至ルマデ取纏メノ困難ナリシヲ窺フニ足ル
而シテ此出資ハ何レモ匿名組合出資ノ性質ニ属スルモノニシテ、何時ニテモ其払込ニ応ス可キ約
束ナルガ、其約定書及副約定書ハ次項ノ通りナリ

組合出資ノ約定書及副約定書（附兼松商店設立ノ主意）ノ全文

約定書ニハ其冒頭ニ兼松商店設置ノ主意ト題スル一葉ヲ添へ、次テ約定条項ニ及ブ、其全文左ノ如シ

兼松商店設置ノ主意

濠洲ノ物産ニ富ミ、商業ノ旺盛ナルハ夙ニ識者ノ唱道スル所ナレトモ、彼我貿易ノ事ニ至テハ尙未タ通商ノ道十分開發セザルノ今日ニ於テ其狀況ヲ細察知悉スルノ捷法至便ヲ闕キ、空敷隔靴痛痒ノ憾ヲ懷ケリ、然ルニ客歲不肖房次郎聊カ感スル所アリテ商況視察ノ為メ濠洲ニ渡航シ、其利源ヲ探ルニ多少ノ劳苦ヲ致シ、其事情ヲ略知シ、帰朝以來、諸君ニ対シ専心一意、日濠貿易起業ノ事ヲ勸説セリ、幸ニ房次郎ノ熱望ト其事業ノ将来ニ見込アルヲ翼賛セラレ、向來我國ノ福利ヲ

増進スルノ分子ヲ茲ニ播種栽培スルノ主意ニ基キ、各々其資金ヲ供出シテ以テ此業ヲ援ケラル、因之、此度其業務ヲ挙テ房次郎ノ担当ト定メ其店号ヲ兼松商店ト名ケ、専ラ日濠貿易ノ事業ヲ經始ス、不肖房次郎謹テ諸君ノ高意ヲ拝戴服膺シ努力以テ事ニ従フベシ、幸ニ此業ヲシテ果シテ隆盛ヲ見ルニ至ラバ、独リ我々ノ利益ナル而已ナラズ、或ハ国家ニ裨益スルコトナシトセズ、聊カ茲ニ兼松商店設置ノ主意ヲ書シ、以テ将来ノ記念ニ存ス

明治廿二年

兼松房次郎誌

約定書

〔壹錢証券印紙〕 兼松房次郎ハ此度兼松商店ト号シ、日濠間ニ於ル貿易商店ヲ設立スルニ付、兼松房次郎ト各出金主トノ間ニ係ル諸項ヲ締約スルコト、左ノ如シ

第一条 兼松房次郎ハ日本兵庫及濠洲シドニー府ニ兼松商店ヲ設置開舗シ、其營業ノ目的ハ日本産出ノ物品ヲ濠洲ニ、又濠洲産出ノ物品ヲ日本ニ直輸売買シ、併テ貨主ノ委托売買ヲ取扱フモノトス

第二条 兼松商店ノ營業年限ハ開始ノ日ヨリ滿五ケ年ト定ム、尚滿期ニ至リ一同ノ協議ヲ以テ繼續スルト否ヲ決スベシ

第三条 兼松商店百般ノ事務ハ総テ兼松房次郎ノ担当ト定ム、故ニ当店ニ係ル一切ノ義務ハ兼松房次郎单独ノ無限責任トス

第四条 兼松房次郎ハ兼松商店ノ資本金ノ内ニ供用セル出金主ニ対シ、營業上ノ損益ニ拘ラズ、一ケ年金一百円ニ付金六円ノ割ヲ以テ、其払込ノ翌日ヨリ起算シ、利足ヲ支払フベシ

第五条 兼松房次郎ハ出金主ニ対シ、左ノ証書ヲ發付ス

借入金ノ証

一、金 何程

右金額ハ兼松商店ノ設置ニ係ル締約書ノ主意ニ依リ、正ニ借用致候也

兼松商店主

明治廿二年 月 日

兼松房次郎

何某 殿

第六条 出金主ハ兼松房次郎ヨリノ通知ニ因リ、何時モ引請タル金員ヲ払込ムベシ

第七条 出金主ハ第八条ニ記載セシ場合ヲ除クノ外ハ、営業年限中返金ヲ求ムルコトヲ得ズ

第八条 出金主ハ兼松房次郎ニ於テ此約定書第一条ニ明記シタル営業ノ目的ヲ変更スルカ、又ハ其営業ヲ閉止スルカ、或ハ詐偽又ハ不正ノ所為アリト認ム時、又ハ死失逃亡シタル時ハ、営業年限中ト雖モ其金額ノ返済ヲ求ムルノ権アリ、斯ノ場合ニ於テハ出金主一同ノ協議ヲ以テ処分スルモノトス

第九条 出金主ハ兼松房次郎ノ行為ヲ監督シ、又帳簿ヲ点検シ、又ハ業務上ノ質問ヲナス権ヲ有ス

第十条 此約定書ハ一同ノ協議ニ依リ改正増補スルコトヲ得

右約定シタル証トシテ正副二通ヲ製シ、正本ハ出金主ニ副本ハ兼松房次郎ニ之レヲ蔵収ス

(日附欠

以下連署 省略)

而シテ別冊トシタル副約定書ノ全文ハ

副約定書

「一 錢証券印紙」 此度兼松商店ト号シ、日濠間ニ於ル貿易商店ヲ設置スルニ付、兼松房次郎ト他ノ出金主トノ間ニ係ル要件ハ別紙本証券ニ締約スト雖モ、猶ホ茲ニ副約スル条件、左ノ如シ

第一条 兼松商店百般ノ事務ハ本証券ニ記載ノ如ク総テ兼松房次郎ノ担当ト定メ候ニ付、一切ノ義務ハ同人ノ責任トス

第二条 本証券ハ責任上ノ關係及其他ノ都合ニ依リ、各出金主ヨリ兼松房次郎ヘ其資金ヲ貸与シタルモノト記載スト雖トモ、實際ハ損益ヲ共分スルモノニ付、若シ營業上正当ノ理由ニヨリ損失ヲ為シタル時ハ出金主ニ於テ之ヲ分担スベシ、但其制限ハ既ニ払込ミタル金額ニ止ルモノト

ス

第三条 兼松商店ノ総勘定ハ毎年一回トシ、一同協議ノ上、實際ニ左ノ割合ニ準シ配当スルモノトス

純益金 百分ノ五十 各出金高二配当

百分ノ三十 積立金

百分ノ二十 賞与

第四条 営業年限満期ニ至リ積立金アル時ハ、一同協議上、各出金高二割当テ配賦スルモノトス

第五条 積立金及賞与金ヲ引去リタル配当金一ケ年一割以上ニ当ル時ハ、一同ノ協議ヲ以テ其金額ヲ定メ、別段報酬トシテ兼松房次郎ヘ付与スベシ

第六条 商店主兼松房次郎ヘ支給スル年給ハ、一同ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムベシ

右副約ノ証トシテ正副二通ヲ製シ、正本ハ出金主ニ副本ハ兼松房次郎ニ之レヲ蔵収ス

(是亦 日附欠 以下連署省略)

明治三十二（一八八九）年

愈兼松商店ノ創立開業（於神戸栄町五丁目）

既述ノ如ク獲資頗ル困難ナリシモ、兎モ角モ確約調印ヲ得タル出資申込二万七千五百円ヲ得、自己ノ出資金七千円ヲ加ヘテ三万五千円ニ近キ資力ハ当時トシテハ相当ノ巨資ニシテ、男児一代ノ飛躍ヲ試ムルニ至ルヲ以テ店祖ハ勇躍諸般ノ準備ヲ進メ、其擡頭ノ地タル大阪ヲ離レテ貿易港タル神戸ニ開店ス可ク、古川・北村等ヲ遣ハシテ物色シタル結果、栄町五丁目五番地ニ一家ヲ賃シ、明治廿二年八月十五日ヲトシ（ママ）「濠洲貿易兼松房次郎支店」ノ看板ヲ掲グ、店祖時二年四十五、其神戸支店ト称セシハ他ニ本店アリテ然ルニ非ズ、一見其不可思議ナルガ如キモ、自己ガ従来大阪ヲ根拠トセシノミナラズ、出資者ノ關係ヨリ見ルモ神戸ハ前線ノ感アリ、殊ニ当時ハ一般ニ住居ト店舗トノ区分的感念、現今ノ如ク鮮明ナラザリシガ故ニ、大阪住宅ニ対スル神戸支店ノ意モ自ラ含マレ居リシモノト思ハル、其後数年ナラズシテ支店ノ名称ハ自然ニ廢セラレ、商店ノ名之レ

二代ルニ至ル

而シテ九月初、古川此店舗ニ移リ住シ、店祖ガ初メテ此新店舗ニ臨ミシハ九月十一日ナリシ旨ノ記録ヲ存ス

店舗ハ建坪九坪、店員ハ古川・北村ノ両名ノミ
店祖次デ居ヲ神戸ニ移ス

資ヲ合スコト数万、当時ノ財界ノ標準ヨリ見テ敢テ大ナラズトセズ、而カモ店舗建坪僅ニ九坪、
附属倉庫廿坪、左右家賃六円（廿四年三月七円ニ引上グ）、敷金弐拾円、而シテ店員ハ古川吉平
「中略」、北村寅之助「中略」ノミ、而シテ店祖ハ九月下旬、大阪ヲ引払ヒテ居ヲ神戸ニ転シタ
ルガ、其花隈ノ住宅ノ如キモ家賃又十円ニ充タズ、前日大阪実業界新進ノ名流自ラ求メテ忽チ此
陋狭ニ甘ンズ、旧知某以テ「兼松狂セリ」トシ、衷心深ク悲ミタリト伝フルガ如キ、偶以テ店祖
決意ノ片鱗ヲ見ル

出資払込ノ徴収（小口ハ早クモ渋滞）
輸出品ノ仕入レ、再渡航ノ準備

開店ト共ニ店祖ハ自己ノ出資額七千円ノ全部ヲ店勘定ニ払込ミタルハ勿論、八月末ヲ以テ第一次払込トシテ各組合員ニ対シ出資予約高ノ15%ヲ払込ムベク請求シタルガ、中ニハ早クモ渋リ勝ニテ入金後レテ十月ニ及ブモノアリ、十一月下旬ニハ第二次トシテ25%、更ラ十二月ニ入りテ20%ヲ徴収シ都合六割ニ及ビシガ、年内ニ払込義務ヲ完了セシハ住友系西村氏・藤田組藤本氏ノ巨頭ニ過ギズ、和田・牧野・難波三氏ハ第二回迄、田中氏ニ至リテハ第一回分金百五十円ヲ払込ミシノミ

其間、店祖ハ自ラ大分岡山等ノ地方ニ出張シテ花筵ヲ調査シ、岐阜名古屋地方ヲ巡回シテ雜貨陶器等ヲ研究スル等、店員等ト共ニ一面輸出品ノ仕入レト他面委託品ノ蒐集ニ勉メ、再渡濠ノ準備

八年末ニ至リテ漸ク成ル

明治二十二（一八八九）年

年末ニ於ケル商店ノ貸借対照表

左掲明治廿二年末日ニ於ケル商店ノ貸借対照表ハ、偶然旧簿冊裡ヨリ発見シタルモノニシテ、臆
 気ナガラ当時ノ状態ヲ偲バシムルモノアリ

其支店創業費トアル支店ハ神戸支店、即チ兼松商店ノ創業費ナルコト明白ニシテ、シドニー支店
 勘定トアルハ臆テ開設スベキ支店勘定ヲ設ケ、既ニ記入ヲ始メタルコト亦怪ムニ足ラズ、只其金
 額ノ内容ニ至リテハ、店租ガ Fullscap ノ該表ニ朱記セル心覚ニヨリ委托品勘定見返リノ性質ナ
 ル三千五百円弱ノ外、給料（店租分カ）六ヶ月分六百円、北村勘定（貸シ越カ）三十円、三越四
 百円、山中三百五十円、沼島（？）三百円ヲ含ミ、差引三百十七円廿一銭二厘ナルヲ推定シ得ル
 ノミニシテ、透明ヲ欠クヲ遺憾トス

〔表1参照〕

〈表1〉 明治22年12月終日 兼松商店総勘定表（残高試算表）

（単位：円）

明治二十二年（一八八九）年

借 方		貸 方	
資本払込金高	¥15,750.000	支店創業諸費	¥565.836
雑益金	65.786	什器	120.815
加賀松本佐平委托金高	504.090	給料	78.000
紀伊川端六左衛門 同上	366.450	雑費	54.540
東西商会 同上	600.000	電郵諸印税	7.300
大阪山中吉郎兵衛 同上	1,900.750	家賃及倉敷	25.400
堺藤本荘太郎 同上	62.150	臨時費	8.450
岐阜勅使河原直次郎 同上	60.462	借家敷金	20.000
		旅費	3.310
		商品仕入高	2,381.110
		直輸出諸掛	28.575
		直輸出委托品取換分	80.725
		委托品為換貸金	1,650.000
		三井銀行当座預金	5,618.816
		シドニー支店勘定	5,491.814
		大坂三井銀行別預金	2,800.000
		廿二銀行手形借勘定	375.000
			¥19,309.688

- ・ 円以下の単位は銭厘である。
- ・ 原資料には借方合計は記載されていない。

明治二十三年（一八九〇）年

店祖北村ヲ随ヘテ第二次渡濠ス、船中ノ誓約

世界ノ通商圏ヨリ猶殆ンド除外セラレ、国際金融ニ交通運輸ニ何等言フベキ機関ヲ有スルニ至ラザリシ当時ノ日本ノ商人トシテ、居ナガラ他国ニ取引先ヲ求ムルガ如キハ、到底、何人ニモ不能事ニ属ス、況ンヤ其關係ノ最モ疎隔セル日濠間ノ如キ、我商品ヲ彼地ニ送りテ自ラ之レガ販売ニ当リ、彼レノ産物ハ自ラ之ヲ購入シテ日本へ送荷販売スルニ非ザレバ、其ノ貿易ハ固ヨリ成立セズ、即チ自己ノ店舗ヲ彼地ニ設クルニ非ズンバ、日濠貿易ノ看板ハ畢竟一ノ虚名ノミ、店祖ガ出資者ニ対スル約定書第一条ニ日本兵庫及濠洲シドニー府ニ兼松商店ヲ設置開舗シト宣明シタル、固ヨリ其所ノミ

而シテ兼松商店、神戸ニ創設セラレテヨリ茲ニ五ヶ月、初回ノ輸出ニ供スベキ商品ノ仕入レ、委託品ノ蒐集等ハ其段取略整ヒタルヲ以テ、店祖ハ此年一月廿四日、北村ヲ伴ヒ神戸ヲ発シテ再ビ

濠洲ニ向フ

発スルニ臨ミ、店祖ハ纔ニ剩シ有ル自資五千〔円〕脱カヲ夫人ニ頒チテ曰ク、予今知己友人ノ忠言ヲ斥ケテ彼地ニ向フ、人事ノ成敗予メ知ル可カラズト雖トモ、幸ニ生アラバ他日ノ成功心中自ラ窃カニ期スル所アリ、遺ス所ノ資金多カラズト雖モ、爾ノ為メニ以テ数年ヲ支フルニ足ラント、正ニ之レ生別又死別ノ情ヲ兼ヌルモノ、事ニ商店ニ従フノ徒深ク店祖ノ此壯烈ナル心事ニ省ル所ナカル可ラズ

航途又北村ト相約スルモノ数条、曰ク茶ヲ廢シ水ヲ用フ、曰ク三食各一品タルベシ、曰ク乗車ヲ禁シ徒歩以テ用ヲ弁ズベシ、曰ク仲仕ノ仕事ハ自ラ之レニ当リ、人数不足ノ場合ノ外、之ヲ雇フコト無カル可シト、而シテ期スルニ着濠後三年間ヲ以テス

商店後年ノ發達、全ク此意氣ト決意ト而シテ其耐忍躬行ニ基ク、後人ノ一日モ忘却ス可ラザル所トス

シドニー支店ノ開設

斯クテ二月末シドニーニ着スルヤ、主従共ニ某下宿ニ身ヲ投シ諸街ヲ物色シテ、四月十日（1890年）No. 99 Clarence St. 一事務所ヲ賃借シテ支店ヲ設ケ、茲ニ濠洲ニ於ケル日本貿易商ノ最初ノ看板ハ掲ゲラレタリ

日本ニ於テハ時ヲ過サズ、四月廿二日、右支店設置ノ広告ヲ東京中外物価新報・時事新報・大阪毎日・大阪朝日・西京日ノ出新聞・神戸又新日報・岡山山陽日報・名古屋金城日報・豊後大分日報等ニ掲出シタリ

店祖ノ帰朝ト困難ナル内外ノ情勢、初議會召集

我財界ノ混乱不況ト出資払込難

店祖初渡濠ノ明治廿年ハ実ニ憲法ノ發布ニヨリテ、我ガ国史ニ一大時期ヲ画シタル最モ重要ナル年ナルガ、支店開設ノ当廿三年モ亦右憲法ニヨリテ初メテ帝國議會ノ召集セラレタル意味ニ於テ永久ニ国民ノ記憶ヲ逸ス可ラザル年ニ属ス

扱前項ノ如ク、支店ハ支障ナク開設セラレ、店祖ニ随行シタル北村ニ加フルニ小川ノ雇入レ、崎ノ着任等ニヨリテ外形的設備ハ一応整ヒタリト雖モ、店祖以下、元來貿易業ニ関スル經驗皆無ナルハ勿論、彼地ノ国情習慣等ニモ通セズ、殊ニ濠人ノ邦商ヲ知ル者ナク、偶之レ有レバ即チ其以前ニ渡航シタル二三ノ一時的出稼キ商人ノ不信用極マル悪印象ニ過ギサレバ、店祖等ハ先ヅ一面日本商品ノ広告ニ勉ムルト共ニ他面日本商人ニ関スル悪印象ヲ除却シ、其真価ヲ周知セシムル

ノ要アリ、其困難固ヨリ尋常一様ノモノニ非ズト雖モ、斯ノ如キハ固ヨリ予テ期シタル所ナレバ、支店開設後、一ト通りノ順序ヲ付ケタル店祖ハ北村等三名ニ支店ヲ托シ、八月十五日、一ト先ヅ帰神シタリシガ、其当時、我日本ノ經濟界ハ一兩年來企業ノ過度ナリシ反動ト前年ノ凶歎トニヨリ金利ハ昂騰シ、株式ハ暴落シ、財界甚ダシク困憊ノ折柄、偶々米國銀貨條例變更ニ基ク銀塊相場ノ暴騰 (Gains) ペンスニモ上リタリ) ハ、事実上ノ銀貨困タリシ我邦ノ輸出貿易ヲ妨ゲ、横浜ニ於ケル生糸ノ滞貨五万梱ト報ゼラル、ニ外米ハ続々輸入セラレテ、貿易ハ大々的ノ輸入超過ヲ示シ、時ノ大蔵大臣松方伯ハ東西銀行家ヲシテ大阪ニ会合シテ、財界救済策ヲ講ゼシムルトイフ、誠ニ国歩困難ノ場合ナリキ

財界ノ形勢ハ此ノ如ク非ナリト雖モ、店業ハ着々其段取ヲ進メ来リシ折柄トテ、資金ヲ要スルコト愈切ナレバ、店祖ハ不得止帰朝後間モナク出資払込ノ滞レル分ヲ督促シ、更ラニ残額ノ払込ヲ徴セント試ミタルガ、資本家ハ巨頭連ニ至ルマデ頗ル難色ヲ示シタルハ勿論、既ニ払込ノ滞レル田中・牧野・和田・難波ノ諸氏ハ何レモ滞り分ノ払込ヲ果スコトスラ之レヲ能ハズ、中ニハ没落ニ瀕スル人スラアリテ、却テ相当価格ヲ以テ払込済分ノ払戻シヲ受ケテ、此企業ヨリ脱退センコトヲ切ニ請求スルニ至レリ

初輸入ノ三重要商品 — 羊毛・牛脂・生皮

後年果シテ店業ノ根幹ヲ成セル羊毛ノ輸入ハ、由来店祖ガ日濠貿易ニ着眼ノ焦点ナレバ、同品ガ商店開業初頭ノ輸入品タルコト固ヨリ怪ムニ足ラズト雖モ、廿三年四月、シドニー支店開設直後、北村其局ニ当リ大阪毛糸会社ノ委托注文ニ係ル Scoured 羊毛百八十七俵、此斤量五万八千四百五拾壹封度ヲ最高 18 ペンス per ポンド以下取合セ、総価格三千五百七十£一志四片ヲ以テシドニー競売市場ニテ買付ケ、五月廿二日、同港出帆ノ S.S. "Chingtsu" ニテ積出シタルモノ、実ニ邦人ノ手ニテ買付ケ濠洲ヨリ日本へ積送リシ羊毛ノ嚆矢タリ

而シテ之レニ先ツコト約一ヶ月、我シドニー支店ハ四月同地発ノ S.S. "Taiyuan" ニテ Tailow 29 cks 及ビ Hides 321 P'ces ヲ買輸シタルガ、前記羊毛ト併セテ此三品ハ支店開設初年ノ商店輸入重要品ヲ形成シタリ

当時我国ニ於ケル石鹼製造業ハ猶至テ幼稚ニシテ、原料需要高ノ如キモ今日ヨリ見レバ殆ンド言フニ足ラザル少量ナリシト雖モ、肉食モ亦普及シ居ラザリシ結果、邦内ノ牛脂産出高亦微々タルモノニシテ、殊ニ他国ヨリ輸入ノ途開ケザリシ為メ、石鹼業者ノ原料需要高漸増スルニ従ヒ、之レガ供給ヲ壟断セル「中略」商人ノ為メニ常ニ其死命ヲ制セラル、姿トナリ、邦産牛脂ノ価値ハ遂ニ百斤十円ヲ超エ、甚シキハ十四五円ノ唱ヲスラ耳ニスルニ至リタリ

此情勢ヲ看取シタル商店ハ、支店設置後、時ヲ移サズ同地産 Fatlow ノ初輸入ヲ試ミシニ着価百斤九円ニ充タス、品質亦遙カニ優良且均一ナル為メ好評響々、商店ハ好利ヲ得テ、而カモ石鹼業者ハ深ク商店ヲ徳トスルノ有様ナレバ、其予約ヲ集メテ早クモ八月ヲ以テ八万ポンドノ電信返リ注文ヲ発スルニ至リ（蓋シ取引用海外発電ノ始ナルベシ）、尔来固ヨリ消長盛衰ナキニ非ルモ、三十余年ノ今日ニ至ルマデ商店輸入品中、常ニ重要ノ地位ヲ失ハズ

反之、生皮ノ試輸品ハ其成績不幸ニシテ香バシカラズ、尔来十数年ニ亘リ、或ハ品位撰定ノ方針ヲ改メ、又ハ本邦製革原料需給状態ノ変動ニ乗ズル等、手段ノ限リヲ尽シテ試輸ヲ繰返シタルモ、遂ニ根底アル取扱商品ト成ルニ至ラズ

年度商高早クモ五万円弱 — 其内容

当年度ニ於ケル商店ノ輸出品ハ、竹器・陶磁器・漆器・緞通・団扇・紙手巾并ニ多少ノ骨董品等、所謂真ノ雜貨ニシテ、輸出度数八回、才量取合セ百余屯、此価格一万余円、運賃支払高千百余円ニ過ギザリシモ、輸入ハ度数三回ニ止マリシニ拘ラズ、別項羊毛・Tallow 等ノ大口并ニ生牛皮等ナルガ故ニ元価取合セ六千余円、此邦貨約三万五千円ニ上リ（当時日本ノ幣制ハ表面金銀兩本位ナリシモ、事実ハ銀貨国ナリシ）、運賃支払高千五百余円、輸入税支払高ハ千四百円弱ヲ算シ、輸出品仕入レ高年額九千余円ニ対シ、輸入品売上高ハ三万七千余円、総取引高五万円弱ニ上ル、而シテ輸入荷為替取組高ハ四千七百余円（二万六千円弱）、輸出同上五百余円約三千円ニ止マル旨ノ統計ノ存スルニ見テ、荷為替取組ノ不利アリテ此小世帯時代既ニ無為替送荷ヲ行ヒ居リシコトヲ推知スルニ足ル

年度収支推定欠損七千円ニ近シ

収支成蹟如何ト見ルニ

神戸本店ノ収入ハ、輸入商品益千二百廿円、利息雑益各八十余円、合計千四百円弱ヲ計上セルノミ（シドニー支店ニ対シ、輸出品買次手数料ヲ付出セルハ翌廿四年ヨリノコトニシテ、当廿三年中ニ買入原価ノ俣ニテ、インボイスセンモノト見ユ）ナルニ対シ、其支出ハ給料二千余円（出資契約副約定書第六条ノ店主ニ対スル支給額ガ果シテ如何ニ取極メラレタルヤハ知ルニ由ナキモ、昨開業初年ニハ給料ヲ受ケザリシコト、年末総勘定表ニ明ナルト共二百円ノ心組ナリシヲ推スベキメモ的附記アリ、今年ノ給料支出額ヨリ見ルトキ八月百円乃至年千五百円位ヲ収メシモノト推算セラル）、旅費及ビ雑費各七百余円、家賃及借庫料二百余円、郵便電信料百余円（海外電信ノ発受ハ僅二年一二回ナリシヲ知ルベシ）等、支出ノ総計三千九百余円ニ上リテ、差引二千五百余

円ノ欠損ヲ示シ、シドニー支店ハ計表ノ抛ルベキナキモ、其推算ト覺シキ店祖自筆ノ紙片添記メモニ依レバ、大体七百餘£、即邦貨四千二三百円ノ損失ニ終リシ手答アリシモノ、如シ僅カニ開業ノ翌年ニシテ支店開設初年ノコトナレバ、内外通ジテ七千円未滿ノ損失ノ如キハ今日ヨリ之ヲ見レバ、事業創始ノ犠牲トシテ敢テ多カラザルガ如キモ、総取引高ノ15%ニ近ク、合資約定総額ノ約20%、其払込済額ノ一半ニ近キ此大欠損ガ、左ナキダニ一般不況ニ意氣銷沈セラル資本家ヲシテ其払込ニ躊躇セシムルニ至リシモ、亦故ナキニ非ズ

明治二十四（一八九一）年

大犠牲ヲ忍ンデ組合出資ノ整理刷新 — 借入金ニ変更

資金払込問題ハ其形勢ノ甚ダ非ナルコト、前年項下既述ノ如シト雖モ、出資関係ノ安定ヲ得ズンバ今ヤ企業進行ノ途ナキヲ以テ、百方苦心シタル店祖ハ遂ニ意ヲ決シテ、此年一月ヲ以テ出資未払込額全部払込方ノ正式請求ヲ発シタルニ、故障ナク之レニ応ジタルハ実ニ西村氏ノ一口アリシノミニテ、愈出資関係刷新ノ必要切ナルヲ思ハシメシカバ、一方落伍者ノ請求ヲ容レテ既払込額ニ対シ相当ノ評価ヲ以テ資金ノ払戻シヲ行ヒ、全然此共同企業ヨリ脱退セシムルコトトシ、田中氏ノ分ハ一月ニ、和田氏ノ分ハ二月ニ、難波・牧野両氏ノ分ハ四月ニ夫々解決ヲ終ルト同時ニ他方ニハ残ル所ノ住友系（約束高一万円）、西村氏（同五千円）、藤田組及藤本氏（各二千五百円）ノ出資約定高総計二万円モ、元来ノ組合出資関係ヨリ店祖個人ノ事業上ノ長期利付借入金ニ引直シ、将来ノ損失如何ニ拘ラザルハ勿論、既往ノ営業欠損スラモ全然分担ヲ求メザルコトトシ、今

後五ヶ年ヲ期シテ必ず全部返済スベキコトヲ約シ、既払込額ニ対スル払込日以後、此時ニ至ル迄ノ年六朱ノ利息マデ精算控除シテ漸ク残額ノ払込ヲ受クベキコトニ協議ヲ纏メタレバ、疾クニ払込済ノ西村氏ハ勿論、四月廿六日入金済ノ住友系（此出資ヲ従前ハ伊庭・田辺・谷三氏ノ名義ナリシガ、今回ハ広瀬氏一人ノ名トナル）ヲ初メトシ、藤田組之レニ次ギ、五月九日入金ノ藤本氏ヲ最後トシテ払込ヲ了シタルガ、店祖ハ順次入金ニ従ヒ、四債主ニ各々改メテ左例ノ如キ借入金証書并ニ副証ヲ差入レ、猶四債主相互間ノ共同進退及企業監督権ニ関シ左掲一札ヲ作成シタルガ、其内容自ラ店祖業ニ当ルノ精神ヲ語ルモノアルト同時ニ当初ノ出資締約以来ノ経過ト対照綜合スルトキハ、資金獲得ノ如何ニ困難ナリシカヲ察スルノ資料タルベシ

借入金之証 （原本ハ凡テ店祖ノ自筆）

「一 銭収入印紙」 金 壹萬円 也

右借用仕候処、実正也、然ル上ハ元金来ル明治廿九年四月三十日限必ず返済可仕候、利息之義ハ一ヶ年六歩（百円ニ付六円ノ割）ノ割ヲ以テ毎年十二月廿五日限相納可申候、為後証仍

而如件

明治廿四年四月廿六日

神戸市山本通四町目六拾四番屋敷

借主 兼松房次郎 印

広瀬 宰平殿

[印紙]

副証書

明治廿四年四月廿六日付証書ヲ以テ金員拝借仕候ハ、全ク拙者濠洲貿易業ニ従事仕度熱望ノ余、貴殿へ懇請仕、御協議ヲ得候ニ仍リタル義ニ付、各位へ対シ特ニ左ノ事項御約束仕候事

一、毎年一回（二月ヲ期ス）濠洲貿易事業ノ実況ヲ報告シ、并ニ損益決算表ヲ調製シ、之レヲ送呈可仕事

一、事業中止、廃業、若クハ方針ヲ変更シ、其他重大ナル事件ハ貴殿ノ御協議ヲ得候上、実施

明治二十四（一八九二）年

四

可仕候事

一、事業上収益多額ニ相成候節ハ、借入金ニ対シ既定ノ利足ノ外、御報酬トシテ若干ノ金員送呈可仕候事

一、事業中止、若クハ廃業セサルヲ不得場合ニ立至候節ハ、借入金元利共、期限ニ不拘返済可仕候事

一、事業又ハ計算上貴殿ノ御見込ニヨリ臨時審査ヲ受ベキ事

右副証仍而如件

明治廿四年四月廿六日

兼松房次郎 印

広瀬宰平 殿

今般兼松房次郎ノ懇請ニヨリ濠洲貿易事業ヲ賛成シ、来ル明治廿九年四月三十日ヲ期シ、各自金員貸付致候ニ付而ハ、左ノ事項御約束仕候事

一、兼松房次郎ヨリ差出セル借金証書及副証書ニ記載スル事項ヲ承諾シ、且ツ此ノ証書ニ仍リ各自区々ノ処分ヲ為サ、ル事

一、兼松房次郎ニ於テ事業中止、廃業、若クハ方針ヲ変更スルハ勿論、其他重大ナル事件ハ御協議ヲ遂ケ、其宜ニ従フベキ事

一、委員一名ヲ定メ、常ニ兼松房次郎営ム所ノ事業得失并ニ計算上ヲ審案シ、重大ナル件ハ委員ヨリ協議、若シクバ報告ヲ為スベキ事

一、各自出金額左ノ通

金壹万円

広瀬宰平

金五千円

西村帙四郎

金貳千五百円

藤田鹿太郎

金貳千五百円

藤本清兵衛

右御約束如件

明治廿四年四月廿六日

広瀬宰平

印

明治二十四（一八九二）年

四七

西村 帙四郎 印

藤田 鹿太郎 印

藤本 清兵衛 印

右承諾仕候

兼松 房次郎 印

(此聯盟証書モ全部店祖ノ自筆ナルニ見テ、逐一店祖ニ於テ膳立ヲナシ、懇請調印ノミヲ得タル成行ヲ知ルニ足ル)

計算的ニ孤立シテ店祖ノ心事一段ノ緊張ヲ加フ

資本家ノ払込難ハ前項ノ如キ犠牲ヲ忍ンデ主義ニ於テハ四月ニ解決シ、払込モ亦五月九日ヲ以テ漸ク完了シタレバ、店業ハ此日ヲ以テ資本金七千円（従来ノ資本金勘定中、店祖自身ノ出資分ナリ）ノ外、第一種（帳簿上斯ク称シタリ、五年ヲ期スル長期据置）借入金貳万円、此合計二万七千円ヲ基礎資力トスル純然タル個人事業トシテ進行ヲ続クベキコトナリ、計算上ニ於テハ茲ニ全然独立シタリト雖モ、此資本金七千円ニ対シテハ既ニ前年度繰越シノ日本側欠損貳千五百余円ガ其反対側ニ計上セラレ居ルノミナラズ、シドニー支店ノ昨年度損失額四千数百円ト推算セラレ居ル実情ナレバ、此上ノ損失ハ直ニ借入金ヲ喰ヒ込ム結果トナル可ク、不幸損失連続セシカ、債主等ハ其特約ニ基ク監督権ヲ活用シテ、何時營業ノ停止ヲ強要センモ測リ難キハ自明ノ理ナリサレバ此挙、店祖ノ心事ニ一段ノ緊張ヲ加ヘシコト察スルニ難カラズ、従来、資本ノ出所ニ関シ

テハ何等告グル所ナカリシモ、店祖モ此時始メテ原等ニ資本関係ノ概要ヲ語りテ、大ニ士氣ヲ鼓舞スル所アリシトイフ

店祖ノ第三次渡濠

斯クテ資金關係漸ク安定シ、後方勤務モ亦一応ノ段取り付キタルニ付キ、店祖ハ時ヲ移サズ、五月十九日、タイヤン号ニ搭ジテ第三次渡濠ノ途ニ上リタルガ、之レ実ニ直航船便渡航ノ嚆矢ナリシナリ（前年迄ハ日本濠洲間直通船便ナク、店祖ノ第一次第二次渡航トモ凡テ香港ニテ乗継キタルモノナリシガ、此年初メテ China Navigation Coy. ガ時折、其濠洲香港間ノ航船ヲ日本へ延長スルニ至リシモノナリ）、発スルニ臨ミ、支配人原ニ後事ヲ托ス、僅ニ「今回ノ行滞濠甚ダ久シカラズシテ帰朝スベキ予定ナリ、留守中万事宜敷」ノ数語ノミニシテ又他ヲ言ハズ、原感激死力ヲ店事ニ致スノ念、此時ヲ以テ愈堅キヲ加ヘタリト言フコト、寔ニ故ナキニ非ズ、言フ迄モナク原ハ入店以来僅ニ数月ノミ、而カモ店祖ノ一タビ人ヲ信ズルヤ、重ク用イテ疑フ所ナキ、概ネ此類ナリ

最初ノ店規

第三次渡濠出發ニ先ツ五日、店祖自ラ覚書數項ヲ執筆シテ、之レヲ店員ニ交付シ、原・古立・淺野・勝間ノ四名、之レニ署名調印ス、蓋シ店規ノ初メナルヘク、店祖營業精神ノ片鱗ヲ見ル、其全文左ノ如シ

覚書

商業ハ信義ヲ旨トシ、顧客ニ対シ我が正直ヲ表彰シ、待遇ヲ信切丁寧ニスルコト
店員ハ相協力一致シ、諸事ニ注意ノ上、忠直ニ勤務ノ事
不在中ハ指揮ヲ支配人ニ受ケ候事

長者ヲ敬ヒ、幼者ヲいつくしみ、互ニ相従携シテ店務ノ挙ラン事ヲ望
店務ノ機密ハ互ニ之レヲ他ニ漏サ、ルコトニ注意
右ハ恪守被成度、只管翼望ス

廿四年五月十五日

兼松房次郎

店員御中

明治二十四（一八九二）年

五三

店祖滞濠中ノ精励ト留守夫人ノ日勤

之レヲ当時ノ商店日記ニ徴スルニ、店祖ノ濠洲ニ渡航滞留スルヤ、同支店ノ業務画策ハ勿論、日常ノ当務常ニ多忙ナルニ拘ラズ、日本ノ各取引先、又ハ出資関係者等へ転達スベキ書信ヲ認め、之レヲ本店ニ送致スルモノ毎便常ニ二三十通ヲ下ラズ、其魂氣ト励精実ニ驚クベキモノアリ、而シテ店祖不在中ハ夫人其印鑑ヲ保管シ、連日一定時間店舗ニ出勤シテ親ラ小切手其他ノ捺印ニ当リ、曾テ怠ル所ナカリシガ、次回ノ店祖渡濠（廿六年七月）ノ末期、三井銀行等ノ取引ニハ店祖ノ実印ニ代フルニ店印ヲ以テスルニ及ビ、漸ク夫人ノ出勤ヲ廢シタリ

シドニーニ於テ小売店ノ経営

当時濠洲ニ於ケル日本商品ノ地位ハ、固ヨリ広告時代タリシヤ論ナク（当店開業ニ先チ日本ニ於ケル対濠取引商トシテハ居留外商ハンター商会ノ日本米輸出ガ稍纏リ居リシ外ニハ、デヤス商会ガ雜貨ノ輸出ヲ試ミ居リシ位ヲ算フルニ過ギザリシ）、商店ノ輸出品ノ如キモ直接彼地ノ問屋ヘ売り込ムコトハ至難ナリシカバ、一面之レガ売却ノ方法トシテ、且他面日本商品紹介ノ手段トシテ着目セラレタルヲ小売案トス

我ガシドニー支店開設ニ先チ、同市 King St. ニ小ヤカナル日本小売店ヲ営ミ居リシ邦人ヲ奥村辰之助夫妻トス

其商号 G. O. Sada & Co. ノ「定」ハ細君ノ名ニ取リタルモノナルガ、収支兎角順調ナラズ、昨一八九〇年、我ガシドニー支店開設以来、此小売店ニ対スル貸込高次第ニ嵩ミタル結果、店祖今

次ノ渡滞中、此小売店ハ其俣流レ込ミノ姿ニテ事実上商店ノ経営ニ移リ、間モナク奥村夫妻ハ勿論、其雇人タル青年大西金次郎「中略」并ニ三人ノ濠女 Sales girls モ商店ノ勘定ヨリ給料ヲ受クルニ至リシガ、其商号ノミハ最後迄旧ノ俣トシテ兼松ノ名ヲ示スコト無カリシハ、貿易商トシテ立ツベキ兼松ノ店名ヲ小売事業ニ見ハスコトハ、其品位ト信用トニ関スベキヲ以テナリ
 其後、此小売店、即チ我が支店ノ小売部ハ明治廿六年（1893）（空字）月ヲ以テ No. （空字） Pitt St. ニ移リ、更ラニ廿八年（1895）（空字）月ヲ以テ同街 No. 95 ニ転シ、相当ノ繁昌ヲ見タルモ、多額ノ売残り店曝シ品ヲ生ズルコトヲ計算スルトキハ、兎角、収支面白カラザルノミナラズ、卸売取引先トノ利害衝突ノ斟酌アリ、且邦品紹介ノ目的モ稍達セラレ、Indent 事業モ稍其緒ニ着キタルヲ以テ、三十四年（1901）末ニ至リ断然之レヲ閉鎖廃止シタリ

シドニー支店ヲ O'Connell St. ニ移ス

昨年開設当初、支店ヲ置キタル Clarence St. ハ其地区ニ流、或ハ三流ト称スベク、営業ノ不便ノ外、商店ノ業態ヨリ見テ信用上ニモ自ラ影響ナシトセザリシヲ以テ、此年八月ノ頃、店祖ハ其帰朝ニ先チ、第一流ノ地区トシテ羊毛其他ノ仕入レニモ至極便利ナル No. 8 O'Connell St. ヲ選ビテ室ヲ賃シ、支店ヲ之レニ移シタリ

当年ノ新輸入品 — 屠業雜貨・鉛及調革

鉛ハ重要ナル濠洲特産ノ一ニシテ、日本ヘノ輸入ニ関シテモ現今ニ至ルマデ常ニ主要品目ノ一タルヲ失ハズ、サレバ我支店開設ノ第二年ニ於テモ早クモ本品ニ着目シタルコト、如何ニモ自然ナルニ拘ラズ、産鉛業経営ノ主腦ガ倫敦ニ在リテ、同地ニ於テ長期契約ヲ結ビテ販売スル習慣ナル為メカ、商店ニ取りテハ苦手商品トモ称スベク、尔来三十有余年、間歇的ニ其取扱ヲ試ムルコト数回ニ止マラズト雖モ、毎回其成績思ハシカラズ、遂ニ今日ヲ俟タズシテ断念セラレタル姿ナリ

Belting Leather 毛生皮ノ縁故ヨリ此年初メテ輸入シタルモノナルガ、一時好望ノ姿ヲ呈シタル為メ広ク各新聞ニ広告スル等、販路拡張ノ為メ不尠努力シタルニ拘ラズ、今一段ノ処ニテ進マズ、結局、僅ニ数年ノ命脈ニ終リタルガ、独り牛骨・牛蹄・牛筋・膠原料（後年ニハ膀胱・牛黄等ニ

モ及ブ)等ノ屠業雜貨ハ、各自二分画スルトキハ一見微々タル商品ナルガ如キモ、集合シタル実
際ハ永ク商店ノ重要輸入品タルノ位置ヲ占メ、殊ニ当初ノ十余年間ハ屢年度収益ノ首位ヲ占ムル
ヲ見ル

東京海上ト保険契約ノ始マリ

此年四月下旬、神戸発チンツ― S.S. “Christus” 号積ヨリ輸出品ニ対スル海上保険ヲ当時其神戸代理店タリシ三井物産会社ノ扱ニテ東京海上保険会社ニ契約ス

其料率 W.A. 七十銭%ニシテ年末 20% 戻シノ特約付ナリ

其以前ノ保険ニ関シテハ何等適確ナル記録ナキモ、我邦海上保険ノ鼻祖タル東京海上モ漸ク其頃開業シタル訳ナレバ、以前ハ当然外国保険会社ト契約シ居リシモノナラン

右東京海上トノ取引関係ハ尔来三十余年ノ今日ニ至ルマテ依然トシテ渝ル所ナシ、之レ商店伝統精神ノ一面ヲ語ルモノナルト共二世間類例多カラザル所トス

鈴鹿氏我が東京代理店トナルノ端緒

商店輸入ノ濠洲牛脂ガ阪神ノ石鹼業者ヨリ意外ノ歡迎ヲ受クルニ從ヒ、漸ヲ以テ東京地方ニモ間接ニハ売行クニ至リシガ、商店トシテハ直接同地方面ニ販路ヲ開拓シ、販売高ト共ニ其収益ヲ増加スベク企図セル折柄、恰カモ同地ノ青年努力家鈴鹿保家氏ノ此商売ニ奔走セントスルニ会シ、茲ニ我が東京代理店ノ端緒ヲ開クニ至リシハ明治廿四年暮ノコトニ属ス

鈴鹿氏ハ京都ノ産、年少大坂ノ書肆青木嵩山堂ニ奉公シ、業閑苦学、志ヲ海外ニ馳スルニ至リシガ、資伴ハズシテ之レヲ果サズ、稍長ジテ同地ノ石鹼商野々村某氏ノ後援ヲ得テ東京ニ転シ、浅草橋附近ニテ小ヤカナル石鹼化粧品販売業ヲ営ミ居リシガ、曾テ原入店前相識ル所アリ、此年偶々東海道列車ニ同乗ノ節、談濠脂ニ及ビ所見一致、原ヨリ店祖ニ薦メ、遂ニ鈴鹿氏ヲ商店ノ為メ牛脂其他ノ輸入品販売中次人タルベキ約束成立セシナリ

尤モ当初ハ單純ナル注文取りノ姿ニシテ、代金收受其他取分ノ權義ヲ商店ト売先トノ直接關係タル形式ヲ採リ居リシガ、其後次第ニ代理店ノ實質ヲ具備スルニ至リ、明治廿八年ノ初頭ヨリハ商店ノ代理トシテ売買受渡代金取立等ノ凡テヲ行フニ至レリ

神戸本店ヲ栄町三丁目ニ移ス

其頃シドニー支店連年ノ収支成績ニ関シテハ、記録ノ徴ス可キモノ無シト雖モ、日本ヘノ少量ノ買送品ニ対シ定率ノ手数料ヲ収ムル以外、専ラ日本品ノ販売利益ニ拠リテ立ツ可キ同支店ノ収支ガ、開業一両年ニシテ能ク相償フガ如キハ固ヨリ予期ス可ラザル所ニシテ、毎年多少ノ欠損勘定ヲ示セシコトハ想像ニ難カラズ

然レドモ日本側ニ於テハ当年ノ収支稍見ル可キモノアリ、加之、営業量ノ稍拡大セラル、ニ連レ、当初ノ店舗ニテハ狭隘ニシテ不便甚ダシキヲ以テ、本年十二月廿五日、本店ヲ栄町三丁目三十一番地岩井文助氏持家ニ移シ、其頃ヨリ当初来ノ兼松房次郎神戸支店ノ称呼ハ次第ニ廢セラレ、事実ノ通り兼松房次郎商店、若シクハ単ニ兼松商店ノ名ヲ常用スルニ至ル

新店舗建坪十五坪、附属倉庫二、其建坪三十三坪、何レモ旧店舗ニ比シ五割強ノ増積ニシテ、家

賃ハ倉庫附月廿五円ナリシモノ、如シ

年度商量七八万円、本店総益九千余円、其内容

当年輸出商品仕入レ高ハ二万三千余円ニ過ギザリシモ、前年ノ仕入品乃至委托品等ヲ加ヘ、其積出シハ拾六回、輸出総金額参万弍千余円（此屯数五百五十余屯、運賃支払高五千三百余円）ヲ算シ

輸入ニ在リテハ、産地総原価七千弍百余円、此邦貨約四万七千円（読者ハ当時日本ニテハ金貨本位制定前ニシテ、為替相場ノ変動大ナリシヲ注意セヨ）、運賃支払高四千余円、輸入税支払高弍千余円ヲ示シ、年度売上高ハ四万八千円以上、輸出入通算約八万円ノ取扱ニ対シ、日本側総益ハ九千余円ニ上リ、次項概表ノ通り諸経費ハ勿論、前年度ノ繰越損金、創業費、什器其他ノ銷却ヲ行ヒ、猶幾分ノ利益ヲ次年度ニ繰越シ得タルハ寧口望外ノ好成绩ト称スベキモ、シドニー支店ノ方ハ計表ノ抛ル可キ無キモ、恐ラクハ前年ノ繰越損金ノ上ニ更ラニ多少ノ損失ヲ重ネタルモノナ

ラン

右輸入ノ内容ヲ檢スルニ羊毛ハ一万六千ポンド弱金額六千余円ニ減退シ、皮革ハ數ニ於テ二千百枚ニ増進セシモ金額ハ却テ千七百余円ニ減ジタルガ、独リ牛脂ハ前年輸入品ノ好評ト為替相場ノ好転トニヨリテ一躍四十余万斤約三万五千円ニ上リテ前年ノ扱高二四倍シ、又前年ニハ數十円ノ見本ヲ輸入セシノミノ調革ハ八千余呎三千余円ノ商品トナリシ外、生子鉛廿屯千五百余円、骨蹄筋膠原料等ノ屠業雜貨取合セ數屯モ亦此年ニ試輸セラレタリ、而シテ輸入商品益ノ多額ニ上リシハ年度輸入總金高ノ約七割ヲ占メ、數量式百四十屯ノ多キヲ數フル牛脂ノ好収ニ基クモノナルガ、此好収ハ積極的ニハ東京代理店設置ノ誘因トナリ、消極的ニハ石鹼工場經營ノ止ムヲ得ザルニ至ル果根ヲ作リタリ

猶当年雜益ノ法外多額ナルハ、脱退者ノ出資金切捨仮収差額ニ因ルモノト見ルベク
又利息勘定ノ膨大セルハ、出資整理ノ為メ前々年以来ノ出資ニ對シ之レヲ借入金扱トシ、当初來ノ利息ヲ積算支出シタルヲ主因トス
更ラニ給料勘定ノ前年ニ比シ著減セシヨリ推測スルニ、店祖ハ自己ノ Drawing ヲ月七十五円乃至八十円位ニ減縮シタルモノ、如シ

明治二十四（一九一〇）年

〈表 2〉 明治24年度 損益及び利益処分概表

給料	¥ 1,368	左表総益	¥ 9,452
電信郵便印紙	85	内々総損	4,780
旅費	541	差引純益	<u>4,672</u>
倉敷及家賃	320	此処分	
利息	1,887	前年度損失銷却	2,526
諸税	11	創業費銷却	873
臨時費	41	什器銷却	266
雑費	527	古川外四名滞貸銷却	908
計 総損	<u>¥ 4,780</u>	差引次年度へ繰越	<u>¥ 99</u>
輸入商品売上益	5,750		
輸出品買入手数料	889		
雑益	2,813		
計 総益	<u>¥ 9,452</u>		

本店年度損益并ニ利益処分概表

明治三十五（一八九三）年

郵船会社広島丸ヲ濠洲ニ試航セシム

此年初、日本郵船会社ハ初メテ其持船広島丸ヲ濠洲へ試航セシメタルガ、之レヲ邦船ノ日濠間航海ノ初メトス

此試航ガ次項移民ト何等カノ関聯アリシヤ否ハ知ルニ由ナキモ、尔来絶テ続航ナク、漸ク日清役後、明治廿九年ニ至リテ郵船日濠航路ノ確立セラル、マデ更ラニ約四年ヲ要シタリ

New Caledonia へ最初ノ移民

前年中、吉佐移民会社ガ締結シタル契約ニ基キ、本年初メニューカレドニアへ向ケ第一回移民ノ輸送アリ、商店ニテハ同社ノ依頼ヲ受ケテ其所要品数千円ヲ買集メテ輸送シタリ

絹手巾製造ノ自営

骨董類似品ノ輸出販売ハ、其成蹟面白カラズシテ一二年ニシテ殆ンド廃絶セシガ、小売店向キノ絹手巾ハ、輸出品目中、益其重要ノ度ヲ高メ来ルニツキ、旧臘店舗移転ノ結果、倉庫ノ便宜モ加ハリタルヲ幸ヒ原料羽二重ノ俣ニテ仕入レ、之レヲ手巾トスル加工ハ此年ヲ以テ自営ニ移シ、五月(空字)教師トシテ根岸タカ女ヲ雇入レタリ

尔来、固ヨリ盛衰アリト雖モ、此手巾自家製造ハ十年近ク継続セラレ、三十三年末、織物部廃止ノ節ニ及ビタリ

当時ノ営業広告

商店ニテハ去ル明治廿二年神戸店舗開設、店祖神戸転住、廿三年シドニー支店開設ヲ廣告セシ外、営業ヲ新聞紙ニ廣告スルコト無カリシガ、此年六月珍ラシク営業広告ヲ数種ノ新聞ニ掲出シタリ、当時ノ状況ヲ偲ブノ一助トシテ其広告全文ヲ左ニ掲ゲン

輸入品

- | | | |
|------|-----|------|
| ○羊毛 | ○丁貝 | ○鼈甲 |
| ○鉛 | ○牛蹄 | ○膠原料 |
| ○牛脂 | ○牛皮 | ○調革 |
| 其他品々 | | |

濠洲直輪貿易

神戸市栄町三丁目三十一番屋敷

兼松房次郎商店

濠洲シドニー オツコンネル街第八号

同 支店

東京日本橋区南塩町十一番地

同代理店 鈴鹿保家

購買入札、焼荷競買、組合見込等ニ浮身ヲ窶ス

当時商店ガ日濠直輸貿易ヲ以テ立ツハ論無キ所ナリト雖モ、其輸出入総額八年十萬円ニモ充タズシテ、之レニヨリテ収ムル所ノ利益、亦必ズシモ多キヲ期ス可ラズ、自然商店ハ其生存ノ確保上、輸出入以外ノ取引ト雖モ、苟クモ利アリト見レバ徒ラニ傍觀シ、又ハ回避シ居ルノ余裕ナク、殊ニ原支配人ハ見込氣頗ル強ク、混乱ニ乘シテ奇利ヲ挙クル底ノ仕事ニ趣味深キ質ナレバ、或ハ当業者ト組合ヒテ官庁其他ノ購買入札ニ参加シ、又ハ同志ヲ糾合シテ焼荷汐濡品等ノ競落ヲ試ミ、時ニ取引先ト共同シテ和脂ノ買占ヲ企ツル等、本業外ノ商買ニ浮身ヲ窶スコト尠ナカラザリシガ、此年五月、東京代理店主鈴鹿氏ノ名義ニテ東京砲兵工廠ノ鉛三十萬ポンド壺萬余円、翌廿六年六月、千住製絨所ノ牛脂三萬斤納入ヲ落札シタルガ如キハ其最モ著シキモノニシテ、或ハ大阪ノ金物商黒田某ト組合ヒテ鉛ノ見込買ヲ為シ、又ハ同地石鹼商由利某ト共同ニテ和脂ヲ買占ムル等ニ

テ、時ニ多少ノ利益ヲ挙ゲタルコトアルモ、焼棉其他ノ競落ハ多クハ著シキ失敗ニ終リ、往々年
末ノ決算ニ其手痛キ痕跡ヲ留メタリ、明治廿七年及廿八年ノ決算ノ如キモ其例ナリ

店祖ノ第四次渡濠

前年十月帰朝以来引続キ日本ニ留マルコト一年余、日本側ノ店務ハ稍其緒ニ就キタルヲ見タル店祖ハ、今ヤ其主力ヲシドニー支店ニ注グベキ時ノ到レルモノトシテ、此年十一月九日、チンツー号ニテ神戸ヲ発シ、第四次渡濠ノ途ニ上ル

年度商高前年ト大差ナキモ収支実績欠損ニ終ル

当年ノ輸出ハ約五百五十屯、価額三万七千円前後、輸出運賃支払高約六千二百円ニシテ金額ニ於テ前年ニ比シ稍増進ヲ示シタルモ

輸入高ハ仕入レ原価五千二百三十三円、此邦貨三万七千七百七十九円、輸入運賃支払高約四千六百円、関税千七百八十二円ニ過ギズシテ、一万円前後ノ減退ヲ来シタルハ羊毛ノ輸入中絶セル外、牛脂輸入高モ亦前年ノ四分ノ一二減シ、僅カニ鉛ノ三百余屯二万三千四百円ニ激増シテ輸入総価ノ三分ノ二ヲ支ヘタル有様ナリシニ因ル

而シテ収支如何ト見ルニ、前年収益ノ大宗タリシ牛脂ハ本年ニ入りテ頓ニ不振ヲ来シテ利益僅ニ五十円ニ下リ、鉛ノ利益ハ六百余円ニ過キズ、牛皮調革等ノ損失五百五十円ヲ差引ケバ輸入ハ殆んど利益ナク、輸出品買次手数料ハ三千三百円ニ激増シタルモ、雑収入五六百円并ニ前年度繰越

金約百円ヲ加ヘテ四千円前後ニ過ギズ、一方、給料及利息ハ各千五百円前後、其他ノ諸経費二千円前後ヲ要シタレバ、差引千余円ノ純損ハ之レヲ次年度ニ繰越スノ止ムルヲ得ザルニ終リタリ

明治二十六年（一八九三年）

商店設備漸次整頓セントスル折柄、濠洲大恐慌ノ襲来

商店開業以来、正二五年目、シドニー支店開設ヨリ数フレバ恰カモ三ケ年、内外収支ノ成績ハ固ヨリ未ダ芳バシカラズト雖モ、店祖以下ノ本業ニ対スル智識ト経験ハ既ニ著シク加ハリ、前途ニ対シテモ稍見当モ付キタレバ、本支店舗移転拡張ノ後ヲ承ケ、前年末第四回目トシテ着濠シタル店祖ハ専ラ心ヲ支店施設ノ整頓ニ傾ケ、此年(先字)月ヲ以テ King St. ノ小売店ヲ Pitt St. ニ移シ、日本ニ在リテハ絹手巾ノ加工自営次第ニ繁忙ヲ加ヘタル結果、倉庫二個所四五十坪ヲ増借シテ、工女ノ員数ヲ増加スル等、着々其歩武ヲ進メツ、アリシ折柄、測ラズモ大恐慌ノ濠洲經濟界ヲ襲ヒ来ルアリ、商店亦忽チ其余波ヲ受ケテ其運命風前ノ燈火ニ等シク、日濠貿易ノ第一花モ或ハ蕾ノ尻泥土ニ委セラレン危険ニ迫リタリ

先是濠洲經濟界一般ノ狀況ハ 1887 年ニハ甚不振ノ裡ニ在リシガ、翌 1888 年ヨリハ漸次好況ニ

向ヒ（店祖ノ初次渡航視察ハ 1887 年末ヨリ 1888 上半好転期ニ当ル）、1891 年（我シドニー支店開設ノ翌年ニ相当ス）ハ其頂上ニ達シ、全濠ノ輸入貿易額ハ三千八百万£ニ近ク、輸出亦三千六百万£ヲ超へ、輸出入ノ合計ハ七千四百万£ニ近ク、凡テノ点ニ於テ從來ノ記録ヲ破ルコト遠ク、翌・92 年亦其隋力ニ依リテ、輸出額ハ一割以内、輸入額ハ二割以内ノ減少ニ止マリシガ、数年来好況ノ反動ハ其翌・93 年ニ至リテ遂ニ恐慌トナリテ見ハレ（同年及翌・94 年ノ輸出額ハ何レモ三千二百万£ヲ維持シタルモ、其輸入額ハ一挙二千二百万£ニ激減シタリ）、金融ハ極度ニ逼迫シ、巨商ノ倒産相次グニ及ビ多大ノ損失ヲ忍ブモ猶商品ノ売行ナク、シドニー支店ハ徒ラニ米雜貨等ノ輸入品ヲ抱擁シテ換貨ノ途ナキニ、荷為替期日ハ容赦ナク迫リ来ルノ窮境ニ陥リ、復タ奈何トモス可ラズ

（空字）

店祖遂ニ意ヲ決シ、（空字）銀行支配人ニ面シ為替期日ノ延長ヲ求ム、説クニ日濠貿易ノ将来ヲ以テシ、此際若シ兼松躓カンカ、個人トシテハ其不運ト諦ムル迄ナルモ、此貿易ノ開拓十年ヲ遅レンコト、実ニ忍ビ難キ所ナリト熱誠面ニ溢レ涙滂沱タリ、銀行支配人之レニ動カサレテ相当ノ延期ヲ諾シ、店運辛クモ事無キヲ得タリ

翌年、店祖ノ此行ヨリ神戸ニ帰ルヤ、弊衣破靴頭髮頓ニ白ヲ加へ齒牙ノ脱落著シク、迎フル者ヲシテ当時ノ慘状ヲ偲バシメ、涙ナキ能ハザラシメタルハ兼松濠洲翁ニモ詳述セル所ナリ

石鹼工場鍵栄堂ノ経営

廿三年、シドニー支店開設後兩三月ナラズ、早クモ数樽ノ試送ヲ以テ初メテ濠洲牛脂ヲ日本ニ紹介シテ意外ノ好評ヲ博シタルニ端ヲ發シ、同年度ノ Tallow 輸入高六十数屯ハ翌廿四年ニハ忽チ二百四十屯トナリ、商店ノ収益亦数千円ニ上リシガ、其翌廿五年ニ至リテハ外商ノ之レニ倣フ者ノ競争ヲ受ケ、且為替相場ノ変動モ兎角不利ナリシ上、和脂商ガ其価格ヲ引下ゲテ之レニ對抗セントスルアリ、為メニ商店ノ輸入年額ハ忽チ五十屯ニ下リ、当廿六年ニハ更ラニ下リテ廿屯ニモ充タザルノ悲境ニ陥リシ折モ折、先年来、商店売込先ノ首位タリシ大阪ノ石鹼製造業鍵栄堂（石鹼界先覚者ノ一タル神戸播磨幸七氏工場ニ多年勤メタル後、阪地ニ独立シタル萩原辰造氏ノ経営）ハ此夏遂ニ整理ヲ發表スルニ至リ、順繰数千円ノ貸売尻ヲ有シテ唯一ノ大債権者タリシ我が商店ハ、結局、其工場設備一切ヲ取押へ、自己ノ計算ヲ以テ同工場ヲ経営スルノ止ムヲ得ザルニ

至リタレバ、此年六月、西嘉平二「中略」ヲ雇入レテ之レヲ担当セシメ、自然必要ニ応シ、更ラ
ニ一二十千円ノ追加投資ヲモ決行セシガ、相当売込ミタル商標等モアリテ業績悪シカラズ、経営一
年有半ノ後、翌廿七年十一月、工場等一切ヲ野々村某氏ニ売渡シタル結果、幸ニ従来ノ債権額及
追加投資額ヲ完全ニ回収シ得タル上、八百余円ノ利益ヲ剩シ、以テ金利ヲ償ヒ得タルハ整理ノ結
末トシテハ実ニ上乘ノモノナリシト称ス可シ
斯クシテ、西ハ右廿七年十一月引渡シ後ハ、輸入営業係トシテ古立ノ同級上席ヲ以テ神戸本店ニ
従事スルコトトナリタリ

輸出商品見込ミ値増シ勘定ノ妙（？）計

次項年度業績概評ニ見ハル、ガ如ク、本店ハ当年ノ輸出総額三万三四千円ノ小額ニ依リテ、千二百円ノ輸出手数料ヲ収メタル外、別ニ輸出品見込値増シ勘定ノ名ヲ以テ約三千五百円ヲ利益勘定ニ持込ミ居レルガ、其由来ヲ検スルニ、シドニー支店ガ兎角本店ノ仕入レ原価ニ率セラレテ売値ヲ定ムル傾アリテ、如何ニ割安ノ仕入レ品ニテモ、其真価ヲ解シテ充分ニ値売リスルノ鑑識ト用意トヲ欠クトノ理由ノ下ニ、割安ノ仕入レ品ニ付テハ買入レ価格ニ拘泥セズ、本店ガ適當ナル価格ト思フ程度迄値増ヲ行ヒ、其価格ヲ以テ支店へ Invoice スルコトトシタル結果、本店ノ仕入レ値段ト支店ニ対シ Invoice シタル値段トノ差ガ即此輸出品見込値増シ勘定ニ累積セラレタル次第ナルガ、本店ト雖モ神ナラヌ身ノ市価外レノ割安品ヲノミ仕入レ得ル訳ニモ非ザル可ク、総輸出高ノ平均一割以上モ割安買ヲ行フガ如キハ到底望ミ難キ所ナレバ、此値増シ差額ハ之レヲ

仮想利益ト称スルスラ猶根底ノ甚薄弱ナル次第ニシテ、之レヲ堂々損益勘定ニ繰込ムガ如キハ、随分大胆ナル遣リ口ニ出デタルモノナリト驚カザルヲ得ズ

猶此妙案利益勘定名ガ損益計算ニ見ハレ居ルハ、当年ヲ以テ初メトスルモ、当年ノ輸出手数料ハ千二三百円ナルニ、大体似寄り額ノ輸出ニ過ギサリシ昨廿五年ノ手数料収入ガ三千三百円ノ多キニ上レルヲ見レバ、此前年ノ手数料ノ過半ハ手数料ニ非ズシテ、此見込値増シ金ナリシコトヲ推測スルニ難カラズ

年度商量ハ前二年ト同調、収支成蹟ハ見直ス

羊毛ノ取扱ハ復活シテ、当年ノ輸入ハ五万余ポンド一万七千余円ヲ示シ、鉛ハ五十屯四五千円ニ、TALLOW ハ僅々十七八屯二千円未滿ニ減退セシモ、一兩年来試輸ノ牛蹄筋等屠業雜貨ハ取合セ約二百屯八千円弱ニ、Belt Leather ハ二万四千余呎六七千円ニ何レモ急増シ、其他雜品三千余円ヲ合セテ總計産地原価五千二三百£、此邦貨四万二三千円ニ上リ、輸出ハ才量約六百五十屯、金額三万三四千円ヲ算シ、輸出入通計約七万六千円ニシテ前二年ト大差ナシ

而シテ収支如何ト見ルニ、前記屠業雜貨ノ収益ハ意外ノ高率ヲ示シテ約三千四百円ニ上リ、外ニ羊毛ノ四百円、鉛ノ百余円、牛脂ノ百円弱、帶皮ノ五十円等、輸入総益四千百余円、輸出手数料千二三百円、内地売買益千余円、雜収入六百余円等、収入總計七千余円ノ内ヨリ給料千六百余円、利息千七八百円、其他諸経費二千二三百円ヲ支出シ、猶前年度繰越損金千余円ヲ銷却補填シテ、

猶且三四百円ノ純益ヲ剩シタル上、前項説明ノ輸出品見込値増シ収得三千五百円ヲ併算シテ、都合三千八九百円ノ純益ヲ翌年ニ繰越スニ至リシハ、数字上ヨリハ一見創業以来ノ好成績ナルモ、実ハ極メテ無理ナル決算ナリト評セザル可ラズ

猶前文内地売買益千余円ノ一半ハ、和脂ノ売買益四百余円ハ外商輸入濠脂ノ取次売買差益ニ属シ、多数石鹼業者ト密接ノ関聯アル商店独得ノ立場ヲ活用セシ結果ト見ル可キモ、残ル百円ガ茶鉛遭難品ノ競買益ニ属セル事實ハ、当時商店当局ガ業績ヲ挙グルニ急ニシテ、苟モ利ノ存スル所、商賈ノ種類如何ヲ問フノ余裕ナカリシヲ示スト共ニ、又以テ当局商賈流儀ノ一端ヲ見ハセルモノトモ見ルヲ得ベシ

明治二十七年（一八九四）年

臨時決算ヲ行ヒ店員等ニ創業来初回ノ賞与ヲ給ス
店租金三千円ヲ追加投資シ資本金ヲ一万円トス

滞濠一年有余、汽船 S.S. "Memuir" 号ニテ本年二月廿一日、三年目ニテ帰朝セシ店租ヲ同月末
ヲ以テ神戸本店ノ臨時決算ヲ行ヒ、滞リ貸其他一二ノ雜勘定ニ整理ヲ行ヒタルモ、猶克ク四千余
円ノ利益（昨年末ノ繰越利益ヲ算入シテ）ヲ計上シ得タル結果、其内二千円ヲ積立金ニ振替へ、
残ル二千余円ノ一部ヲ割キテ原以下店員全部ニ臨時ニ創業以来初メテノ賞与金ヲ支給シ、其残額
ハ一旦之レヲ取得スルト同時ニ他ノ資源ト併セテ改メテ三千円ヲ支出シテ店業ニ投資シ、従来ノ
七千円ヲ加ヘテ商店ノ資本金ヲ一万円ニ増額シ、右積立金二千円、通算正味資力一万二千円ヲ以
テ一層營業ノ進展ヲ期スルコトトシタリ
時ハ明治廿七年三月ニシテ、日清開戦ニ先ツコト約半年ナリ

尤モシドニー支店第二年以後ノ収支成績ニ関シテハ、依然トシテ何等抛ル可キノ資料ナシト雖モ、店祖ガ同地ヨリ帰朝ノ直後ニ前文積極的処置ヲ取リタル事実ニヨリテ察スルニ、支店モ其開設後既ニ四年ヲ経、大体ニ於テハ其収支稍権衡ヲ保チ得ルノ域ニ進ミタルモノト想像スルコト至当ナル可シ

猶上記決算ノ数字ニヨリテ、店祖ガ例ノ輸出品見込値増シ金ノ利益計上ヲ認メタルコトモ、亦想定シ得ベシ

海岸通三丁目ノ建物附地所ヲ購入シテ之ニ移ル

輸出絹手巾ノ製造自営ニ引続キ、嵩高ナル屠業雜貨類ノ輸入ヲ開始シテ以来、倉庫面積ヲ要スルコト次第ニ多キヲ加へ、昨廿六年ニハ倉庫四ヶ所約八十坪ヲ賃借シテ猶其狹隘ニ苦シミ居リシ折柄、当春増資後一ヶ月ナラズシテ、後藤勝造氏ノ斡旋ニ依リ海岸通三丁目ニ番屋敷ヲ購入シテ四月早々登記ヲ了シ、多少ノ手入レノ後、五月廿七日ヲ以テ本店ヲ之レニ移スニ至リタルハ、店祖ノ英断ナリシト共ニ又商店ノ一大幸運ナリシコトヲ失ハズ

蓋シ同所ハ廿九、三十ノ両地番ニ跨リ、地積合計二百四十数坪ヲ算シ、二階建家屋一棟（階下四十三四坪、階上三十四坪）ノ外、二階建一棟、平屋建五棟、合計百四十余坪ノ倉庫ヲ有シ、古シト雖モ商店事務ノ処理場ト貨物ノ吞吐設備トシテハ充分ナルノミナラズ、其買入総価格（勿論地所及建物也）一万三千百五十円ハ當時トシテモ格安ナリシガ、間モ無ク日清戦役後ノ不動産価格

暴騰ノ結果、其担保価格ヲ忽チ倍蕪シ、商店ノ金融資料トシテ実ニ多大ノ貢献ヲ為スコトトナリ
タレバナリ

日清戦役ノ勃発

此年六七月ノ頃、朝鮮ニ東学党ノ叛乱ヨリ延キテ日清両国間ノ形勢次第ニ險悪ニ向ヒシガ、八月ニ入りテ遂ニ宣戦ノ大詔喚発セラレ、交戦約八ヶ月ニ亘リシガ、我艦隊ノ敏速ナル行動ニ開戦初頭ニ於テ早クモ制海権ヲ我手裡ニ収メタレバ、商店ハ戦時ヲ通シテ安ンシテ其業ニ従事シ得タルノミナラズ、戦勝ノ余光ハ外ニ在リテハ日本品ニ対スル購買欲ノ著進トナリ、内ニ在リテハ各種産業ノ勃興ヲ来シタレバ、当店ノ商量ハ戦後急激ナル増進ヲ示シ、間モナク商店史中、正二一時期ヲ画シタルノ觀アルニ至リタリ

賞与ニ関スル店祖ノ宣言

廿四年五月、第三次渡濠ニ臨ミ店員ニ訓示スルニ、当務接客ノ心得数項ヲ以テシタル外、店祖ハ店員等ニ対シ、特ニ何等ノ規矩ヲ加ヘザルモノ数年、此年十月、僅カニ出勤・退出・食事時限・事務処弁等ニ関スル数項ノ達示ト共ニ「店員ハ謹直方正ニシテ礼節ヲ守リ、互ニ信義ヲ尽シ、敢テ不遜不行跡ノ挙動アル可ラズ、又來賓ニ対シテハ最モ丁寧信実ニ待遇シ、無礼ノ振舞ヲ為スベカラズ」ト曩日ノ戒飭ヲ累ネタル外、何等規則ラシキモノヲ設ケザリシニ拘ラズ、事業稍其緒ニ就クノ兆ヲ認メタル店祖ハ、早クモ此年末ヲ以テ賞与金支給ノ根本主義ヲ決シ、之レヲ店内ニ宣布セリ、之レヲ以テスルモ店祖ガ如何ニ店員ニ対スル利益ノ分配ニ関シ、意ヲ用フルコトノ深カリシカラテ窺フニ足ル可シ、規定ニ曰ク

店員ノ賞与金ハ神戸本店総勘定純利益金高ノ百分ノ十ヲ附与ス

賞与金ハ一ケ年一回トシテ毎年十二月ニ付与ス

満十年勤続ノ者ハ其勤務上ノ功績等ヲ査案シ、金三千円以内、適宜ノ金額ヲ賞与トシテ付与ス

勤務中特ニ著大ノ功労アルモノハ、臨時賞与トシテ相当ノ金額ヲ付与スルコトアルベシ
勤務中自己及商店ノ都合ニヨリ解任スルモノハ、詮議ノ上、相当ノ慰労金ヲ付与スルコトアルベシ

勤務中不都合ノ行為アリ、商店ヨリ解任セラル、モノハ、通常賞与金ハ勿論、勤続賞与等ノ沙汰ヲ停止ス、但シ解任セザルモ一時賞与ノ申渡ヲ中止スルコトアルベシ
純利益少額ナル場合ニハ、賞与ヲ配当セザルコトアルベシ

右相達候事

店主 兼松房次郎

年度商量一躍十万円台ヲ突破ス

前年濠洲ノ經濟界ヲ襲ヒタル一大恐慌モ漸ク沈靜シ、物資ノ需要稍快復セシト商店ノ手順稍整備セシト両々相俟チテ、本年ノ商店輸出量ハ七百七十屯弱、此金額五万四千余円ニ著増シ輸入ニ在リテモ、羊毛ハ七万五六千ポンド參万円弱ニ著増シ、屠業雜貨ハ膠原料ヲ筆頭トシテ取合セ二百屯弱ト數量ハ前年ト大差ナキモ、金額ハ一万一二千円ニ、*Belt Leather* ハ二万四千余呎一万余ニ、*Tailow* ハ約三十屯六千五六百円ニ、鉛ハ約六十屯五千余円ニ夫々前年ニ比シ相当ノ増進ヲ示シ、前年皆無ナリシ生皮ハ約三千円ノ輸入ヲ算シ、其他雜品四千円ヲ數フル等、總計原価七千三四百£、此邦貨七万円ヲ超ユ

輸出入合計十二万五千円ニ近ク、兩三年來ノ金額ニ比スレバ約三分ノ二ヲ加ヘタリ

年度収支差引利益約一万二千元、其内容

年度収支ノ概数ヲ表示シ、二三説明ヲ試ミンニ

〔表3参照〕

前表ノ通りニシテ、実資力ノ総額、即十割ニ近キ利益ヲ挙げ得リシハ非常ナル好成绩ニ相違ナキモ、例ノ輸出品見込値増シト新タニ開始シタル対シドニ一支店付出シ利息トノ合計ガ同純益ノ三分ノ二ヲ占ムルノ点ニ見テ、聊カ前門ノ固メハ威風堂々タルモ、後門ハ甚ダ備ヘナキノ嫌ナキ能ハズ、一ハ斯クシテ支店ヲ鞭撻督励スルノ意味モ存セシナランモ、其支店ノ収支成績不明ノ俣ニ打棄テ置キテハ、本店ガ如何ニ人為的好蹟ヲ挙グルモ詮ナカルベシ

果然、明治三十一年ニ至ツテ始めテ明カニサレタルシドニ一支店ノ業績ハ数万円ノ損失ヲ示シ、一大整理ノ止ムヲ得ザルニ至リシガ、而カモ此程度ニテ済ミ居リシコトハ仕合ト評セラレザルニ非ル可シ

明治二十七年（一九一四年）

〈表 3〉 明治27年度 収支概表

輸入益内容		総損益内容	
委托羊毛手数料	¥ 2,100	左表輸入商品純益	¥ 8,000
委托外羊毛利益	550	内地売買益(牛脂麻袋)	300
Belt leather ヶ	950	輸出品見込値増シ	6,050
牛骨 ヶ	600	" 買次手数料	2,200
牛蹄 ヶ	800	輸出運賃割戻シ取得	800
膠原料 ヶ	1,000	雑収入	1,000
牛筋 ヶ	300	鍵栄堂清算利益	850
雑品 ヶ	2,800	シドニー支店へ付出シ利息	1,800
小計	9,100	総計	¥ 21,000
内 牛脂損失	900	左表総経費	9,250
鉛 ヶ	200	差引純益	¥ 11,750
差引 輸入品総益	¥ 8,000		
総経費内容			
利息	3,400		
給料	2,200		
旅費	1,000		
其他ノ諸経費	2,650		
合計総経費	¥ 9,250		

年度利益金ノ処分、資本金ニ対スル初配当

店祖ハ前項ノ利益ヲ

前表利益金総額	¥	11,750
内 棉損失準備引充金	¥	1,500
地所家屋銷却高		850
毛糸会社株券損失銷却		750
什器勘定銷却		150
此四口合計		3,250
差引純益		8,500

此処分

積立金へ	¥ 6,000
資本ニ対スル利益配当 15%	1,500
内外店員賞与金	1,000
	8,500
	0

前表ノ如ク処分シ、創業以来六年目ニシテ初メテ其投資ニ対スル正式ノ利潤配当ヲ収メ（当春二月臨時決算資力整備ノ際二千余円ノ一部ヲ自己ニ収メタルモ、之レハ臨機ノ処分ニシテ正当ナル利潤配当ト称シ難シ）タルガ、不動産相場ノ昂騰時代ナルニ拘ラズ、当春購入シタル計リノ不動産ニ対シテ銷却ヲ行ヒタルヲ始メ、其他ノ諸銷却ヲ行フ等、処分振りハ如何ニモ堅実ニシテ決算振りトノ間ニ大差アルヲ認めザルヲ得ズ

斯クテ積立金ハ八千円トナリ、実資力ハ十ヶ月前ニ比シ忽チ五割ヲ加ヘタル次第ナルガ、前表中棉損失云々ハ例ノ原支配人得意ノ Salvage Cargo 競落品ニ因スルモノナルヲ知ル

明治二十八年（一八九五）年

生命保険業代理店ノ引受、附其終末

前年九月創立セラレタル仁寿生命保険合資会社ヨリノ交渉ニ応シ、商店ハ此年一月、同社ノ神戸代理店ヲ引受ケ、本業ノ傍ラ生命保険契約ノ普及ニ尽力スルコトトナリ、其収入ハ当初年ノ百円未滿ヨリ漸進シテ後ニ八年三四百円ニ上リタルガ、三十三年八月、同社ハ神戸ニ直営ノ代理店事務所ヲ開設シ、従来当店取扱ノ事務ヲ之ニ移シ、会社自ラ其責ニ任スルニ及ビ、尔後代理店名義ノ報酬トシテ同社ハ商店ニ年額百円ヲ贈ルコトノ契約成立セシガ、越テ三十五年一月、同社ガ該事務所ヲ閉鎖スルニ及ビテ、此關係ハ全ク終滅シタリ

店祖夫人ノ参加投資五千円ヲ加ヘテ資本金ヲ一万五千円トス

本年ニ入りテハ戦役ノ好影響ニテ商量著シク増加ノ形勢ヲ示シ、店業ノ前途モ一層見拓ノ付クト共ニ資力整備ノ要切ナルヲ以テ、店祖ハ此年七月、夫人ノ殆ンド唯一ノ資産タル整理公債証書額面金五千円ヲ商店ニ出資セシムルコトトシ、以テ資本金ヲ一万五千円ニ増額シタリ

但シ此五千円ハ店祖曩日其全資力ヲ傾ケテ本業ヲ開始シ、戦士孤剣敵陣ニ突入スルノ慨ヲ以テ渡濠スルニ際シ、夫人ノ為メニ頒チテ其万一ニ備ヘタル資金ガ曾テハ大阪鉄道社債トナリ、其償還ニ及ビテ整理公債ニ變形シタルモノニシテ、其間終始商店ニ借入レ、金融上ノ担保ニ供セラレ居リシモノナレバ、借用担保品ガ資本金ニ変名シタルニ止マリ、融通力ノ点ヨリ見レバ今回ノ増資ハ敢テ著シキ効力無キモノトス

店員談話会ノ創設、附其終末

店員漸増ノ趨勢ニ鑑ミ、原支配人主唱ノ下ニ店員相互間ノ意思疎通、店務処理上ノ利害討究等ノ機会ヲ作り以テ商店并ニ店員各自ノ福利ヲ増進スルノ目的ヲ以テ、此年六月、店員談話会ヲ組織シ、会則十三ヶ条ヲ定メ、原ヲ会長トシ、十八才以上ノ従務員ヲ会員トシテ毎月一回開催ノコトニ決シタルガ、事実上、隔月乃至三ヶ月一回位ノ開催トナリ、且多クハ会長ヨリ諸般ノ注意ヲ与ヘ、又ハ訓示ヲ為スノ会合ニ傾キシコト、何時ノ時代ニモ多クハ然ル所ナリト雖モ、時ニハ店員側ヨリ提案ヲ見ルコト無キニ非ズ、殊二年一回位ハ店祖ガ会長ノ請ヲ容レテ臨席シ、或ハ商店ノ精神ヲ談シ、或ハ自家ノ経験ヲ語り、或ハ又店員協力ノ必要、華客待遇ノ心得、修身濟家ノ要旨等ヲ説ク等、青年店員ノ指導激励、新入店者ノ店風同化ニ貢献スル所尠カラザリシガ、後年次第ニ回数ヲ減シ、三十四年九月、約第三十回ヲ開キタルヲ最後トシ、商店大改革ノ影響ヲ受ケテ自

然消滅ノ運命ニ陥リタリ

規則制度ノ形式漸ク備ハル

従務員ノ漸増ニ従ヒ、店規ノ形式漸ク繁ク、此年六月

職務章程ヲ定メ、職員ヲ店長・支配人・副支配人・手代及雇員ニ分チテ各其責任ヲ規定シ

事務章程ヲ以テ、事務ヲ総務部・輸出部・輸入部・会計部ニ四分シ、総務部ニ庶務・保険ノ二係ヲ、輸出部ニ物品審査・絹手巾ノ二係ヲ、輸入部ニ販売係ヲ、会計部ニ計算・簿記ノ二係ヲ置キテ各部係ノ分担ヲ定メ、且ツ

營業目的ヲ（一）輸出商品購買、（二）輸入商品販売、（三）委託売買、（四）保険事業ノ四目トシ、「右課目外ノ事業ハ一切取扱ハザルモノトス、但シ課目外ノ商品ニシテ若シ取扱ヲ要スル場合ニ於テハ篤ト其得失ヲ審考シ、店長ノ指揮ニ依リ、之ヲ定ムベシ」ト規定シ、猶

店則追加トシテ「機密ニ係ル書類ハ総テ會計主任之ヲ保管スベシ」「店務ニ係ル電報及ビ通信類

ハ店長支配人及會計部主任ノ外、之レヲ披展スルコトヲ許サズ」等ノコトヲ達示シ、更ラニ支配人ヨリ（一）勤務時間ノ内外ヲ問ハズ、出先ヲ明カニシテ不時ニ備フルコト、（二）当宿直ヲ嚴重ニスルコト、（三）店舗倉庫等ノ営繕責任者ノコト、（四）臨時兼務ニ関スルコト等、服務心得数項ヲ加フルナド、法令漸ク繁ク官僚的形式ノ大ニ備ハルヲ致シタルガ、外形徒ラニ燦然トシテ、精神却テ散漫タルノ弊ニ陥ラズンバ幸ナリ

年度商量十七万円ニ増進ス

本年ノ輸出ハ才量七百六十屯弱ニシテ些少ナガラ前年ヨリ下レルモ、価額ハ却テ著増シテ七万円ヲ超エ、輸入ハ原価一万余£、此邦貨額十万円ニ垂ントシテ、輸出入ノ合計ハ十七万余円ニ上リ、前年ノ数字ニ対シ三分ノ一以上ノ増進ヲ示シタルハ、一ハ戦勝ノ好影響ニヨルト雖モ、銀価ノ騰貴ニヨリ邦貨額ノ膨張シタルニ基ク所亦少ナカラズ、而シテ此年ニ於ケル日本ノ総貿易額ニ億六千五百余万円ニ対比スレバ、右十七万円ハ実ニ一万分ノ六半弱ニ当ル

右輸入中、羊毛ハ一躍廿万ポンドヲ抜キテ六万七千八百円ニ上リタルモ、屠業雜貨ハ二百余噸一万二三千円、Tallow ハ約五十屯一万円弱、牛皮(生)ハ一万三千斤四千余円ヲ以テ停額ノ状態ニ在リ、Belt Leather ハ八千余呎二千四百円ニ減ジ、鉛ハ遂ニ其跡ヲ絶チタリ、蓋シ本品ハ其商買極メテ Keen ナルニ、商店ハ為替取組并運賃特約等ノ点ニ於テ、外商ニ對抗シ能ハザル点多カ

リシニ因スルガ如シ

年度収益一躍二万余円、其内容并ニ処分

年度収支ノ概数ヲ表示スレバ

〔表4参照〕

前表ノ通りニシテ、輸出品見込値増シ収入ノ依然大ナルコトモ、利益処分振りノ健実ナルコトモ前年ト異ナラズ、棉損失ノ千数百円ニ上レルハ前年ノ引差金千五百円ヲ以テシテ猶大不足ヲ告ゲタルヲ知ルベク、シドニー支店へ付出シ利息六千円ニ近キ巨額ニ上レルコトハ寧ろ驚ク可ク、其計算ノ基礎ヲ知ルニ苦ム

店主勘定銷却ノ一項ハ此決算ニ初メテ見ハレシ所ニシテ、今次ノ銷却ガ其一部ナリシコトヲ証ス

ル文字アルニツキ、店祖個人ガ商店ヨリ借り越シ高ノ右金額ニ止マラザリシヲ推定スルニ足ルモ、其金額ト性質トヲ知ルニ由ナシ

〈表4〉 明治28年度 収支及び利益処分概表

羊毛	¥ 9,400	左表純益	¥ 22,300
屠業雑品	5,950	内	
Belt leather	900	地所家屋銷却	800
Tallow	500	什器	150
All others	500	店主勘定ノ内	1,450
輸入商品利益	¥ 17,250	差引	¥ 19,900
輸入商品利益	¥ 17,250	此処分	
内地売買益（牛脂）	150	積立金へ	16,000
輸出手数料	4,050	資本配当10%	1,500
輸出品見込値増シ	7,750	（店主 1,000）	
仕入商品値引金	1,500	（夫人 500）	
シドニー支店へ付利足	5,800	店員賞与金	2,400
雑益	600	計	¥ 19,900
合計	37,100		
棉損失	700		
原負担同上	600		
寒天損金準備	400		
此三口計	1,700		
差引	35,400		
利息	6,100		
給料	2,900		
旅費	1,200		
其他	2,900		
総経費	13,100		
差引純益	¥ 22,300		

明治二十九（一八九六）年

羊毛輸入税ノ免除運動成功ス

商店創業前後ニ於ケル本邦毛織工業ハ至テ微々タルモノニシテ、官立千住製絨所ノ外、民間事業トシテハ東京市外王子ニ東京製絨会社、同大井ニ後藤毛織製造所アリシノミニシテ、大阪市外伝法ノ大坂毛糸会社ハ漸ク明治廿五年四月試運転ヲ為シタルモ、社歩頗ル困難ニシテ、間モナク大改革ヲ要スルニ至リ、廿四年ニ開業セル東京毛糸会社モ亦振ハズ（毛斯倫業ノ嚆矢タル毛斯倫紡織会社ガ大阪ニ創立セラレタルハ廿八年後半ノコトニ属シ、東京モスリン会社及ビ日本毛織会社ノ成立ハ明治廿九年ニ在リ）

如此ハ本邦民度ノ猶低クシテ、毛織物ノ需要普及セザルコト并ニ当業技師ノ幼稚ナルコト等ニモ由ルト雖モ、而カモ毛織物ノ輸入額ハ甚ダ少ナカラザルヲ思ヘバ、其原料タル羊毛ニ対シ、従価5%ノ輸入関税ノ課セラレ居ルコトガ、我毛織工業発達ノ大障害ナルコト固ヨリ明白ナリトノ見

地ヨリ、羊毛輸入税免除ノ必要ヲ痛感シタル店祖ハ、廿八年十二月、先ヅ東京製絨会社ノ首脳宮部久・同敏功両氏并ニ後藤恕作氏等ニ諮リシニ何レモ熱心ナル賛意ヲ表シ、羊毛免税建議ヲ第七帝国議会ニ提出ス可ク、店祖専ラ其局ニ当ルコトナリ、直ニ大阪毛糸会社其他各当業ノ調印ヲ纏メ各種ノ資料ヲ整ヘテ、当局官憲ハ勿論、両院議員等ニ請願誘説ノ結果、廿九年三月初、松尾寛三・鹿島秀麿・田口卯吉等諸代議士ノ署名ヲ以テ輸入羊毛海関税免除法律案ヲ衆議院ニ提出スルノ段取ヲ進ムルト同時ニ、或ハ各地商業會議所ヲ動カシテ夫々賛成運動ヲ起サシメ、或ハ有力ナル諸新聞ニ社説トシテ賛成意見ヲ発表セシムル等、極力其通過ニ努メタル効空シカラズ、同案ハ三月十九日衆議院ヲ同廿五日貴族院ヲ通過シ、同月三十日法律第五十四号ヲ以テ「外国ヨリ輸入スル羊毛ハ明治廿九年四月一日ヨリ海関税ヲ免除ス」ル旨公布セラレ、本邦毛織工業ノ為メニ一転機ヲ作りタリ（棉花モ同時ニ免税セラル）

当業者等深ク之ヲ徳トシ、東京製絨会社社長宮部久、大阪毛糸会社社長松本重太郎、後藤毛織物製造所長後藤恕作、日本毛布製造会社専務後藤恕作并ニ大倉喜八郎諸氏ノ名ヲ以テ感謝状ヲ店祖ニ贈リ、添フルニ石川光明作牙彫牝牡羊ヲ以テシタリ

又東京モスリン会社取締役会長松村甚兵衛氏ヨリ別ニ謝意ヲ表シテ金盃一組ヲ贈リ来リシハ、恰カモ此年三月漸ク創立セラレタルノミノ同社ガ、当初来、行動ヲ共ニスルニハ間ニ合ハザリシガ故ナリ

出資変形借入金ノ返弁、資本的独立

当初組合營業ノ実質ヲ以テ出發シタル商店ノ事業モ二年ナラズシテ、廿四年春、出資者ノ大整理ヲ余儀ナクセラレ、残ル住友家以下ノ出資二万円ハ之レヲ利付借入金ニ改メタル結果、計算的立場ヨリ見レハ固ヨリ純然タル店祖ノ個人企業トナリタルモ、猶資本的ニハ完全ナル独立ノ立場ニ非ザリシガ、尔来滿五年ヲ經過シ、殊ニ最近兩三年ハ業績稍好調ニ向ヒタル結果、当年初ノ商店実力ハ一万五千円ノ資本ノ外ニ貳万四千円ノ積立金ヲ擁スルニ至リタレバ、店祖ハ本年四月下旬、当初ノ約束ニ基ク五ヶ年ノ期限ヲ誤ラズ、約定ノ利息ノ外、別約ノ精神ニ基キ5%ノ特別利息ヲ添付シテ借入金元利金額ノ返済ヲ完了シ、五月十六日ヲ以テ大阪平野町堺卯ニ盛宴ヲ張リテ、出資者其他創業以來好意ヲ受ケシ人々ヲ招キ謝意ヲ表シタリ

其案内ヲ発セシ顔触レハ

住友吉左衛門

広瀬宰平

伊庭貞剛

田辺貞吉

谷勘治

藤田伝三郎

久原庄三郎

藤田小太郎

藤本清兵衛

藤本清七

河原信介

王手弘道

桑原深造

寺村富栄

大藤高敏

難波二郎三郎

大沢大輔

(西村氏ハ当時既ニ東京ニ転勤後ナリシ)

ノ諸氏ニシテ、其案内状ハ

謹啓仕候、益御清穆敬賀之至ニ奉存候、陳ハ先年日濠直貿易開始之際及其尔来トモ浅カラザル御懇情ヲ蒙リ、不堪感佩茲ニ貴君ノ御高儀、謹而奉拝謝候

右御挨拶申上度旁甚粗末ノ晚餐ニ候得共、奉呈進度候ニ付、来ル十六日午後五時、平野町塚卯楼へ御光臨ノ栄ヲ賜ラバ幸甚ノ到ニ御座候、右御案内奉申上候

敬具

明治廿九年五月十二日

兼松房次郎

様貴下

ト鄭重ナル文辞ヲ僅々二十枚程ノ為メニ特ニ活字印刷シタル金縁ノ Card ヲ用ヒシガ如キハ、當時トシテハ稀ニ見ル所ナリシナル可ク、店祖ノ遣リ口ヲ偲ブノ資料タルト共ニ会心ノ情察スルニ足ル

猶右返弁ニ際シ、添付シタル特別利息ヲ出資者中ノ主ナル向キハ、成功祝ノ名ノ下ニ改メテ返送シ来リシガ如キハ流石ニ大家ノ風ヲ見ルベク、又店祖第一ノ後援者タル西村氏分ハ一旦返弁後、改メテ一年期限ニテ借用シ、尔後更改数年ニ及ビシモノ、如シ

開店七週年祝賀、沿革史ノ編成

店祖曩二日濠貿易ニ志シ、初メテ其足跡ヲ濠地ニ印シテヨリ歳ヲ数フルコト茲二十年、殆ンド名状ス可ラザル幾多ノ艱難ヲ経、苦闘善戦、漸ク前途ノ光明ヲ認メタルノミナラズ、期ヲ誤ラズシテ出資ヲ返還シ、名実共ニ独立営業ノ地位ニ到達シテ、本年五月廿一日ヲ以テ其第五十二回誕辰日ヲ迎ヘタル快心ノ状察スルニ難カラズ

恰カモ開業満七週年ニモ近キヲ以テ誕生日祝ヲ兼ネ、此年七月一日ニハ午後臨時休業ノ上、祝宴ヲ諏訪山邸宅ニ開キ、店員一同参席ノ外、鈴鹿東京代理店主亦来神列席シタルガ、店祖ハ店員全部ニ夫々祝儀一封ヲ配与シ、且永野以下従務員十数名ニ増給ヲ沙汰シタリ

一方、店運如此順調ナルヲ見テ、慶賀措ク能ハザル店員等ハ店祖ニ対シ祝意ヲ表スル一端トシテ、創業以來約七年ニ亘ル商店営業実績ニ関スル諸統計ヲ蒐メ、添フルニ重要取扱品ニ関スル概観ヲ

以テセル廿数葉ノ「沿革史」一部ヲ編ミ、之ヲ商店ニ保存シタリ、本史料亦之レニ負フ所甚ダ尠ナカラズ

沿革史ノ序文ニ曰ク

商店創業ノ目的ハ日濠直貿易ニシテ、明治廿二年八月ヲ以テ本店ヲ神戸市ニ設立スト雖モ、既ニ数年以前該業ノ多望ナルヲ予知シ、明治廿年十二月、店主自ラ渡濠シ実地視察、翌明治廿一年六月帰朝、該地探検ノ結果、大ニ為ス可キヲ知覺シ諸般ノ準備ヲ為シ、明治廿二年八月十五日ヲトシ則チ本店ヲ開設シ、明治廿三年一月十四日発程汽船「タイアン」号ニ便乗シ再航、店員北村寅之助等ト共ニ着濠、同年四月十日「シドニー」府ニ支店ヲ開始シ業務ヲ經營スルニ至リ、創業以来歳ヲ閱スル事茲ニ滿六週年九ヶ月、漸ク素志ヲ達スルノ端緒ヲ得タルハ、蓋シ店主ノ精勵且ツ先見ノ結果ト云ハサルヲ得ス、店員等謹テ積年ノ来歴ヲ挙ゲ、聊カ祝意ヲ表シ併テ沿革統計ヲ網羅シ以テ記念トス

明治廿九年五月一日

支配人 原幸治郎

會計 古立直吉

盛ンニ不動産投資ヲ行フ

一昨廿七年四月、海岸通三丁目二番屋敷（廿九番及三十番地）ヲ建物付一万三千数百円ニテ購入シタルコトハ、商店ガ不動産ヲ所有シタル嚆矢ニシテ、茲ニ營業ノ根拠陣地ヲ得タル次第ナルガ、尔来建物ニ対スル多少ノ手入レ、又八年末幾分ノ銷却等ノ為メ商店ノ地所家屋勘定ハ時ニ小額ノ増減ヲ見ハシタリト雖モ、廿八年十月迄ハ一万五千円ヲ超過スルコト曾テ之レ無カリシニ廿八年十一月ニ至リ、同丁三番屋敷（廿四番地及ビ廿五番地ノ合併地ニシテ二番屋敷店舗ノ裏通り、道路一筋ヲ隔テタル計リノ隣地ナリ）、宅地百五十坪余ヲ家屋并ニ土蔵各二棟付ニテ約六千円ニテ買収ノ結果、同年末幾分ノ銷却ヲ経テ、当廿九年度ノ初頭ニ繰越シタル地所建物勘定ハ二万余円ニ上リテ、商店ノ資力ニ対シテ権衡ヲ失スルコト益甚ダシキヲ致シタリ

然ルニ戦後ノ好況ハ貿易港トシテノ神戸ノ将来ト相俟チテ、必ズヤ不動産価格ノ急騰ヲ来ス可キ

ヲ信ジタル商店ハ、更ラニ本年一月ヲ以テ栄町一丁目十二及十五番地、宅地約三百六十坪（現今ノ住友支店所在地）ヲ倉庫物置等建物附ニテ約二万六千円ニテ買収シタルノミナラズ、春夏ノ交ニハ諏訪山店祖邸ノ南側地続キヲ賃借シテ五千円ヲ投ジ、店員住宅用一棟六戸ヲ新築シ（八月中央峻成、店住者中古立・阪田両名并ニ外住通勤者中松田・永野・妹尾・福本ノ四名直チニ之レニ移居ス）タル結果、此年末ニ於ケル商店不動産勘定ハ五万円ニ垂ントシ、商店ノ正味総資力ヲ超過スルコト二割前後ニ及ブノ奇觀ヲ呈シタリ

而カモ商店ノ不動産投資熱ハ之レニ止マラズ、本年四五月ノ交、支配人原ハ其實兄タル豊岡町原庄七氏ヲ説キテ一万円ノ現金出資ヲ為サシメ、商店トノ組合勘定ヲ以テ市内葺合小野方面ニ田畠約千八百坪ヲ一万五千円前後ニテ買収、八月其登記ヲ了シ、翌三十年二月、更ラニ四百坪弱ヲ四千円弱ニテ買収シタルガ、之レ等ハ商店トシテハ地所家屋勘定ニ組入レズシテ別勘定（後ニ共有土地勘定ト名ヅク）ニテ処理シタルモ、内実ノ共有ナルニ拘ラズ、表面此地所ハ全部店祖ノ名義ニ登記シタル結果、商店ノ融通力ハ此投資ニヨリテ削減セラル、コトナク、却テ幾分ノ便宜ヲ得タルコトハ明カナルモ、前年營業ノ目的ヲ定メテ輸出入委託売買、保險事業ノ外、一切取扱ハザルノ原則ヲ定メテ僅カニ一年前後ナルニ、此種資力不相当ノ不動産投資ヲ決行シタルコトハ篤ト其得失ヲ審考シ云々ノ店則明文ニ照シ、聊カ奇異ノ感ナキ能ハザル所ナリトス

而シテ其結果如何ト見ルニ、幸ニ海岸通三丁目三番地ハ先ヅ好買人ヲ得、三十二年十二月約一万

二千円ニテ富永某ニ、又栄町一丁目ノ分ハ三十四年商店大整理ニ際シ五月末五万三千八百円弱ニテ住友家へ売却シ得タルガ故ニ、何レモ購入後四五年ニシテ倍価ニ売抜ケタル勘定トナリ、好利廻リト称シ得ベク、諏訪山舎宅モ亦右整理改革ノ際、損失ナク売却シ得タルモ、組合地所ハ購入価値ノ低カリシニモ拘ラズ、整理ニ汲々タリシ、三十四五年ニモ相当ノ買手ヲ得ル能ハス、漸ク三十九年秋頃順次処分ヲ了シタルガ、十年間維持ノ苦心ニ対シ、却テ精算ノ結果タル純損失二千五百余円ヲ共有者間ニ分損スルノ止ムヲ得ザルニ終リタリ

日本郵船会社ノ濠洲航路開始、其以前ノ交通状態

商店創業ノ当時、邦船ノ遠洋航路ニ就クモノ無ク、太平洋ハ外国船ノミノ活動舞台ナリシハ勿論ナルガ、夫レスラ日濠間ハ直通航船ナク、凡テ香港ニテ接続ノ外ナカリキ、明治廿四年 China Navigation Co. ガ初メテ濠洲香港間ノ配船ノ神戸延航ヲ試ミタル結果、茲ニ初メテ日濠間ノ直通船便ヲ得タリト雖モ其就航ハ年数回ヲ数フルニ過ギザリシガ、廿五年ヨリハ China Navigation Co. ハ其持船 Changsha、Chingtsu、Taiyuan、Tsinan ノ四艘ヲ以テ年十四乃至十二回位ノ直通配船ヲ行ヒ、Eastern & Australian S. S. Co. モ亦應テ之レニ倣フテ Airline、Gathrie、Catterthun、Memuir 等ノ持船ヲ以テ相当ノ直通配船ヲ此航路ニ行フニ及ビテ、日濠間ノ貿易ハ多大ノ便宜ヲ加ヘタリ

然ルニ日本船ノ濠洲ニ入港セシモノハ、明治廿四年四五月ノ交、郵船会社ノ三池丸ガ、シドニー

ニ入港シタル記録アルモ、右ハ当時同船ノ運用ヲ郵船ヨリ托セラレ香港「*China*」方面ニテ就航セシメ居リシ某外商ガ臨時廻航セシメシモノニシテ、日本船ノ日濠間ニ就航スルモノ無キ為メ、邦商ハ種々ノ点ニ於テ外商ニ比シ不利ノ地ニ立ツヲ免カレザルヲ以テ、店祖ハ機会アル毎ニ郵船会社ニ対シ日濠航路開始ノ勧誘ヲ怠ラズ、郵船モ亦漸ク廿五年四月ニ至リ広島丸ヲ臨時濠洲ニ試航セシメテ研究ヲ進メ居リシガ、戦後、国運発展政策ノ一トシテ明治廿九年航路補助法ノ制定セラレ、ニ及ビテ茲ニ機運漸ク熟シ、郵船会社ハ曩ニ千百万円ヨリ八百八十万円ニ一旦整理減縮シタル資本金ヲ一躍二千二百万円ニ増額シ、欧米濠ノ三大航路（其以前、郵船唯一ノ大航路ハボンベイ航路ナリシ）開始ヲ決シ、濠洲へハ年額三十四万九千円ノ政府補助金ヲ受ケテ、月一回ノ定期命令航路第一船トシテ総屯数二千五百余屯ノ山城丸ヲ配シ、其横浜ヲ出航シテ神戸長崎經由順路濠洲ニ向ヒシハ実ニ明治廿九年十月五日（神戸出帆ハ同月七日）ノコトニ属シ、商店ハ創立後実ニ七年ニシテ初メテ日本国旗ノ下ニ其商品ヲ輸送シ得ルノ便ヲ得タル次第ナルガ、山城丸ノ僚船ハ近江丸及ビ東京丸ノ二艘ナリシ

其後約二年半ヲ経テ三十二年春、郵船会社ハ春日・二見・八幡ノ三隻ヲ以テ山城級二代へシガ、何レモ本航路ノ目的ヲ以テ特ニ新造シタル三千五百屯級ノ姉妹船ニシテ、乗客ニ対スル設備モ特ニ深ク注意セラレ、郵船持船中群ヲ抜キタル、所謂 *Mail Book* ト称スベキモノナリシガ、三十三年八月、二見丸ガ不幸短命、マニラ附近ニテ難破スルニ及ビ、五千屯級ノ新造船熊野丸ヲ補

充シ、更ラニ日露戦役ノ当初峻成シタル五千五百屯級ノ日光丸ガ御用船ヲ解カル、ヤ否、春日丸ニ代リテ善美ヲ尽セル客船トシテ本航路内外船中ニ独リ其名声ヲ壇ニスル等、船型次第ニ其大ヲ加ヘ、更ニ最近欧州大戦中、本邦海運業ノ大発展期ニ際シ、大阪商船会社亦本航路ヲ開始シ、猶戦後船腹ノ過剩甚ダシキニ及ビテハ山下汽船亦此方面ニ瀕次配船スル等、現時ノ盛況ヲ呈スルニ至レリ

肉骨粉肥料ノ初輸入ハ商店ニ一努級商品ヲ加フ

創業間モナク工業用牛骨ヲ輸入シテ一有力商品トナリタルヨリ、延テ肥料用骨粉ニ着目シタル商店ハ廿九年中、早クモ骨粉見本ヲ取寄セタルコトアリ、此年九十月ノ交、肥料用雜骨約廿屯ノ試輸ヲ行ヒタルガ（原価一屯二£前後ナリシガ、之レハ成績思ハシカラズ）、更ラニ進ンデ十一月シドニー発郵船定期第一船、山城丸ノ帰航船便ヲ以テ Sydney Meat Preserving Co. ノ製造ニ係ル肉骨粉肥料五拾屯（原価一屯三£ナリシ）ヲ試輸シタルニ窒燐両主要成分ノ権衡誠ニ其宜シキヲ得、且恰カモ戦後農事改良ノ声高ク金肥ノ施用盛ンニ勸奨セラレ、従来ノ邦産魚肥ノミニテハ到底需要ニ応ズベクモアラズ、戦後ノ新発展トシテ牛莊ヨリ豆粕輸入ノ途拓ケ、所謂新肥料ノ賞用セラレ始メタル好機運ニ投ジタルコトトテ試売ノ成績ハ遠ク予期ヲ越エ、直チ二百屯ノ返リ注文發電トナリ、翌三十年三月及ビ四月船ニ積送（此時ニハ相場既ニ小騰シ、原価一屯三£六志）

ノ運ビトナリシヲ手始メニ本品ハ一躍輸入商品中ノ花形トナリ、其後モ商店輸入ノ一重要品タル地位ヲ保ツコト約廿年ノ久シキニ及ブ

明治二十九（一八九六）年

一三七

蚕糸屑物取扱ノ開始

商店ニテハ原入店以来、其前業ノ縁故ニヨリテ其郷里ノ商人ヨリ委托ヲ受ケ、生皮苧其他ノ屑物ヲ居留外商ニ売込ムコトヲ時々取扱ヒ居リシガ、予テ神戸ヲ我邦生糸取引ノ重要中心市場ト為サシ理想ヲ懐キ居リシ店祖ハ、偶々此節屑物ノ買人トシテ有力ナル在留仏商某ト深ク相識ルニ及ビ、先ヅ生糸ニ到ルノ階梯トシテ屑物ヨリ着手センコトヲ決心シ、此廿九年六月ヲ以テ輸出部内ニ蚕糸係（翌年之レヲ独立セシメテ蚕糸部ト改ム）ヲ新設シ、原ノ姻戚ニシテ本品ノ売込商買ニ数年ノ経験ヲ有セル西村常之助「中略」ヲ雇入レテ此方面ヲ主宰セシメ、神戸蚕糸業組合ニ加盟シテ大ニ此取引ニ力ヲ用ユルコトトナリシガ、其仕振りハ受託式ニ始マリシモ、後ニハ先物見越シ売買本位トナリ、且相場ノ騰落波瀾甚ダシカリシ為メ、三十二年ニハ巨利ヲ挙ゲタルモ、翌年ニハ之レニ倍蓰セル大欠損ヲ招キ、商店浮沈ノ問題ヲ起シタル結果、創始後僅カニ五年ニシテ此商買

八三十四年初頭ノ商店整理改革ノ血祭リトシテ之レヲ全廢スルノ悲運ニ終リタリ

明治二十九（一八九六）年

三三

店則及事務細則ノ追加并ニ統一印刷

店規諸制度ハ前年ニ於テ既ニ稍繁ヲ加ヘタルガ、当春他ノ出資ヲ返還シテ名実共ニ独立營業ノ域ニ進ミタル以來、業調益可ナルモノアリ、且ツ保險代理業、蚕糸屑物業等ノ兼業ト相俟チテ、従務員ノ数モ亦増加シタル結果ナルベク、此年六月更ラニ当務・代務・当宿直・出勤・退去・欠勤・請暇・外出・学習・衛生・称呼法等十数項ヲ達示シ、懈怠者・不品行者等ニ対スル臨時ノ懲罰行ハルベク勤怠成績ノ賞与金分配ニ考慮セラル可キコト等ヲ明カニシ、又別ニ拝領紋付服制ヲ達シ、更ニ九月当宿直并ニ休日勤務ニ対スル支給ヲ定ムル等、達示次第ニ頻繁ヲ加ヘタルガ、年末更ニ之レヲ加除シテ統一シタル店則十一章三十五条并ニ事務細則廿一ヶ条ヲ各別冊トシテ印刷ニ付シ、十二月一日ヲ以テ之ヲ実施スルト共ニ各店員ニ配布シタリ

斯クシテ文物整然形式大ニ備ハリタルコトハ一見大ニ慶ス可キガ如キモ、別項商店ノ陣容ト対照

シテ聊カ鶏ヲ割クニ牛刀ヲ用フルノ臭味アルヲ感ゼザル能ハズ
規則万能ノ弊ニ陥ラズンバ幸ナリ
当時ノ商店首脳部ノ気分ヲ視フノ資料トシテ、繁ヲ厭ハズ、之レ等法規ノ全文ヲ掲ゲレバ次項ノ
如シ

兼松商店々則

第一章 総則

第一条 当商店ノ営業ノ科目ハ左ノ如シ

- 一、海外諸州ニ商品ヲ直輸出シ及直輸入ス
- 一、商品ノ委托売買

但シ科目外ニ渉ル商事ハ店長支配人協議ノ上、之ヲ定ム

第二条 当商店ハ兼松房次郎商店ト称ス

第三条 当商店ハ兵庫県神戸市海岸通三丁目二番邸ニ設置ス

但営業ノ便宜ニ依リ内外枢要ノ地ニ支店又ハ出張所ヲ置キ、或ハ代理店ヲ設クルコ

トアルベシ

第四条 当商店ノ存立期間ハ無限トス

第五条 外国支店ノ店則ハ別ニ規定ス

第六条 店務ノ機密ハ店員在任中ハ勿論、退任ノ後ト雖モ徳義上之ヲ他ニ漏洩セザルモノトス

第七条 商業ハ信義ト確實ヲ旨トスルモノニ付、顧客ニ対シ直実ヲ表彰シ、待遇ヲ信切丁寧ニスベシ

第八条 店員ハ各協力一致シ、諸事ニ注意シ、忠直ニ勤務スルモノトス

第九条 店員ハ長者ヲ敬ヒ、後進者ヲ慈ミ、又タ素行ヲ慎ミ、店規ヲ恪守スベシ

第二章 職務章程

第十条 当商店ノ職員左ノ如シ

店長 支配人 副支配人 手代 臨時雇員

第十一条 支配人以下ノ職員ハ店長之ヲ任命シ及解任ス

第十二条 店長ハ店務ヲ総轄シ、店員ヲシテ其事務ヲ分担セシム

第十三条 支配人ハ店長ノ命ニ依リ其任務ヲ処理シ、副支配人以下ノ店員ヲ指揮シ、各担当スル

職務ヲ監督スベシ

第十四条 副支配人及手代并ニ雇員ハ、店長ノ命又ハ支配人ノ指揮ニ依リ各担当ノ事務ヲ掌弁スベシ

第十五条 店長正副支配人及其他ノ店員ハ各責任ヲ以テ其事務ニ服スベシ

第三章 事務章程

第十六条 当商店ノ事務ヲ左ノ四部ニ分置ス

第一 総務部 部中左ノ二係ヲ置ク

庶務係 保険係

第二 輸出部 部中左ノ三係ヲ置ク

物品審査係 織物係 蚕糸係

第三 輸入部 部中左ノ一係ヲ置ク

販売係

第四 会計部 部中左ノ二係ヲ置ク

計算係 簿記係

第十七条 総務部ハ店務ノ枢機ヲ司管シ、輸出商品ノ購買、輸入商品ノ販売等其外一切ノ当務ヲ勘定シ、各部各係ニ指揮スル所トス

第十八条 輸出部ハ総務部ノ指揮ニ依リ輸出ニ関スル事務ヲ司掌シ、併セテ倉庫保管ノ責ニ任ズ
 第十九条 輸入部ハ総務部ノ指揮ニ依リ輸入ニ関スル事務ヲ司掌シ、併セテ倉庫保管ノ責ニ任ズ
 第二十条 會計部ハ金銭ノ受払ヲ正確ニシ、諸帳簿ノ整理ヲ審カニシ、銀行等総テ金銭ニ係ル取引ノ事務ヲ司掌ス

第四章 職名及給俸

第廿一条 当商店ニ於テ支給スル俸給、左ノ如シ

等級	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等
職名	店長	支配人	副支配人	一等手代	二等手代	三等手代	四等手代
一級俸	三〇〇円	二〇〇	六〇	四〇	三〇	二〇	一二
二級俸	二五〇	一五〇	五〇	三五	二五	一五	一〇
三級俸	二〇〇	一〇〇	四五	三〇	二〇	一二	八
四級俸	一五〇	七〇	四〇	二五	一五	一〇	七
等外級	等外一等	同二等	同三等	同四等	同五等	同六等	同七等
	同八等	同九等	同十等				

給額 一五円 一二 一〇 八 七 六 五 四 三
三円五〇銭 三

第五章 賞与

第廿二条 店員ノ賞与金ハ神戸店総勘定純利益金高ノ百分ノ十ヲ付与スルモノトシ、毎年一回、年末ニ支給ス

第廿三条 勤務中特ニ著大ノ功劳アルモノハ、臨時賞トシテ相当ノ金額ヲ付与スルコトアルベシ
第廿四条 勤務中自己乃至商店ノ都合ニ依リ解任スルモノハ、詮議ノ上、相当ノ慰劳金ヲ付与スルコトアルベシ

第六章 勤続賞与及年金

第廿五条 滿十年実直ニ勤続シタル者ハ其勤務上ノ功蹟等ヲ査定シ、金三千円以内適宜ノ金額ヲ褒賞トシテ付与ス

第廿六条 職務上ニ関シ負傷若シクバ死亡シタル者ハ、其事情ヲ査定シ、一時手当金又ハ祭祀料及遺族救助トシテ一時ニ或ハ年金トシテ相当ノ金額ヲ付与スベシ

第廿七条 普通死亡者ト雖モ、勤続年限及生存中ノ功蹟等ニ依リ其事跡ヲ査定シ、一時救助トシテ或ハ若干年間年金トシテ相当ノ金額ヲ給与スルコトアルヘシ

第廿八条 老年又ハ病氣等ニ依リ退任シタルモノト雖モ、在任中功蹟アルモノハ之レヲ査定シ、一時賞与金又ハ若干年間相当ノ年金ヲ給与スベシ

第七章 賞与停止

第廿九条 純利益少額ナル場合ニハ賞与ヲ配当セサル事アルベシ

第三十条 勤務中不都合ノ行為アリシモノハ通常ノ賞与金ハ勿論、勤続賞与等一切ヲ停止ス

第三十一条 店員ハ俸給ノ内ヨリ毎月幾分ノ貯金ヲ為スノ義務アルモノトス、其割合ハ別ニ之ヲ規定ス

第九章 ^(ママ) 身元信認金

第三十二条 店員ハ身元保証トシテ相当ノ信認金ヲ供托スルノ義務アルモノトス、其金額及方法等ハ別ニ之ヲ規定ス

第十章 罰則

第三十三条 店務上、故意若クハ怠慢其他店規ニ抵触スル行為アル者ハ解任シ或ハ降任シ、或ハ相当ノ過怠金ヲ徴収スルコトアルヘシ

第十一章 雜則

第三十四條 事務取扱細則及旅費規定等ハ別ニ之ヲ定ム

第三十五條 店則中加除改正ヲ要スル時ハ、時々令達スヘシ

右ノ通改正候事

明治廿九年十二月一日

右之通改正候間、各自恪守可致候事

店長 兼松房次郎

明治二十九年（一八九六）年

兼松商店事務細則

総則

- 第一条 店員ハ兼松商店々則及事務細則ハ勿論、諸達示等総テ之ヲ慎重ニ恪守スベシ
- 第二条 店員ハ互ニ素行ヲ慎ミ、修身齊家ノ旨意ヲ服膺シ、宜シク分限ヲ守リ奢侈ノ風ヲ排シ、又信義ヲ旨トシテ同僚間ノ交遇ヲ待ツベシ
- 第三条 商業ノ原義ハ信義実確ニアルコトヲ觀念シ、其待遇応対等総テ礼儀ヲ重スベシ

勤務規定

- 第四条 執務時限ハ規定ノ通恪守スヘシ
- 但事務ノ都合ニ依リ臨時伸縮スルハ此限ニアラズ
- 第五条 店員ハ必ず日々勤怠簿ニ時刻ヲ記入シ、小印ヲ捺スヘシ
- 第六条 病氣其他ノ事故ニヨリ不勤又ハ遅刻スル時ハ、書面或ハ口答ヲ以テ其旨ヲ届出ツヘシ
- 当宿直及店員心得
- 第七条 当直及宿直ハ嚴格ニ服事シ、不都合無之様注意スベシ
- 第八条 来書来電等其他ノ用務ハ日記簿ニ記入シ、翌日総務部ニ交付スヘシ

第九条 休日ノ当直者ハ金廿銭、宿直者ハ金拾銭ヲ弁当料トシテ支給ス

第十条 店員ハ休日又ハ退出後他出スル時ハ必ス其出先ヲ申置クベシ

第十一条 臨時請暇ヲ乞フモノハ必ス許可ヲ受クヘシ

第十二条 公私ノ混用ハ一切之ヲ禁ズ

第十三条 業務時間中互ニ雑談スヘカラズ

第十四条 業務中処用外出スル時ハ必ス其出先ヲ申置クヘシ

倉庫取締

第十五条 庫内ニ於テハ嚴重ニ喫烟ヲ禁ズ

第十六条 主任者ハ雇人足ノ勤怠ヲ監督シ、又商品ノ散乱セサル様注意スヘシ

第十七条 荷造ノ巧拙精粗ハ其得失輕カラザルニ付、厚ク注意シ、之ヲ取扱ハシムヘシ

店員貯金

第十八条 店員ハ毎月俸給ノ内ヨリ俸給額五十円以上ノ者ハ百分ノ十、四十五円以下ノ者ハ百分ノ五、又賞与金ノ内支給額三百円以上ノ者ハ百分ノ十五、二百九十九円以下ノ者ハ百分ノ十ヲ貯蓄スルモノトス

第十九条 店員ノ貯金ハ当商店之レヲ預リ、一ケ年七分（百円ニ付七円）ノ割ヲ以テ利足ヲ付シ、又預金帳ヲ交付スヘシ

第二十条 店員ノ貯金ハ身元信認金ニ代用ス

第二十一条 供托貯金ノ引出シヲ要スル場合ハ其事情ヲ具陳スヘシ、又退任シタル時ハ元利金ヲ返付スヘシ

第二十二条 決算年度ハ毎年十二月廿六日ニ始マリ、翌年十二月廿五日ニ終ル（註、本条ハ三十年十二月廿七日達ニテ追加セシモノナリ）

右之通改正致候間、各自恪守可致候事

明治廿九年十二月一日

店長 兼松房次郎

年度商量躍進シテ三十五万円トナル

本年ノ輸入ハ、羊毛千六百余俵ノ多キニ上リ、其斤量四十万ポンドヲ超エ、価格十五六万円ヲ数へ、Tallow 百五十屯ニ万五千円、屠業雜貨約二百屯一万五千円、製革一万二三千円、生皮三千円、調革千七八百円、肉骨粉肥料五十屯千五百円、製膠千二百円、其他雜品ヲ併セテ総価廿二万円ニ近ク、之レニ対スル輸入運賃支払高ハ約一万九千円、輸入税額ハ約七千円トナル

輸出ニ在リテハ、絹手巾四千三四百打式万円弱ヲ筆頭ニ、羽二重四百余反八千余円、陶器七八千円、印刷紙七千円、竹器四五千円、板紙・魚油・樟腦各二千円、其他諸雜貨取合セ三万余円等、支店送り品合計八万五六千円、外ニ濠洲及新西蘭各地へ直送品約二万円并ニ紅茶・樟腦・精米・薩摩煙等受託輸出品五六千円ヲ通算シテ輸出総高十一万余円、此才量千百余屯、運賃千六百£、輸出入合計約三十五万円ニ上リ、殆ンド昨年ノ扱高二二倍セリ

猶右輸出諸品中、板紙ハ阿部製紙所製品ニシテ、本品ノ輸出ハ本年一月初メテ試ミタル所ナルガ、
尔後多年ニ亘リ相当ノ取扱ヲ続ケタリ

収入ハ商量ニ伴ハズ、利息経費ハ膨大ス
年益ハ却テ前年ニ及ハズ

前項ノ如ク年度商量ハ昨年ニ倍シタルモ、其大部分ハ委托買次羊毛ニ属シテ手数料ハ3%ニ止マル關係ナルベク、營業収益ハ一向商量ニ伴ハザルニ、不動産其他二手ヲ広ゲタル結果トシテ利息支払高ハ急増シ、給料諸経費モ亦膨大シタレバ差引純益ハ却テ昨年ニ及ハズ、一万七千円ニ減退シタリ、而カモ其額ハ恰カモ例ノ輸出品見込値増シ并ニ付出シ利息トシテ、シドニー支店ニ負担セシメタル金額ニ相当スルコト、左表ノ如シ

〔表5参照〕

〈表5〉 明治29年度 収支概表

羊毛	¥ 6,900	左表輸入総益約	¥ 14,450
屠業雑貨	5,500	輸出手数料々	6,000
牛脂	1,700	輸出品見込値増	11,000
雑品	350	シドニー支店へ付出シ利息	6,000
輸入総益	¥ <u>14,450</u>	蚕糸部	500
		保険部	250
寒天損金	350	運賃割戻シ	650
利息	14,150	倉（賃貸料）敷	650
給料	4,400	雑益	900
旅費	500	合計総益金	40,400
諸税	500	内 左表総損金	23,400
其他諸経費	3,500	差引年度純益	¥ <u>17,000</u>
合計総損	¥ <u>23,400</u>		

明治29年 利益処分

	此処分	前表年度純益金	¥ 17,000
出資配当金(店主0,夫人20%)	1,000	内 地所家屋什器償却高	1,000
積立金	11,000	差引	¥ 16,000
店主功勞金	1,500		
同上別口	500		
店員賞与金	2,000		16,000
			¥ <u>0</u>

利益処分後ノ商店実資力五万円ニ達ス

前項ノ年度純益ハ左表ノ通り処分サレ、積立金ハ累計三万五千円ニ上リテ資本金ヲ併セテ商店実資力、恰カモ金五万円ニ達シタルハ頗ル注目スベキ事実ニ属ス

只右処分ニ当リ、店祖ノ出資一万円ニ対シテハ配当ヲ行ハズ、夫人ノ出資五千円ニ対シテノミ、而カモ前年倍率ノ 20% 配当ヲ行ヒ、一方功勞金ハ慣例ノ分ノ外、別口五百円ヲ支出セシガ如キ稍透明ヲ欠クモ、後者ハ羊毛免税運動ノ費用等ニ關聯セルモノナラン乎

而シテ前数年度ノ賞与分配実績ハ之ヲ知ルニ由ナキモ、偶然其数字ヲ得タル当年度ニ於テ総額二千円ノ全部ガ本店従務員ニ頒与セラレ居ルコト、次項表示ノ通りナレバ、他ノ年度モ亦然リシナルベク、自然シドニー支店従務員ハ顧ミラレザリシモノカ、其如何ナル待遇ヲ受ケ居リシヤ明

カナラザルヲ憾ム

〔表5参照〕

明治三十（一八九七）年

卒先シテ諸帳簿諸取引ノ厘單位ヲ廃ス

当時一般実業界ニ取引受払上、厘位廃止ノ運動起リシモ其实行普及ハ頗ル遅々タル憾アリシガ、商店ハ他ニ卒先シテ此年二月末通達ヲ以テ、尔今売買其他一切ノ取引ニ関シ、厘位ハ四捨五入ヲ以テ錢位ニ止メ、諸帳簿諸勘定ノ厘位ハ一切之レヲ廃シタリ

支配人原ノ濠洲出張

本店ノ業績次第ニ良好ニ向ヒ其陣容亦漸ク整ハントスルヲ見テ、店祖ハ年初原ニ一般視察見学打合セ等ノ目的ヲ以テ濠洲支店へ臨時出張ヲ命シタレバ、原ハ二月上旬近江丸ニテ出発、彼地滞留百余日、同船次航便ヲ以テ七月末帰神ス

之レ店員出張往復ノ始メニシテ、見聞上獲ル所実ニ尠ナカラザルシノミナラズ、開設以来、既ニ六年ヲ超エテ、猶依然混沌状態ヲ脱セザリシンドニ支店ノ計算整頓ニ一歩ヲ進メタルコトト小売店廃止ノ根本意見ヲ定メ来リシコトトハ、其効果ノ最モ著シキモノニ属ス
尤モ右小売店廃止ノ実現セシハ、更ラニ約四年ノ後ナリ

シドニー支店資本金勘定ノ設定

従来、シドニー支店ニ対スル貸借ハ本店帳簿上「濠洲支店」ナル一勘定ノミニテ処理シ来リ、此勘定口座ニ於ケル同支店ノ借越尻ハ、前年来、常ニ四五万円前後ヲ示シ、之ニ対シ廿七年以来ハ年一割ノ利息ヲ課スルコトト為シ居リシガ、本年原支配人出張ノ節、支店ガ右利息ノ負担ニ苦シムノ実情ヲ明カニシ、且此一般出入勘定ヲ常ニ小額ニ止メシメン目的ヲ以テ打合セタル結果ナルベク、此年六月、金三千元ヲ支店資本金トシテ別勘定据置計算トシ、之レヲ貳万八千円ニ換算シテ本支店間ノ日常貸借ヨリ区分シ、本店帳簿ニ「濠洲支店資本金」ナル一口座ヲ設ケテ之ニ移シ、其他ヲ従来ノ勘定ニ残シ、後者ニ対シテハ引続キ年一割ノ利息ヲ課スルモ、資本金ニ対シテハ利率ヲ半減スルコトトシタリ

蓋シ支店ハ精々此三千元ノ範囲内ニテ繰廻サシメ、一般勘定尻ハ時ニ応シテ貸借交互ニ見ハル、

ノ程度ニ緊縮セシメ、以テ本店金融ノ苦痛ヲ輕減セントノ計画ニ出テシモノナランモ、支店ハ間
モナク精算ノ結果、欠損累積ノ跡ヲ示スニ拘ラズ、之レヲ本店ニ振替スルノ運ニ至ラザリシ為メ、
一般勘定ノ借越尻ハ依然トシテ収縮セズ、依テ三十二年ヨリハ實際消耗セル資本金ニ對シテハ利
息ノ賦課ヲ廢シタルガ、三十四年、商店ノ内政根本的大改革ニ際シ、支店ノ損失ハ一掃、本店ニ
振替スルト共ニ此支店資本金勘定モ亦同時ニ廢滅セシメタリ

資本金ヲ一躍十万円ニ増改ス（但半額ハ不動産評価増）

曩ニ夫人ノ資金ヲ追加シテ資本金ヲ壹万五千円ニ増改シテ漸ク二年半、昨年末利益処分ノ結果、積立金ノ累計ハ三万五千円ニ上リ、都合実資力五万円ヲ以テ本年度ノ商戦ニ入りタル商店ハ、此年九月、右積立金ノ全部ヲ資本金ニ繰込ムト同時ニ、八月末ノ帳簿価格四万九千余円ナリシ地所家屋ヲ一挙十万円ニ評価増シテ行ヒ、此差益ヲ公称資本ニ繰込ミ、以テ資本金ヲ一躍十万円ニ増改シタリ

当時戦勝後ノ景氣ヲ既ニ其絶頂ヲ越へ、財界ノ裏面ニハ既ニ不安ノ暗流ノ醸成セラレツ、アルモノ之レ有リシト雖モ、表面ハ猶惰力的好調ニ被ハレ、特ニ不動産価格ハ前年来騰貴一方ニテ其転売ヲ以テ巨万ノ富ヲ作りシモノ尠ナカラズ（不動産価ノ暴落ヲ来セシハ翌三十一年ノコトニ属シ、三十年ノ不動産成金ハ多クハ三十一年ニ倒産没落シタリ）、サレバ商店所有ノ不動産モ購入後、

日猶浅キニ拘ラズ、相場トシテハ恐ラクバ帳簿価格ニ倍スルモノアリシナルベク、從テ商店ノ右評価引上ゲハ必ズシモ不当ニハ非ザリシナランモ、之レヲ換貨スルコトナシニ筆先細工ニテ之レガ評価ヲ倍加シ、公称資本ヲ突飛増額セシガ如キハ少クトモ燥急ノ誹リヲ免カレザルベク、從來ノ銷却振り等ニハ似合ハシカラザル不真面目ノ行動タル嫌アリ

蓋シ、一面金融上、對銀行策トシテ其資本ノ大ヲ示スコトニヨリテ受クルノ便宜モ亦尠ナカラザリシ為ナランモ、之レヲ望ム所以ノモノハ次項ノ所謂三大事業ニ関スル店祖ノ腹案、此時既ニ熟シ居リ、其準備トシテ茲ニ大二陣容ヲ張ルニ至リシモノニ非ル無キ乎

之レヲ當時ノ我邦財界一般ノ状勢ニ照合スルニ、廿八年四月、日清戰役ノ終結スルヤ、戰時中、我政府ガ事業投資抑圧ノ方針ヲ取り居リシ反動ト戰勝後ノ事業熱ト相俟チテ、同年中、大坂市ニ新タニ設立セラレタル銀行ノミニテモ、住友・日本貯金・藤本・旭・泉屋・天満・玉造・西六・天王寺・北村ノ十行ヲ算シタルガ、其巨頭住友銀行ノ資本金ハ百万円、其他ハ何レモ五万円乃至五十万円ナリシニ見ルモ、其後僅カニ二年ヲ経タル当三十年ニ於テ個人事業タル一貿易商兼松商店ノ資本金拾万円ハ寔ニ堂々タルモノアリシヤ必セリ

而カモ此花々敷出陣ノ結果、四年ヲ出デスシテ早クモ刀折レ矢尽キ、殆ンド自裁ノ外ナキ窮境ニ瀕シタルヲ見レバ、固ヨリ天時地利ノ我ニ宜シカラザリシニモ因ルナランモ、此種緊急ナル陣容整備ガ――否其精神ガ――全軍ノ心理ニ影響シタル所多キヲ思ハザル能ハズ

当時商店ノ所謂三大事業案

一 二曰ク蚕糸貿易

生糸ハ（之レヲ今日ニ比スレバ、当時ノ数量金額共ニ固ヨリ同日ノ論ニ非ズシテ、廿九年ニハ 3,918,994 斤 28,830,602 円、三十年ニハ 6,919,861 斤 55,630,460 円、三十一年ニハ 4,837,329 斤 42,047,411 円ニ過ギザリシト雖モ）、夙ニ本邦貿易品ノ首位ヲ占メ、猶将来益有望ナルニ其取引ハ横浜ニ集中シ、神戸ガ僅カニ屑物ノ一部ヲ吞吐スルニ過ギザルハ甚不自然ナルコトニシテ、神戸ノ貿易商ノ腑甲斐ナキヲ示スモノナレバ、卒先シテ神戸ヲ生糸ノ一大集散地タラシメ、商店自ラ其輸出ニ当ラントハ店祖予テノ腹案ニシテ、昨夏新タニ蚕糸部ヲ設ケ屑物取扱ヲ開始シタルハ僅ニ其端緒ヲ開クベキ序幕ニ過キサリシナリ

二二曰ク支那貿易ノ開拓

邦人ノ貿易ニ染手スルモノ多ク米國ニ向ハザレバ即チ欧州ニシテ、僅ニ一葦帶水ヲ隔ツルノミ
ノ対清貿易ニ至リテハ其振興ノ要ヲ唱フルノ声ノミ徒ラニ高く、事實ノ取引ハ全然清商ノ手裡
ニ委シテ顧ラレザルノ觀アルハ店祖ノ深ク遺憾トセル所ニシテ、神戸ノ形勝ニ抛リテ自ラ其開
拓ニ当ラントセルモノナリ

三二曰ク店舗ノ新築

海岸通りノ現商店ハ貿易商トシテ地域寔ニ恰好ナルモ、建物ハ何レモ旧式且頽朽ニ傾キ、貿易
商トシテ外商ト角逐スベク如何ニモ不便且不体裁ニシテ自ラ其信用ニモ関スベキニツキ、少ナ
クモ数万円ヲ投シテ新タニ貿易商ラシキ事務所及ビ倉庫ヲ建築シ、一二ハ業務ノ所弁ニ利シ、
二二ハ其威容ヲ張ラントスルニ在リ

以上ノ三案ハ當時店内ニテノ三大事業ト称シタリシモノナリトス

当時商店ノ海外電信利用度（年ニ発着各廿通台）

創業当初ノ数年間、本店トシドニー支店トノ間ニ電信ヲ往復スルハ、店祖ノ発着通知位ノモノニシテ極メテ稀ナリシガ、最近両三年ハ商買ノ増進ト共ニ電信往復稍多キヲ加ヘタリ、其实蹟ヲ示セバ

年度	本店発	濠支発	発着合計	此語数計	料金
廿九年	21通	25通	46通	340語	¥1,150
三十年	24	24	48	456	1,550

因ニ内国電報ハ廿九年ニハ発着合計約二百通、三十年ニハ同三百余通、外ニ蚕糸部関係発着七百

通ヲ数フ

シドニーニ帝國領事館開設セラル

我政府ガ Melbourne 在住ノ商人 A. Marks 氏ヲ名誉領事ニ任命シタルハ、商店ノ創業ニ先ツコト約十年、遠ク明治十二年十一月ノコトニ属スト雖モ、当時ハ勿論、其後トテモ久シキニ亘リ日濠間ハ極メテ没交渉ノ状態ニ在リシカバ、此任命ハ同氏が曾テ横浜ニ在住セルコトアリシ縁故ヨリ齎チ得タル空名ニ過ギズ、日清戦後、我が對外発展改策ノ一表現トシテ、廿九年三月、濠洲ニ於ケル最初ノ日本ノ官庁トシテ Townsville ニ正式領事館ノ開設ヲ見ルニ至リタルモ、是迎モ専ラ木曜島ニ於ケル真珠採取乃至 Q'Land ニ於ケル甘蔗栽培ニ使用セラル、我が出稼労働者ノ關係ニ基クモノニ過ギズ、翌三十年六月十二日ヲ以テシドニー領事館ノ開設ヲ見ルニ及ビテ、茲ニ初メテ通商上ノ意義ヲ有スルニ至リタル次第ナリ

其後四年半、三十四年十二月ヲ以テシドニー領事館ガ総領事館ニ昇格セラレタルハ通商關係ノ稍

重要度ヲ加ヘタル一証左トスベク、一方 *Levitt's* ノ領事館ガ三十九年五月ヲ以テ廃止セラレタルハ、濠洲ニ於ケル移民制限法ノ制定ガ、既ニ衰運ニ向カヒツ、アリシ我が出稼移民ハ遂ニ止メヲ刺シタル反映ナルヲ知ル可シ

而シテ我シドニ一支店ガ其開設以來、領事館開館ニ至ルマデ約七年有半、常ニ殆ンド唯一ノ日本商人トシテ同地在留邦人ハ勿論、往復ノ邦人郵船等ノ為メ各種ノ便宜ヲ与ヘ、宛然、私設領事館タルノ觀アリシハ時人ノ齊シク認メタル所ニシテ、濠洲人中ニハ支店ヲ領事館ナリト誤解シ、同館正式開設ノ後ニモ猶種々ノ事件ヲ持込ミ来リシモノアリシニ見テモ、之レヲ証スルコトヲ得ベシ

金貨本位制度ノ実施

西南戦争前後ノ不換紙幣回収ノ難事業、漸ク就リテ以来、本邦ノ幣制ハ表面金銀両本位ナリシモ、事実ハ疾クニ銀貨国ト成リ了セル結果、欧米又ハ濠洲等金貨国ニ対スル我が貿易ハ常ニ銀貨ノ騰落ニ因ル為替相場變動ノ脅威ヲ受ケ、其危険ト不便、誠ニ大ナルモノアリ

商店創業ノ初年ニハ我が対英為替參着相場ハ $\frac{3}{14}$ ヨリ $\frac{3}{27}$ ノ間ヲ往来セシガ、翌廿三年ニハ漸騰ノ大勢ヲ辿リ最高實ニ $\frac{3}{10}$ ヲ見セ、廿四年ニハ反落シテ最低 $\frac{3}{17}$ 、最高 $\frac{3}{57}$ トイフ乱調ヲ示シ、廿五年ニハ $\frac{3}{17}$ ニ初マリ、漸落 $\frac{2}{87}$ ニ及ビ廿六年ニハ更ラニ $\frac{2}{37}$ ノ低率ヲ見ハシ、廿七八九年ハ大体 $\frac{2}{1}$ ヨリ $\frac{2}{3}$ ヲ上下セシガ、三十年ニハ $\frac{2}{17}$ ヲ最高トシ、五六七八月頃ニハ動モスレバ $\frac{2}{1}$ ヲ下溜ラントスル等、變動實ニ常無カリシガ、戦勝ノ結果、清国ヨリノ償金二億三千万両ヲ倫敦ニ於テ金貨ニテ受領シ得ルニ至リシ千載一遇ノ好機会ヲ

逸セズ、時ノ大蔵大臣松方伯（後年遂ニ公爵トナル）ハ金貨本位制樹立ノ大英断ニ出デ、此年十月一日ヲ以テ之ヲ実施セシカバ、我ガ対金貨国為替相場ハ茲ニ初メテ安定ヲ得、三十一年ヨリ大正三年欧州大戦ニ至ルマテノ十有七年間、対英 $\frac{1}{100}$ 相場最高 $\frac{2}{100}$ 、最低 $\frac{1}{100}$ ト大々の平調ヲ持続シ、商店ノ対濠取引ニ絶大ノ安全性ヲ加ヘタリ

肥料輸入營業ノ大發展ト鈴鹿肥料部

前年末 S.M.P. Co. 肉骨粉ノ試輸ニヨリテ好成績ヲ見タル商店ハ、此年早クモ同社ト特約シテ、事實上、其輸出余力ニ対スル一手販売権ヲ獲得セシモ、本品ハ固ヨリ肉業ノ一副産物ニ過ギザレバ、肥料界ノ需要如何ニヨリテ主動的ニ産額ヲ増加スル由ナク、到底一社ノ産額ヲ以テ我が大需要ヲ充タス可クモアラザルヲ以テ、シドニー支店ノ北村ハ広ク全濠各地ニ似寄り品ノ製造家ヲ物色シテ、之ヲ独占的ニ買輸スルノ外、或ハ新タニ其製造ヲ勧誘シ、或ハ製品ノ改良ヲ企図セシムル等、大ニ代用品ノ蒐集ニ努力セシノミナラズ、窒素本位ノ乾血類ヲ買集メタルハ勿論、純骨粉ニ近キ多燐品ノ買附ニモ及ビ、更ラニアデレード側ノ Guano Phosphatic ヨリ濠洲自産ニ属セザル Thomas Phosphatic 乃至加里肥料「ガイニット」迄モ試ミニ転輸シタルガ、其成績ノ佳良ニシテ取扱商品トシテノ命脈モ亦從テ長カリシハ多窒ノ肉骨粉及ビ乾血ニシテ、他ハ多ク思ハシカラ

ザリシ

一方、日本ニ於ケル之レガ販売ニ関シテハ、或ハ専用商標ヲ登録シテ各地ニ広告標ヲ建設シ、或ハ広ク地方新聞紙ニ一斉広告ヲ掲出シ、又ハ各地ニ代理店特約店等ヲ設定スル等、大ニ努力スル所アリ、其手段方法亦一時ハ頗ル花々敷カリシ結果、兼松商店ノ名ハ貿易商トシテヨリモ寧口肥料商トシテ広ク当時ノ世間ニ知ラル、ニ至ル

而シテ此種輸入肥料ノ販売ハ関西ニ於テノミ商店直接其局ニ当リタルモ、関東方面ハ之ヲ先年来我が東京代理店タル鈴鹿氏ノ個人経営ニ一任シタリ、之レ鈴鹿肥料部ノ発端ニシテ、後年同氏ガ深川肥料界ニ嶄然頭角ヲ見ハシ、更ニ兵庫ニ支店ヲ設ケ、日本ノ肥料商中第一人者ヲ以テ自任シ、大正九年初頭、資本金五百万円払込済ノ私人会社タル株式会社鈴鹿商店ヲ設立スルニ至リシ盛運ハ、実ニ茲ニ其端ヲ発セルモノナリ

千住製絨所需要羊毛注文ノ下請

陸軍省所管千住製絨所ハ明治八九年頃ノ創設ニ係リ、実ニ本邦毛織工業ノ鼻祖タルノミナラズ、後年民間ニ於テ徐々ニ同工業ノ試開セラル、ニ及ビテモ、猶同所ノ羊毛需要高ハ遠ク他ノ群ヲ抜キ居リシガ、其供給ニ関シテハ特殊ノ事情ノ下ニ多年大倉組ノ独占ニ属シ、後福島組ガ其一部ヲ割愛セラル、ニ至リシ外ハ、或ル默契ノ下ニ断ジテ他ノ侵入ヲ許サズ、而カモ之レ等ノ所謂御用商人ハ其羊毛買付上、自身何等ノ施設ヲ有スルニ非ズシテ、単ニ濠洲ノ外人 Wool buyer ニ委托注文ヲ転發シテ之レヲ取次ギ、自己ハ請負式ニテ納入シ以テ高率ノ利益ヲ占得セルニ過ギスサレバ店祖ハ廿五年一月、見本及ビ羊毛雜誌等ヲ送りテ買次方下命ヲ請願セシヲ手始メトシ、製絨所当局ハ勿論、陸軍省官憲等ニ対シテモ該羊毛ノ買次ヲ当店ニ委托セラレンニハ中間商人ノ利得ヲ省キ、製絨所原料代ノ節約著シキノミナラズ、彼地ニ孤軍奮闘セル日本商人ノ信用ヲ加フル

所以也トノ正論ヲ以テ、或ハ堂々之レニ迫リ、或ハ歎願其情ヲ尽スコト其幾回ナルヲ知ラズト雖モ、此供給壟断ハ元来一種ノ高等政策トモ称スベキ默契ニ属スルコトナレバ、店祖ノ所論モ運動モ固ヨリ何等ノ反響ヲ来スベクモアラズ

斯クテ日清戦後ノ軍備拡張ニ伴ヒ同所ノ設備ハ頓ニ拡大セラレ、其原毛需要量モ亦從テ倍加スルニ及ビ、店祖ハ徒ラニ之レヲ傍觀スルニ忍ビズ、一時便宜ノ手段トシテ大倉組及福島組ニ迫リ、其受命羊毛買付ノ一部ヲ外人ニ托スルニ代ヘテ当店ニ委托セシムルコトニ勉メタル結果、漸ク此年九月、福島組ト羊毛委托買次ニ関スル協定ヲ結び、諸費用ハ実費付出シ、当店買次手数料ハ原価百分ノ三トシテ此年十二月着荷ノ約六十俵（勿論凡テ *Scrap Wool* 也）、一万五千余ポンド、代金九千余円口ヲ初回トシ、尔後三十六年初ニ亘リ前後数回ニ注文ヲ受ケタルモ、其斤量ハ通算僅カ二十万ポンド前後ニ過ギズ、更ラニ大倉組ニ至リテハ、僅カ二三十一年初ト三十二年初トノ前後二回ニ合計四万ポンドヲ注文シ来リシノミ

蓋シ、之等御用商人ノ意中、固ヨリ好ンテ我ニ注文スルニ非ス、唯峻拒ハ却テ自己ノ利益擁護ノ道ニ非ズトシテ一種恐怖ノ念ヨリ渋々小注文ヲ発シテ口塞ギニ勉メ居ルニ過ギザレバ、店祖モ強テ追窮セズ、専ラ直接受命ノ機運促進ニ勉ムルコトトシタリ

年度輸出入高（輸出ニ増シテ輸入ニ減ジ） 結局大体前年ニ同ジ

本年ノ輸入ハ、羊毛ニ於テハ七百七十俵廿二万五千ポンド八万六千円ト昨年ニ半減シ、Tallow
モ亦百十屯一万八千円ニ減退シタルニ反シ、肥料ハ七百五十屯二万五六千円ニ、屠業雜貨亦四百
五十屯二万八千円ニ急増シ、製膠亦三千円ニ上リタルモ皮革類ハ全ク振ハズ、旁輸入品総原価ハ
十六万三千円ニ激減シ、其運賃支払高ハ一万八千円、輸入税ハ三千二百円ヲ算シタリ
然ルニ当年ノ輸入品売上高ノ約廿五万円ニ上レル記録ヲ存スルニ見テ、前年ノ輸入ニ係リ、而カ
モ本年ノ売揚ニ加ハリタルモノ少ナカラザリシヲ知ル
猶、此年 Cokes Shale・木材等取合セ二千円計リノ見本荷ヲ輸入シタル事実ハ、注目ニ値スル所
ナリ

一方、輸出ニ在リテハ絹手巾ハ六千余打一万八千余円、羽二重ノ千三百七十六反亦一万八千円ヲ

算シ、燐寸ハ六千円、陶磁器・樟腦各五千円前後、其他諸雜貨等モ大体前年同調ナルニ精米ノ突
如トシテ二百六十屯三万円弱ノ巨額ニ上ルアリテ通算十六万円ニ近ク、外ニ樟腦・緞通等ノ委托
輸出品八千円ヲ併セテ総輸出高十六万七千円、此才量千四百屯、運賃二千百円、輸出入稍相匹敵
スルヲ見ル

年度収支并ニ利益処分概表

当年度収益ハ大体前年同調ニシテ、収支処分概数如左

〔表6参照〕

明治三十（一八九七）年

一七

〈表 6〉 明治30年度 収支及び利益処分概表

肥料	¥ 7,600	輸入商品利益 (左表ノ通り)	¥ 23,300
屠業雑貨	6,900	輸出品買次手数料	7,500
羊毛	6,600	同上見込値増シ	7,900
Tallow	2,250	シドニー支店付出シ利息	3,500
其他	250	保険代理等収入	200
小計	23,600	N. Y. K. 運賃割戻シ	2,700
内 雑品損失	300	雑収入其他	900
差引輸入益	¥ 23,300	以上総益	46,000
		内 利息及諸経費 (左表ノ通り)	25,950
利息	14,100	差引純益	20,050
給料	5,250	内 什器銷却	500
旅費	1,100	再差引	19,550
諸税及印紙	1,100	特別会計蚕糸部純益	2,250
火災保険料	600	合計 純益	¥ 21,800
其他ノ雑費	3,800		
総経費	¥ 25,950		

備考, 蚕糸部ハ給料諸経費共自算ノ組織

前表年度純益金		¥ 21,800
此処分		
積立金	12,000	
蚕糸部積立金	2,000	
地所家屋銷却積立金	2,050	
店主出資配当金	0	
夫人同上	1,000	
店主功勞金	2,000	
店員賞与金	2,750	21,800
		<u>0</u>

明治三十一年（一八九八）年

東京支店ノ設置

曩ニ東京代理店ヲ設ケテ既ニ数年、同方面ニ対スル羊毛牛脂等輸入品ノ取引關係、次第ニ広汎且密接トナリ来リシ折柄、代理店主鈴鹿氏ハ自己ノ計算ニ係ル肥料部ノ販路拡張等ノ為メ、前年来、瀕々トシテ地方ニ出張ヲ要スルヲ以テ、商店ハ自身東京ニ其支店ヲ設ケ、從來ノ代理店ニ代フルノ必要ヲ感ズルニ至リ、此年一月、新タニ五十五才ノ中老西山徴「中略」ヲ採用シテ、鈴鹿氏後見ノ下ニ同支店ヲ担当セシムルノ案ヲ以テ、其準備ノ為メ一月十九日先ヅ東京ニ向ハシメ、二月一日店祖自ラ執筆、東京支店仮規則ヲ作り、遡リテ一月一日付ヲ以テ鈴鹿氏ハ東京支店相談役ヲ囑托シ、一等手代西山ニ四級俸三十五円ヲ給シ、副支人^(一配脱カ)心得ヲ命シテ東京支店支配人ニ任シ、猶二月初三等手代入江金三郎ニ同支店詰ヲ命ジテ會計事務ニ当ラシメ、店祖亦二月十日発上京、自ラ指揮ヲ執リ、日本橋区岩附町三番地ニ一戸ヲ借り受ケ、同月廿四日ヲ以テ茲ニ支店ヲ開設ス、

建物ハ住宅兼事務所向キニシテ家賃月四十余円、位置構へ共相当見ル可キモノナリ

五月ニハ山岸松三郎「中略」ヲ雇入レテ支店ノ営業係トセシガ、西山ハ支店開設半歳ニシテ八月早クモ辞職シタレバ、鈴鹿氏ニ支店監督兼務ヲ囑托シ、山岸ヲ支店業務総取扱ニ任ズ

十月、舟津大坂毛糸会社ノ研究ヲ畢へ、転シテ東京製絨会社ニ研究ヲ積ムニ及ビ、東京支店業務補助ヲ命シ、店住ヲ許シ当宿直ヲ担当セシム

東京支店仮規則

店祖親ラ起草セル東京支店仮規則、全文如左

第一条 支店ハ神戸兼松房次郎〔商店脱カ〕東京支店ト称ス

第二条 東京支店ノ業務ハ左ノ如シ

(一) 濠洲支店及其他海外ヨリ本店ニ輸入スル商品ノ販売及契約

(二) 本店ニ於テ要スル諸商品ノ購買及販売ノ依托

(三) 以上ノ外、本店ヨリ指令スル総テノ事務ヲ取扱フモノトス、規定外及指令外ニ係ルモノハ必ラズ本店ニ稟議シ、其指揮ヲ得ルニ非ンバ一切実行スルコトヲ得ズ

第三条 東京支店々員ノ任免及転任給俸等ハ総テ本店店則ニ準拠シ、店長ノ辞令ニ依リ其給俸ハ

支店ニ於テ支給スベシ

第四条 東京支店長ハ三等以下ノ職員ヲシテ登任セシメ、東京支店支配人及副支配人ノ任務ヲ取ラシムヘシ

第五条 東京支店長ハ本店ノ指揮ヲ恪守シ、支店ノ業務ヲ総轄シ、他ノ店員ヲ指揮シ、各其担当スル職務ヲ監督スベシ

第六条 支店長事故アル場合ハ、他ノ首座店員ヲシテ一時代任スルコトヲ得

第七条 東京支店ニハ名誉相談役一名ヲ置ク、相談役ハ支店長ヨリ便宜協議スル事柄ヲ判定シ、其所見ヲ開陳シ、又時宜ニ依リ支店長ト協議シ、店務ヲ補助スルコトアル可シ

第八条 東京支店々員ハ支店長ノ指揮ニ依リ、各自担任ノ事務ヲ掌弁スベシ

第九条 簿記ハ正式ニ抛リ記入シ、本支店計算ハ時々伝票ヲ以テ報告シ、毎月五日迄ニ前月中ノ勘定表ヲ調製シテ本店ニ送致スヘシ、又年度総決算ハ十二月廿五日ヲ以テ締切り、諸勘定表ハ十二月三十一日迄ニ本店ニ送致スルモノトス

但シ年度ノ損益ハ十二月廿五日ニ電信ヲ以テ本店ニ通報スベシ

第十条 旅費及滞在費等ハ当分実費ヲ支弁スルニ付、勘定書ヲ提出セシメ、検査ノ上支出スルモノトス

第十一条 支店ノ業務ハ時々本店ヨリ出張ノ上、検査スベシ

第十二条 予テ達示シタル店規ヲ恪守シ、若シ規定外ニ渉ル事柄ハ本店ノ指揮ヲ乞フモノトス
右之通仮定候事

明治三十一年二月一日

店長 兼松房次郎

明治三十一年（一八九八）年

一八七

支那貿易開始ノ準備

此年五月初、大沢大之輔「中略」ヲ採用シ、数ヶ月ノ予定ヲ以テ上海・蘇杭・京津・芝罘・牛莊地方ヲ視察セシメシガ、大沢ハ五月上旬出發、八月末歸神シタリ

蓋シ日清貿易振興ノ必要ヲ説ク声ハ当時我実業界ニ喧々タルモ、彼地ノ經濟事情ニ通セス、邦人ノ直接之レヲ営ム者極メテ少ナクシテ、両国間ノ貿易ハ殆ンド挙ゲテ在留清人ノ手裡ニ委スルノ実情ナリシカバ、店祖ハ対濠貿易業ノ稍緒ニ就キタル折柄、徒ラニ之レヲ人ニ説カンヨリハ先ツ隗ヨリ始ムルト共ニ、先年ノ大旱ニ際シ嘗メタル如キ濠洲ノ大不振再現ニ備ヘントノ腹案ヲ以テ渡濠前、之レヲ決シ置キシモノナリ

商号并ニ支配人ノ登記、支配人ニ対スル委任契約

明治四年、我政府ハ初メテ法律取調局ヲ置キ、尋デ独人某ヲシテ商法ノ起草ニ当ラシムルニ及ビシモ、其法律トシテ發布セラレタルハ約廿年ヲ経タル明治廿三年三月ノコトニ属シ、而カモ予定ノ実施期タリシ廿四年初頭ハ故アリテ延期セラレ、僅ニ其一部分ノミハ廿六年七月一日ヨリ実施セラレタルモ、大部分ハ更ラニ之レヲ修正シテ第十一議會ノ協賛ヲ経、当三十一年ヨリ其実施ヲ見ルニ至リタル次第ナルガ、其商業登記ニ関スル規定ニ従ヒ、商店ニテモ此年七月直チニ「兼松商店」ノ商号并ニ原幸治郎ノ支配人登記ヲ遂ゲタルガ、其營業主ハ店祖タルコト勿論ニシテ、營業ノ種類ハ「海外直輸出入貿易商及商品依託売買」、營業所ハ「神戸市海岸通三丁目二番屋敷」トシテ登記シタリ

之レト同時ニ店祖ヨリ營業一切ヲ支配スヘキ委任状ヲ改メテ原ニ交付シ、別ニ両者左ノ契約ヲ署

名捺印シタリ

第一条 当商店ハ兼松商店ト称ス

第二条  (ダイヤモンド形ニシテ其中ニK字ヲ書ス) 印ヲ以テ商票トス

第三条 当商店ハ神戸市海岸通三丁目ニ番屋敷ニ設置ス、但シ営業ノ便宜ニヨリ内外枢要ノ地ニ支店又ハ出張所ヲ置キ、或ハ代理店ヲ設クルコトアルベシ

第四条 当商店営業ノ科目ハ左ノ如シ

- 一、海外諸洲ニ商品ヲ直輸出シ、直輸入ス
- 一、商品ノ委托売買

第五条 当商店ノ存立期限ハ無限トス

第六条 商業ハ信義ト確實ヲ旨トスルモノニ付、顧客ニ対シテハ正直ヲ表彰シ、都テ深切町
嚀ニスル事

第七条 商業使用人ハ協力一致シ、諸事ニ至重ノ注意ヲ為シ、忠直ニ勤務セシムル事

第八条 商店ノ機密ニ関スル事件ハ、必ズ他ニ漏洩セシメザル事

第九条 会計其他ノ諸帳簿ハ都テ正式簿記法ニ依リ取扱ヒ、正確明瞭ナラシムル事

第十条 前各条ノ外ハ都テ支配人ニ一任ス

右契約ヲ表示シ、爰ニ署名捺印ス

明治三十一（一八九八）年

店祖第六次渡濠

明治廿八年十月末帰朝以来、引続キテノ日本生活ハ創業以来ノ店祖トシテハ実ニ無比ノ長期ナリト雖モ、星霜僅カニ二年半ニ充タズ、而カモ此期間ニ於ケル店運ノ進展ハ実ニ日醒シキモノアリ、資力ノ急増独立ハ言フニ及バズ、營業ノ拡大、人員ノ倍加并ニ之レニ伴フ諸制度等、面目全ク一新シ、東京支店ノ新設モ亦決行セラレタルヲ以テ、店祖ハ更ラニ濠洲支店ノ整備ヲ図ランガ為メ、此年三月廿二日、東京丸便ニテ神戸ヲ発シ、第六次渡濠ノ途ニ上リ、彼地滞留約八ヶ月、年末春日丸ニテ彼地ヲ発シ、翌三十二年一月末帰朝ス

濠洲支店規則ノ制定并ニ其充員

濠洲支店設立以來、既二十年ニ近ク、本店ニ対スル其借方勘定尻ハ（支店資本金勘定設定後ハ同勘定ヲ加算シテ）常ニ商店実資力ノ過半ヲ頒シ居ルニ拘ラズ、其損益ノ計算ハ絶テ精確ニ報告セラル、モノナク、會計的立場ヨリ見レバ形勢誠ニ混沌タル状態ヲ持續シ来リシガ、本年三月、店祖初メテ濠洲支店仮規則十九ヶ条ヲ案シテ携行シ、十二月之レヲ修正シテ濠洲兼松支店々則十八ヶ条ヲ定ムル等、此年ヲ以テ同支店モ亦本店并ニ新設ノ東京支店ト共ニ制度ノ形式始メテ備ハルニ至リタルガ、店祖出発ニ引続キ、支店充員ノ為メ五月輸入部主任松田一等手代及三月再入店ノ永野三等手代ニ夫々濠洲支店詰ヲ命シ、松田ハ妻女并ニ永野ト同船五月央発近江丸ニテ赴任ス、會計主任古立ヲ輸入部主任ニ転シ、新入店ノ四方ヲシテ會計部主任ヲ代理セシム

濠洲兼松支店々則、全文如左

第一条 支店ノ業務ハ商品ノ輸出及輸入ヲ取扱フモノトス

第二条 第一条ノ規定外ニ係ル業務ハ必ず本店ニ稟議シ、其指揮ヲ得ルモノトス

第三条 支店員ノ任免転任及給俸手当等ハ総テ本店々則ニ準拠シ、店長ノ辞令ヲ以テ達スベシ

第四条 支店限りノ雇員ハ支店長ノ見込ヲ以テ採否スルコトヲ得ト雖モ、其都度本店ニ稟告スベシ、又雇員ハ支店長ノ見込ニ依リ一時賞与金ヲ付与スルコトアルモ、例規ノ賞与金及其他ノ恩典ニ預カルノ資格ナキモノトス

第五条 店則ヲ犯シタル店員ハ支店長ハ店規ニ照シ、本店長ヲ代表シテ臨機相当ノ処分ヲ施シ、其事由ヲ本店ニ稟告スベシ

第六条 支店長ハ二等以上ノ職員ヲシテ登任セシム

第七条 支店長ハ総テノ店規及本店長ノ指揮ヲ恪守シ、支店ノ業務ヲ統理シ、他ノ店員ヲシテ亦店規ニ服従セシメ、且ツ店員ヲ指揮シ監督ノ責ニ任ス

第八条 支店長事故アル場合ハ副支配人（副支配人ヲ置カザルトキハ首座ノ店員）ヲシテ一時代理セシム

第九条 支店員ハ店規ヲ守リ、支店長ノ指揮ニ依リ各自担当ノ事務ヲ掌理スベシ

第十条 金銭ノ出納ハ悉ク支店長ノ捺印亦ハ自署アル伝票ヲ以テ取扱フモノト定ム

第十一条 支店員ハ本店長ノ許可ヲ得ルニアラザレバ、店金ノ私借ハ嚴ニ之ヲ禁止ス

但シ疾病等萬止ムヲ得ザル事情アルモノハ支店長特ニ総額拾磅迄ヲ制限トシ、一時貸与ヲ許スト雖モ、其情状ハ直ニ本店ニ稟告スヘシ

第十二条 商業ノ都合ニヨリ他ノ他方へ代理店ヲ設置セントスル見込アルトキハ、其目的及調査ノ実況ヲ本店長ニ稟議シ、許否ノ指定ヲ請フヘシ

第十三条 支店經濟ノ勘定ヲ左ノ二種ニ區別スヘシ

一、支店（輸出部・輸入部）

二、小売店

第十四条 簿記ハ正式ニ抛リ記入シ、本支店ノ貸借諸勘定ハ双方ヨリ伝票ヲ以テ報告シ、亦支店勘定書前月ノ分ハ翌月ノ最近便ニテ本店ニ送致スルモノトス、又年度總勘定ハ毎年十二月廿五日ヲ限トシ締切トス

第十五条 支店及小売店ノ損益勘定ハ、左ノ規定ニ依ルモノトス

一、資産權利ニ属スル貸金ノ内、全ク収入ノ見込ナキモノハ（貸売等ヲ指示ス）、之ヲ控除シテ損金ノ部ニ加算スヘシ

二、残品原価ノ見積ハ輸出品ハ原価トシ、輸入品中直引ニ属スルモノハ原価ヲ遞減シ、
余ハ原価ヲ以テ資産部ニ合算スヘシ

第十六条 毎年末支店損益ノ勘定報告ヲ得タル後、店長ヨリ賞与金ヲ達スルモノトス

第十七条 旅費及滞在費等ハ当分実費ヲ支給ス

第十八条 支店ノ業務実見トシテ本店々長ノ命令ニ仍り出張シタルトキハ、其事蹟ヲ詳カニシ、
一切ノ閲覧ヲ受クルモノトス

右之通相定候事

明治三十一年十二月

第十一条及第十八条等ノ特ニ抑入セラレタルモノ、或ハ時弊ノ然ラシメシモノアルニ由ル乎

シドニー支店ノ計算初メテ明カナリ

シドニー支店開設以来ノ収支如何ニ関シテハ、廿三年末、同地ヨリ帰朝セル店祖ガ同年度本店決算表余白ニ親ラ備考的ニ「シドニー支店損失 £711.0.7 @¥6.00 ¥4,266.175」ノ一行ヲ附記セル外、明治三十年ニ至ルマデ七ケ年間、何等計表記録ノ徴ス可キモノナク、同支店ハ商買ニハ熱心ナルモ計算上ニハ隠然一独立国ノ觀アリテ、本店ヨリハ屢其収支ヲ明カニセンコトヲ要求スルモ、常ニ多忙ノ故ヲ以テ曾テ其計算ヲ表出送致セシコト無カリシト伝ヘラル、所謂尾大振ハザリシモノ乎

然ルニ昨年原支配人ノ臨時出張ニ引続き、本年四月、店祖着濠督励ノ結果ナルベク、昨三十年四月一日ヨリ本年四月末日ニ至ル十三ケ月間ノ損益計算并ニ右計算期末ニ於ケル資産負債表、初メテ作成セラレ其送致アリタルガ、其概要ヲ摘録スレバ

輸出部ハ左ノ通り約四百£ノ利益勘定ヲ示スト雖モ

〔表7 A 参照〕

当時支店収支ノ根幹ヲ成セル輸入部ハ左表ノ如ク

〔表7 B 参照〕

恰カモ経費丸損ノ姿ニテ二千二百£ノ大欠損ヲ見ハシ、更ラニ其別働体タル小売店モ亦左表収支
対照ノ結果

〔表7 C 参照〕

差引百五十£ノ損失ニ終リタレバ、輸出部ノ利益ヲ扣除スルモ、支店全体ノ損失ハ実ニ二千£ニ
近キ巨額ニ上リタルノミナラズ、期末ノ資産負債表ニハ店員私借（三十年四月以降ノ分ナル旨、
店祖自筆ノ註釈アリ）千数十£ヲ資産ニ計上シアルニ付キ、之レヲ後日実現セシ通り其資産ヨリ

切り落サンカ、明治三十一年四月末ニ於ケルシドニ一支店ノ欠陥高ハ恰カモ三千£ニ上リ、前年六月、本店ニ於テ同支店勘定ヲ分割シテ新ニ設定シタル同支店資金勘定式万八千円ハ尔来一年ナラザルニ早クモ全然消尽セラレ、猶足ラザルガ計算的立場ニ陥リ居リタルモノナリ
尤モ本店ニ於テハ去ル廿五六年ノ頃ヨリ輸出品ニ対シ見込値増シナル付シ方ヲ案出シテ、昨三十年末マデ続行シタル結果、此五六年間ニ輸出品買次手数料以外、此値増シ勘定ニヨリ支店ニ課シタル金額累計、実ニ三万七八千円ノ多キニ上ルヲ以テ、単ニ計数上ヨリノミ論ズルトキハ、若シ此本店ノ変態収益手段ナカリセバ、シドニ一支店輸入部ハ如此巨損ヲ来スコトナク経過シ居リシ筈ナリシモノト言フヲ得ベシ

〈表7〉 明治31年度 シドニー支店収支概表

A：シドニー支店輸出部収支概要

支出		収入	
常雇員給料及臨時雇人夫賃	£ 450	輸出諸費本店へ付出シ高	£ 850
車力賃	230	輸出手数料	〃 550
海上保険料	200	郵船運賃戻シ (神戸ト折半)	220
海外電報料	125	諸戻シ金収入高	80
店舗家賃分担額	57	以上収入合計	£ 1,700
其他諸費用(店員給ヲ含マズ)	238	内 左表支出合計	1,300
以上支出合計	£ 1,300	差引利益高	£ 400

B：シドニー支店輸入部概表

期初手持商品高 (諸費込)	£ 6,250	当期間売上総金高	£ 23,300
期間新規輸入高 (〃)	22,200	外ニ雑収入	150
合計	28,450	合計	23,450
内 期末持品高 (諸費込)	6,100	内	22,350
差引	£ 22,350	差引収入超過額	1,100
		割引及口銭并ニ運賃車力賃支払高	810
		貸倒レ高及訴訟費用	220
		Melbourne 代理店費用等	70 1,100
		差引	£ 0

店舗家賃分担額	約 400	
給料	850	
郵便電信料	110	
旅費	210	
本店へ納メ利息并保証料	330	
其他諸雑費	300	
合計総経費	£ 2,200	丸損

C：シドニー支店小売部概表

家賃	£ 730	期間売上総高	£ 4,550
給料	270	期末在品高	1,100
広告費	150	合計	5,650
車力賃包紙代	100	期初在品高	£ 655
瓦斯電燈裝飾費等	70	期間仕入高	3,750 4,400
其他諸費	80	差引売上総益	£ 1,250
総経費	£ 1,400		

前項シドニー支店大欠損ニ関スル考察

前項記述ノシドニー支店欠損計上高約千九百£ハ、当時同店ヨリ送付シ居レル諸計算表ノ正面ヨリ見レバ、固ヨリ本年四月末ニ終ル十三ヶ月間ノミニ於ケル各部ノ損益差引尻ニ相違ナシト雖モ、明治三十年三月末以前、即同支店開設以来満七ケ年ノ損益ハ曾テ本店ニ振替ヘ整理シタルノ事跡ナク、去リ迎、七ケ年間ノ損益恰カモ相償ヒタリシニ考ヘ得ベクモ非ズ、且当初ノ七ケ年ガ平均シテ損益恰カモ相償ヘルニ、次ノ十三ヶ月ノ収支ガ忽然トシテ何千£ノ損失トナルガ如キハ特殊ノ事情ヲ発見セザル限り、到底首肯シ能ハザル所ニ属ス

思フニ前記十三ヶ月間ノ支店輸入部損失約貳千貳百£中ニハ、其以前七ケ年間ニ於ケル支店全体ノ差引損失累計高ヲ包含シ居ルニハ非ル歟

蓋シ支店ガ北村・小川ノ二重要店員中、責任ノ何レニモ統一セラル、所ナク、自然思ヒ思ヒノ行

動ニ出デ、支店全体ニ亘ル収支損益ヲ統轄整頓スルノ責任者無キ変態ノ下ニ数年ヲ経過シ来リシモノナリトセバ、其計算整頓ノ初メニ於テ、其出入リノ簡單明瞭ナル輸出部勘定并ニ其品目ハ煩雜ニテモ自ラ別箇經濟ノ姿ナル小売店勘定ヲ始メトシ、手形銀行得意先等ノ對外勘定ニシテ明白ナルモノハ夫々其現状ニ依リテ区分整理シタランモ、以前七ケ年ノ損失ヲ初メ明瞭ヲ欠ク借方勘定ハ、凡テ支店ノ基下タル輸入勘定ニ持込マレ、期初ニ於ケル商品現在高ノ棚卸シ評価ト符合セザルニ拘ラズ、便宜其勘定尻ヲ以テ期初ノ在品高ト見做シ、以テ計算整理ノ進行ヲ図リタルニハ非ル乎

店祖ガ特ニ三十年四月以降ノ分ト註釈セル三十一年四月末現在、店員私借高ガ道彦君ノ為メニ膨大シタル理由ナキニ非ズトスルモ、無慮千円ヲ超過セル一例ヲ見ルモ、其以前七ケ年ハ絶無ナリシモノトハ如何ニモ考ヘ難ク、此種勘定ノ如キモ亦或ハ其以前ノ分ニ營業損益ト共ニ一括整理ノ便法ニ出デタルモ知ル可ラズ、少クトモ其以前ノ分ヲモ含タル累計ニシテ、註釈ノ誤リアルモノト見ルノ外ナカルベシ

店祖ノシドニ―支店収支予算（樂觀ヲ許サズ）

支店員ヲ督励シテ支店ノ収支精算ヲ遂ゲシメ、以テ其巨損ヲ明カニシタル店祖ハ支店将来ノ計ヲ立テ、且ツ店員ヲシテ依ラシム可キ標準ヲ示スノ必要ヲ感ジタル結果ナルベク、此年六月、同地ニ於テ支店予算ヲ作成シ、「改革支店収支予算勘定」ト題シテ之レヲ本店ニモ寄セ来リ、七月四日着郵セリ（「明治二十年六月起案」ノ肩書アルモ三十一年六月ノ誤記ナルベシ、万一然ラズバ三十年ノ在神中ノ起案ヲ三十一年濠洲出張中改革シタルモノナラン）

此予算并ニ備考的附記ハ、同支店当時ノ状況ヲ知ルニ頗ル便宜ナルヲ以テ之レヲ詳録センニ「後略」

〔表8参照〕

〈表 8〉 明治31年 シドニー支店予算

「支店輸出入部収支概算」

支出		収入	
家賃 £3/10/- per wk	年額 £ 182	肥料3000ton £12,000 手数料4%	£ 480
北村給料4/10/-	〃 234	羊毛 〃 15,000 〃 1%	150
松田 〃 3/-/-	〃 156	輸出諸雑品	150
大西 〃 1/15/-	〃 91	輸出運賃割戻シ	200
道彦 〃 1/15/- 小売店ト折半負担	45.10/-	輸出部雑益	50
子供 〃 7/6	19.10/-	輸入米500tons 運賃割引共口銭7/6	187.10/-
Book Keeper 12/6	32.10/-	〃 雑貨品販売益15%on£3,500	525
定期預£500ニ対スル		〃 運賃割戻シ	60
本店へ支払利子6%	30	以上総収入	£ 1,802.10/-
資本金£1,500 〃	90	内 左表諸経費合計	1,180.10/-
本店ヨリ借越£2,000ニ		差引純益	£ 622
対スル同上10%	200		
保険料其他一切ノ経費	100		
	<u>£ 1,180.10/-</u>		

「小売部収支予算」

支出		収入	
家賃 £13/10/- wk	年額 £ 702	商品販売益80%on£2,000 (cost)	£ 1,600
奥村給料2/15/- wk	〃 130.10/-	運賃割戻シ	35
道彦給料半額負担	45	空箱売却代其他雑益	35
お定 〃 15/-	39	合計総収入	£ 1,670
売子三人 12/-, 11/-, 10/-	78	経費合計	1,247.16/-
子供一人 7/6	19.10/-	差引見積純益	£ 422.4/-
電気及瓦斯代 1/-/-	52		
包紙及糸代 6/-	15.12/-		
運送料郵税筆墨市税其他 12/-	31.4/-		
資金利子本店へ支払6%on£1,000	60		
臨時費広告料保険料等	75		
経費合計	<u>£ 1,247.16/-</u>		

日本製モスリン初メテ市場ニ上ル

明治廿八年後半、大坂ニ創立セラレタルモス綸紡織会社ハ本年初メテ其製品ヲ市場ニ出シ、第一回荷壹万碼ヲ堺卯楼ニテ試売ニ附セシガ、平均売価碼十六錢八厘ナリシ、之レ実ニ日本製モスリンノ市場ニ出ヅル嚆矢タリ

次デ東京モスリン会社（廿九年三月創立）モ翌三十二年ニハ既ニ製品ヲ出シ、其市場タル大坂方面ニ対スル之レガ販売ヲ商店ニ委托セシ形跡アルモ、此委托ハ言フベキ取引ニ及バズシテ止ミタルモノ、如シ、因ニモスリン市価ハ翌々明治三十三年ニハ羊毛相場暴騰ノ反影トシテ碼三十五錢見当ヲ唱ヘタリ

斯クテ東西両モスリン会社ノ作業ハ漸ヲ以テ拡大セラレタルモ、何レモ *Wool* ヲ輸入シテ紡織スル設計ナレバ原毛ニハ直接ノ交渉ナク、其後十有余年、濠洲ニ *Wool* 事業ノ起ルニ至ルマデ商店

ハ之レ等モスリン会社トハ何等ノ取引ヲ有スルニ至ラザリシ

肥料取締法制定ノ建議

商店輸入ノ濠洲産肉骨粉ハ前々年末試売以來、其売行成績極メテ良好ナルモ、各種新肥料輸入ノ趨勢益顯著ナル折柄、農家ノ智識不足ニ乗シ、或ハ不正ノ品ヲ販売スル者モ生ズベキ態アルヲ以テ、之レヲ未前ニ防止セン為メ肥料取締法制定ノ必要アルヲ看取シタル店祖ハ、恰カモ其頃新西蘭ニ於テ新タニ施行セラレタル取締法ノ要点等ヲ示シ、同法制定建議方ニ関シ、濠洲滞在中、本店ニ指示スル所アリ、本店ハ此旨ヲ承ケテ、此年十一月、先ヅ五二会ヲ通ジテ其筋ニ建議スル所アリ、店祖亦翌三十二年一月帰朝後、更ラニ鈴鹿氏ト共ニ此目的ニ向ツテ努力スル所尠ナカラザリシガ、我政府ハ三十二年四月初メテ肥料取締法ヲ發布シ、同年十二月一日ヨリ之レヲ実施スルニ至リ、商店ノ建議ハ速カニ其所期ヲ達スルコトヲ得タリ

肥料輸入税免除ノ建議

其頃施行セラレ居リシ我邦ノ関税法ハ、輸入肥料ニ課税スルノ精神ニハ非ズシテ、鳥糞・油糟・乾鯧等ハ何レモ免税品ナリシニ拘ラズ、商店輸入ノ肉骨粉・乾血・硫酸安母尼亞等ハ免税品目中ニ列挙セラレ居ラザル為メ、当初以来、従価5%（慶応二年（一八八六年）ノ条約ニヨリ税権ヲ束縛セラレタル日本ノ輸入税率ハ、尔来三十三年ノ久シキ一率ノ5%税ナリシナリ）ヲ課税セラレ（三十二年一月以後ハ税率改正ノ結果、従価百分ノ十ヲ課セラル）居リシガ、之レ全ク同法附属免税品目表編成ノ当時、何人モ之レ等ノ肥料ニ考へ及バザリシ結果ナルコト明白ニツキ、此列挙式ヲ改メ各種肥料ヲ包括的ニ免税品目中ニ加フルノ必要アリトシ、店祖ハシドニ一出張中、前項取締法制定建議方ト共ニ本店ニ指示スル所アリ、本店ハ此年十一月行動ヲ起シタルモ、其理由ノ明白ナルニ拘ラズ、法ノ性質上、取締法ノ單純ナル比ニ非ザルガ故ニ、店祖ハ翌年一月帰朝早々

上京シ、政府并ニ議會等ニ極力奔走シテ其成効ニ努ムル所アリ、遂ニ其志ヲ達シ、三十二年三月
發布、同年九月十日実施ノ関稅定率法中一部改正ノ法律ニヨリ、各種肥料ハ茲ニ初メテ包括的ニ
免稅品目中ニ加ヘラル、ニ至リシコト、取締法ノ実施ト相俟チテ農事ノ進歩ニ対スル店祖ノ一大
貢獻ニシテ、先年ノ羊毛免稅運動ノ成功ニモ對比スベキ所トス

Oleine・椰子油及硫酸安母尼亞ノ初輸入

昨明治三十年シドニー支店ヨリ Oleine 油見本二罐ヲ送り来リシニ端ヲ発シ、直ニ東京製絨会社等ニ勧誘試用ノ結果、当春初メテ同品二屯（原価一屯十四£半）ヲ輸入シタルコト実ニ Oleine 油ガ日本ニ輸入セラレタル嚆矢ニシテ、間モナク千住製絨所ニテモ採用スルニ至リタレバ、三十二年ニハ五十屯、三十三年ニハ百数十屯ノ輸入ヲ算スルニ至リ、尔来多少ノ盛衰ナキニ非ルモ、需要ノ大勢ハ毛織工業ノ發達ニ伴ヒテ増加シ、多年商店ノ輸入品中頗ル重要ノ地位ヲ占メタルガ、唯近年内地製品ノ進歩ニ連レ、稍昔日ノ重要度ヲ失ハントスルヲ見ルノミ

又此年八月、シドニーヨリ椰子油一屯（原価一屯廿二£）ヲ試輸シタルコト、濠洲製品ノ日本ニ紹介セラレタル端緒ナルモ、尔来時折稍纏リタル輸入ヲ見ルノミニシテ、常態ノ下ニ在リテハ新嘉坡製品ニ圧セラレテ、濠洲品ハ遂ニ stability アル商品トナル能ハズ

現代日本ノ輸入年額十万吨ヲ超エ、其年需要廿万吨ヲ称セラル、重要商品、硫安安母尼亞肥料ノ輸入ハ実ニ商店ガ鈴鹿氏ノ勧誘ニ依リ、此年十月、濠洲ヨリ五屯（原価一屯九£五志）ヲ試輸シタルニ始マルモ、商店ノ為メニハ遂ニ重要品タラズシテ終リヌ

肥料輸入高ノ猛進二年度輸出入額四十五六万円

当年度羊毛輸入高ハ前年ニ少増シテ十万余円ニ過ギザリシモ、肥料ニ於テ猛進商策ヲ採リタル結果、一躍十三万六七千円ニ上リテ輸入商品ノ首位ヲ占メ、*Fatigue* ハ四万三四千円ニ、*Oil* 約六千円ニ何レモ増進シ、屠業雜貨ハ二万四五千円ヲ示シテ前年ト大差ナク、之レニ鉛其他ノ諸品二三万円ヲ併セテ輸入品原価通計概算三十四万円前後ニ上リテ、一挙前年ニ倍シタレバ輸出ニ於テ精米ノ五万七千円ヲ筆頭ニ羽二重二万二千円、絹手巾一万円、樟腦七千円等ノ外、緞通諸雜貨通算十一万七千円ニ止マリ、前年ヨリ約五万円ヲ減ジタルニ拘ラズ、輸出入通計ニ於テハ却テ十二三万円ノ大増進ヲ示シタリ

経費ノ膨増二年度純益ハ却テ減少ス

当年度収支并純益処分概数、如左

〔表9参照〕

明治三十一（一八九八）年

〈表 9〉 明治31年度 収支及び利益処分概表

肥料	¥ 15,900	輸入商品利益（左表明細ノ通り）	¥ 31,300
屠業雑貨	4,550	輸出手数料	5,200
Tallow	4,300	輸出品見込値増シ	2,000
羊毛	3,900	〃　　付シ諸料剰余	1,050
leather	1,400	N. Y. K. 運賃割戻シ	4,000
其他諸品	1,250	保険部収益	300
合計輸入益	<u>¥ 31,300</u>	庫敷家賃収入	1,800
		雑益	300
		以上合計	<u>45,950</u>
		内 精米及玉葱損金負担	<u>2,250</u>
		差引	43,700
利息	11,350	利息及諸経費左表ノ通り	34,050
給料	6,500	什器銷却	250
旅費	2,000	再差引純益	<u>9,400</u>
諸税	1,050	特別会計蚕糸部純益	<u>3,800</u>
倉敷及保険料	3,100	合計年度純益	<u>¥ 13,200</u>
其他諸費	5,550		
東京支店経費	4,500		
総経費	<u>¥ 34,050</u>		

蚕糸部ハ給料諸経費共自弁ノ組織ナルコト既記ノ如シ

前表年度純益金	¥ 13,200
此処分	
本店積立金	7,000
蚕糸部積立金	3,000
地所家屋銷却積金	150
店主出資配当金	0
夫人同上	500
原支配人交際費	200
店員賞与金	2,350
	<u>13,200</u>
	<u>¥ 0</u>

シドニー支店当年度ノ収支　―続損

別項ノ如ク当年四月末ヲ期シテ決算ヲ遂ゲ、創設以来、始メテ其収支ヲ明白ニシタルシドニー支店ハ其累積ノ巨損千九百余£ヲ其俟後期へ繰越シタルガ、同店其後ノ進行ハ其成績依然不振ニシテ、当時店祖ノ計画セル既記ノ予算ニ伴ハザルコト遠ク、同年末（十二月末ト推定セラルルモ明確ナラズ、或ハ十月末ノメ切ナルヤモ知レズ）ノ決算ニ於テハ更ラニ八百余£ノ損失ヲ累加シ、都合欠陥高二千七百余£ノ多キニ上リ、遂ニ一大改革ヲ断行スルニ至ル（大改革ノ文字ハ記録中ニ発見セシモ、其内容ニ就テハ知ル所ナシ、或ハ道彦君ノ店務ヲ去リテ農学校ニ入学シタルガ如キ其一端ナランカ、北村氏ノ追調ニ待ツ）

シドニー支店ノ累積大欠陥五千£ノ放任繰越

前項シドニー支店累積ノ欠損二千七百余£ハ、実二千£ヲ超エル店員私借高ヲ其資産ニ計上シテノ立場ニシテ、此私借ノ回収見込絶無ナルコト既述ノ通りナレバ、之レヲ加算スルトキハ支店ノ欠陥ハ実二三千七八百£ノ巨額ニ上ル次第ナルガ、本店ガ之レニ対シテ何等ノ処置ヲ講ゼズシテ其俣次年度へ繰越サシメ置キ、日本側ニテ拳ゲタル僅々一万数千円ノ利益ヲ処分シテ、或ハ積立金ヲ作り、或ハ配当賞与等ヲ分配シテ、支店ト利害相及バザルカノ風ヲ示シ居レルハ実ニ怪訝ニ堪エザル所ナリ

尤モ右決算期ニハ店祖猶濠洲ヨリ帰航ノ途ニ在リ、為メ二年末ノ賞与金ヲ単ニ一部分ノ仮配分ヲ取計ラヒ、残部ハ店祖ノ帰朝ヲ待チテ、翌年二月六日、之レヲ配分シタリト推定シ得ベキ根拠アルモ、而カモシドニーノ欠損ハ、翌三十二年末、本店空前ノ好成績ニ際シテモ猶何等ノ処置ヲ講

ズルコトナク、其俣放置繰越シテ内外風馬牛相関セザルガ如キ觀アルハ、思フニ支店ハ之レヲ半
独立的ニ取扱ヒ、支店自身ノ損失ハ支店自ラ働キテ之レヲ填補セヨトノ激励的仕向ケノ意味モア
ランモ、一面既記ノ所謂三大事業完成ニ焦慮ノ折柄、資力ノ誇称ニ急ニシテ、之レヲ顧ルノ違無
カリシ嫌ナシトセズ

最近兩三年我が對外貿易ノ大増進ト大輸入超過
連年ノ輸入大超過ト財界ノ波瀾

商店創業ノ直前、年額一億円前後ニ過ギサリシ我が對外貿易額ハ、尔来漸増ノ傾向ヲ示シタリト雖モ、日清戦役直前ノ明治廿六年ニハ猶輸出九千万円弱、輸入八千八百余万円、出入合計一億七千八百万円弱ニ過ギザリシガ、翌廿七年ニハ初メテ出入各一億円台ニ上リテ兩者通算二億四千余万円トナリ、廿八年ニハ同二億六千五百万円ニ進ミタルモ、戦時中、朝野ノ警戒謹慎ニヨリテ輸出入ノ權衡ハ多ク乱サル、ニ及バズ、僅カ二年額数百万円ノ出超入超相交錯スル有様ナリシガ、戦勝後、上下共ニ積極方針ヲ採リ、事業勃興ノ結果、機械類ヲ初メトシ諸品ノ輸入急増シ、廿九年ニハ一億千八百万円ノ輸出ニ対シ一億七千二百万円ノ輸入、三十年ニハ一億六千三百万円ノ輸出ニ対シ二億千九百万円ノ輸入ヲ以テ、早クモ連年五千数百万円ノ大輸入超過ヲ示シタレバ、日

本銀行ハ昨三十年六月ノ日歩二厘上ゲヲ手始メニ八月十月ノ両度各一厘ヲ引上ゲ、更ラニ本年ニ入リテ二月三月ニ各一厘ヲ引上ゲテ警戒ヲ嚴ニセシモ、時既ニ遅ク、先年来注文セシ諸機械ハ続々トシテ輸入セラレ、加フルニ昨秋ノ凶作ニ因スル外米ノ輸入并ニ近ク実現スベキ関税改正ニ対スル見越輸入等アリテ、当三十一年ノ貿易ハ一億六千六百万円ノ輸出ニ対スル二億七千七百万円ノ輸入ヲ以テ無慮一億千弍百万円弱トイフ曠古ノ大輸入超過ニ終リシ程ナレバ、昨年秋冬ヨリ本年夏秋ノ交ニ至ル金融ノ逼迫ハ実ニ甚ダシク、株式市価先ヅ暴落シ、諸商品ニ次デ不動産価格ニ至ルマデ暴落セザルナク、会社商店ノ閉店解散尠ナカラズ、特ニ綿糸紡績業ノ窮状ハ手持綿価ノ下落ト綿糸対清輸出ノ不振トニヨリテ最モ甚ダシク、破産申請ヲ受クルモノスラ尠ナカラザリシガ、朝野ノ救済運動稍効ヲ奏シ、夏秋ノ交ヨリ金融漸ク引施シノ兆ヲ示シ、九月下旬ニハ兌換券ノ限外発行初メテ其跡ヲ絶チ、十月以後、日本銀行ハ年内ニ二回ノ利下ゲヲ行フ等、稍回復ノ曙光ヲ認ムルニ至リタリト雖モ、商工業ハ依然トシテ不振ノ裡ニ越年シタリ

明治三十二（一八九九）年

治外法権ノ撤廃ト改訂輸入関税率ノ実施

安政五年（一八五八年）、我邦ガ始メテ外国貿易ノ為メニ開港スルニ際シ、欧米諸国ト締結シタル通商条約ニ於テハ治外法権ヲ彼等ニ許与シ、且ツ關係諸事項ニ関シ凡テ偏務的協定ヲ為スノ止ムヲ得ザルモノアリ、其後八年ニシテ慶応二年、之レ等条約ノ改定セラル、アリシモ、固ヨリ多クノ立場改善ヲ望ム能ハズ、所謂税権ノ方面ニ就テ見ルモ、我国ノ課スル輸入税率ハ尔後三十有余年ノ久シキニ亘リ一率從価五分ヲ超ユル能ハザルノ拘束ヲ受ケタリ

サレバ此法権及税権ノ恢復ヲ期スル国民的熱望ハ、商権ノ恢復、即外商ノ手裡ヨリ我が貿易ヲ邦人ニ収メントスル努力ト相並ビテ所謂三権回復ノ声トナリ、明治中代ニ於ケル国民上下朝野ヲ通ズル対外標的トモ称スベキ姿ナリシガ、多年法制ノ完備ヲ計リタルト日清戦役ノ国威発揚トニ依リテ、主トシテ面目問題タル治外法権ハ当三十二年ヲ以テ完全ニ撤廃セラレタルニ拘ラズ、利害

問題タル税権ノ回復ハ更ラ二十有二年ヲ遅ラシ、明治四十四年ニ至リテ漸ク其目的ヲ達シタルニ過ギス

然レドモ明治廿七年ノ改訂条約ハ大体従価五分ヨリ一割ニ当ル差等税率ヲ規定シ、其調印後、五ヶ年ヲ経タル後実施シ、尔後十二ヶ年間、其効力ヲ有スルコトトナリタルガ、此附帯規定ノ五ヶ年モ漸ク経過シテ、当三十二年ヲ以テ右改定税率ノ実施ヲ見タル結果、国内ノ産業ハ稍必要ナル保護ヲ享受シ得ルニ至リ、商店取扱商品ニ関係深キ羊毛工業ノ如キモ、茲ニ一段ノ進展ヲ期シ得ベキ立場ニ進ミタリ

而シテ商権恢復ノ国民的事業ニ至リテハ、日清戦役以前ハ試験時代ト称スベク、同戦役ヨリ日露戦役ニ至ル十年間ニ於テ第一期ノ進程ヲ示シ、対露戦勝後ノ民力発展ニ依リテ半バ其目的ヲ達シ、大正欧乱ノ好機ニ乗シテ其後半ヲ完了シタルモノト見ルコト妥当ナルベシ

蚕糸部ノ大飛躍 — 見込売買ニ変シ数万ノ奇利ヲ挙グ

明治廿九年六月、商店ガ蚕糸屑物ノ取扱ニ染手スルニ当リテハ健実ナル漸進方針ヲ採リ、先ヅ輸出部内ニ蚕糸係ヲ置キテ試験的ニ其事ニ当ラシメシガ、同年中ノ取扱高千三百余梱、金額八万円弱、此収益約五百円ハ固ヨリ多カラズト雖モ、試験時代トシテハ満足ニ値スベク、三十年早々之レヲ昇格シテ蚕糸部トシタル第一年ノ取扱高ハ二千六百余梱、価額十五万円弱、依テ収ムル所ノ利益二千二百五十円ト穩健ナル發達ヲ示シ、猶部員ノ増加ニ伴ヒ、三十一年一月初メテ蚕糸部内規ヲ制定スルニ当リテモ、其劈頭ニ第一本業ハ居留地商館ト地方荷主ノ間ニ立チテ受托ノ売買ヲ為スモノナレバ双方ニ対シ勉メテ確實ヲ旨トシ、永遠ノ利益ニ着目スベシト宣明シタルコト、寔ニ其宜シキヲ得タルモノニシテ、同年中ノ取扱高ハ急増六千七百余梱、廿七万円弱ニ上リ、其収益三千八百余円ヲ算シタルニ見ルモ、前途何等焦慮ノ要ナキガ如シ

然ルニ当三十二年四月、改メテ蚕糸部規則十八ヶ条ヲ定ムルニ及ビ、先年来ノ方針ヲ一変シ、第一条ニ於テ「蚕糸部ハ当商店營業ノ一部ニシテ、蚕糸屑物ノ委託販売及商店自己ノ売買ヲ営ムモノトス」ト規定シ、受託ト自己計算トノ兼業ヲ声明シタルモノ、蓋シ同年七月制定ノ蚕糸取扱改良規定ノ骨子ヲ成セル「当店特定ノ荷印并ニ等級標準ノ信用ヲ世界ノ当業界ニ樹立シ、以テ本邦従来ノ屑物取引ニ顯著ナル品質不同、不正荷造等ノ通弊ヲ矯メン」トスル店祖ノ高遠ナル理想ヲ実現スベキ第一階段ナリシナル可ク、其着眼極メテ佳ナルモ、外半面ノ弊ヲ除カントシテ内半面ノ弊ノ新タニ発スベキニ備フル所ヲ欠キシカバ、既ニ自己計算ノ売買ヲ開始スル以上、薄利ナル受託營業ハ人情之レヲ輕視シ易ク、当局者ハ投機的ノ売買ニ趁リ、当年ノ取扱高ハ六千四百余圓ヲ示シテ、量ニ於テハ昨年ヨリ百分ノ五ヲ減ジタルニ、価位暴騰ノ結果、金額ハ五十二万五千円ニ上リテ殆ンド昨年ニ倍シ、更ラニ其純益ハ一躍三万七千七百円ヲ算シテ実ニ昨年ニ八倍セルニ見ルモ、当局ガ其主力ヲ見込売買ニ集中シ、相場ノ騰勢ヲ利シテ奇功ヲ収メタルヲ察スルニ難カラズ

而カモ奇道ハ常ニ危道ニシテ奇利ノ半面ニハ巨損ヲ蔵ス、翌三十三年ニハ早クモ策戦常ニ利アラズ、徒ラニ恢復ニ焦慮シテ益深ミニ陥リ、巨損ハ忽チ前年ノ奇利ニ倍シ、遂ニ商店ノ存立ヲ危クスルニ至ル

長崎代理店ノ締約ト其悲惨ナル終局

輸入部主任古立ノ出生地タル長崎市ノ素封家山口管三郎氏ハ、先年来、当店輸入肥料ノ特約店トナリ、古立ノ家兄竹次郎氏等入りテ業務ニ当リ、同地方ニ於ケル我が輸入肥料ノ販売ニ従事シ居リシガ、一般ノ好況ニ乗シテ更ニ業務ノ拡張ヲ企図シ、本年九月、商店ト協定シ、同市并ニ附近地区ヲ画シテ、広ク商店輸入品ノ販売并ニ輸出品ノ仕入レニ従事スベキ契約ヲ結ビ、神戸兼松商店長崎代理店ノ看板ヲ掲グルコト、ナリタルモ、実ハ此看板ハ取引上ノ便宜ニ過キズシテ、取引ノ実質ハ普通特約店ニ過ギズ、代理店契約ハ殆ンド有名無実ノモノナリシ

然ルニ翌三十三年ニハ偶々北清事変起リ、各国艦船ノ同港ニ物資ヲ積取ルモノ頗ル多ク、同店ノ売揚高モ麦粉罐詰等ニ於テ相当多額ニ上リ、一面大豆粕等モ中々手広ク商ヒタルガ、商買不馴ノ為メ往々非常識ナル間違等ヲ起シテ尠ナカラザル損失ヲ蒙リ、加之、肥料代ノ滞り貸乃至貸倒レ

等ノ為メ、三十三四年ノ交、既ニ商店ニ対スル約束手形ノ支払ニ窮シタレバ、商店ハ不取敢山口
所有ノ不動産ヲ担保ニ供セシメテ一時延期ヲ許容シ居リシガ、三十五年三月、遂ニ其担保物ヲ処
分換貨シテ得タル数千円ヲ其決済ニ充当シタル外、回収ノ資料絶無ナルヲ以テ猶不足スル所ノ一
万二三千円ハ之レヲ損失トシテ処分スルノ外無之ニ至リ、山口商店ハ其店主ト共ニ遂ニ破滅スル
ノ悲運ニ終リタリ

店業継承ニ関スル店祖ノ声明

此年十一月一日、原会長司会ノ下ニ第廿四回店員談話会ヲ商店楼上ニ開キ、十七名ノ出席者アリシガ、会長ノ請ニ応ジテ臨席シタル店祖ハ一場ノ演説ヲ試ミ

先ツ眷顧諸氏ノ庇蔭ト店員諸子ノ辛勞トニ依リ店業ノ歳ト共ニ歩ヲ進ムルヲ謝シ

我レノ進歩ヲ往々他ノ嫉視ヲ招ク世態ナレバ、謙讓ノ要益切ナルト共ニ小成ニ甘ンジテ寸毫ノ油断等有ル可ラザルヲ諭シ、次テ

人ノ全力ヲ尽シテ働カンコトヲ望ム者ハ、之レニ前途ノ希望ト充分ノ安心ヲ与フベキ要アルハ勿論ニシテ、其配下ヲシテ常ニ充分希望ニ輝カシメ、安心立命ノ域ニ在ラシムルハ指導ノ地位ニ在ル者ノ当然ノ義務ナルガ故ニ自己ノ此任務ニ対スル用意ノ存スル所ヲ語ラントテ

第一、商店ノ事業ハ自分一身ノ生死ヲ超越シテ、永久ニ隆昌ナラシメザル可ラズ、而シテ自分ハ養嗣アルモ店業ト一家トハ全然之ヲ区画シ、決シテ混同スベキニ非ルガ故ニ、自分何時生ヲ終ルトモ店業ト店員トノ将来ニ関シテハ些ノ動揺蹉跌無キ様、常ニ計画ヲ立テ予テ遺言書ヲ作成シ居ルノミナラズ、年々ノ業務ノ進展ニ伴ヒ、歳々之レヲ改作シ置クベキコト

第二、従来ノ個人事業ニテハ単ニ其名義上ヨリ見ルモ、海外ニ於テ活動スル場合ハ不利尠ナカラズ、旁将来商店ヲ合資会社組織ニ改ムルノ必要ヲ感シ居レリ、而シテ原・古立及北村ノ三名ハ忠直勤務近ク十年ニ満ツベク、店業ニ貢献セル所既ニ大ナルニツキ、之レ等ニ相当ノ持分ヲ与ヘテ第一次合名者トシ、他ノ店員モ今後ノ忠勤ニ従ヒ之レニ準ジテ第二次合名者トシ、順次第三第四ト加盟セシメ、以テ事業ヲ永遠ニ伝フベク、目下考案中ナリ

ト声明シタリ、蓋シ店祖ノ意中、最近数年ノ好成績ニ乗シ、今後一兩年ヲ待タズシテ右ノ合資腹案ノ実現ヲ期シ居リシヤ必セリ、然ルニ最近ノ好蹟ハ其根底必ズシモ深カラズ、翌三十三年ニハ早クモ蚕糸部ノ一敗、忽チ商店ノ基礎ヲ動揺セシメ、三十四年ノ恐慌ニ襲ハレテハ数年来ノ積極策悉ク其馬脚ヲ見ハシ、店運忽チ死活ノ界線ヲ彷徨スルノ止ムナキニ至リタル結果、其実現ハ正ニ数年ヲ遅ラシタルモ再建ノ苦辛空シカラズ、日露戦役ノ好影響ヲ蒙リ、遂ニ三十三年初頭ニ至リテ此一大理想ヲ実現スルコトヲ得タリ

村井商会製造煙草ノ特約輸出、終ニ成功セズ

京都ノ村井兄弟商会ハ、日清戦後、紙巻煙草「サンライス」ヲ売出シテ大当リヲ取り、尔来メキ々々抬頭シ来リ、明治三十一年ニハ関税ノ改正ヲ見越シテ米國ヨリ葉煙草三千樽ノ大輸入ヲ試ミルノ勢ニテ、其製品ノ販路ヲ海外ニモ求メントスルノ意アリ、仍テ商店ハ之レト濠洲一手販売ヲ特約シ、本年四月、同商会ヨリ無代供給ノ紙巻煙草「Home」、外三票取合七十五万本ヲ初回トシ、其後ハ商品トシテ「Home」、ヲ中心ニ年内ニ五十万本三千円弱ヲ輸出シ、翌三十三年ニハ四千円、三十四年ニハ二千円ノ輸出ヲ続ケ、彼地ニ於テハ新聞ニ雑誌ニ広告ハ勿論、種々ノ方法ヲ以テ大ニ売弘メニ努力セシモ、遂ニ成功ノ域ニ達セズ、三十五年ノ少量輸出ヲ最後トシテ三四年ノ短命ニテ遂ニ商店輸出品目ヨリ永久ニ消滅シタリ

本年ノ主ナル試輸品　―砂糖・小麦粉・罐肉・バター―

砂糖、Q'Land ノ甘蔗大豊作ニ濠洲糖価暴落ノ機ヲ捉へ、本年上半期末少量ノ見本荷試輸ノ結果、成算ヲ得テ直ニ大量取引ニ移リ、本年下半ヨリ翌三十三年上半ニ亘ル季節中ニ商店ガ輸入ヲ遂ゲタル赤糖約八百三十屯、此原価約七万円ニ上リ、相当ノ利益ヲ収メタルモ、右ハ空前絶後ノ機会ナリシモノ如ク、其後有色労働者ノ排斥全滅ト共ニ濠洲ノ産糖業ハ次第ニ衰運ニ傾キ、他面需要ノ増加ト相俟チテ、間モナク一転有力ナル輸入品ト変ジタル有様ナレバ、本品ノ取扱ハ僅ニ一季節ノ命脈ニ過ギサリキ

小麦粉、本品モ此年上半、見本荷一屯ヲ試輸シ、下期ニ八百五十屯価額一万余円ノ輸入ヲ取扱ヒ小損ニ終リタルモ、需要量大ナル商品ノコトトテ前途頗ル有望ナリトシテ数種ノ専用商標ヲ登録スル等大ニ力ヲ入レタル折柄、翌三十三年ニハ北清事変ノ勃発ヲ見タレバ、之レヲ宛込ミ旁一躍

年額千二百余屯八万数千円ノ大輸入ヲ決行シタガ、多ク見込商買トテ同年モ亦損失ニ終リ、三十四年ニハ前年来ノ惰力ニヨリ初期ニ僅々百四十屯八千数百円ヲ輸入シタルノミニテ、財界ノ大恐慌ニ崇ラレ、本品ノ輸入ハ一時絶滅シタリ

如此足掛三年ニ亘ル小麦粉輸入ノ第一期時代ハ、輸入価額十万円ニ対シ六千円前後ノ損失ヲ来シ、見込商買失敗ノ一例証ヲ加フルニ過ギザリシモ、後年ニハ全然約定ノ外、取扱ハザル方針ニ改メタル結果、濠洲小麦ノ作柄如何ニヨリ連年ノ書キ入レ扱品トハ為リ得ザルモ、歳ニヨリテ数百屯程度ノ輸入ハ時々行ハレ、必ズヤ多少ノ利益ヲ商店ニ貢献スル意味ニ於テ彗星のナガラ輸入取扱品ノ一トシテ永ク其命脈ヲ保ツヲ見ル

又罐肉ハ二万四千ポンド四千数百円、肉エキスハ千三百ポンド式千余円、バターハ五六百ポンド約四百円ヲ以テ、何レモ此年始メテ商店ノ輸入表ニ上リタルガ、或ハ説明書、或ハ一板摺広告乃至新聞広告等ニヨリテ売弘メノ努力中、翌三十三年ノ北清事変ニ逢ヒ、各国ノ艦船長崎ニ集中、食糧積取りノ好機ニ会シ、長崎代理店山口管三郎商店ハ小麦粉ト共ニ之レ等諸品ノ売込ニ努力スル所アリ、為メニ同年ノ輸入高モ罐肉ハ二万六千円ニ急増シ、バター・肉エキス等モ各二千円ヲ算セシモ、何レモ商品トシテ大成スルニ至ラズ、尔来廿余年、罐肉ハ機ヲ見テ再挙ヲ計ルコト一再ニ止マラザルモ何レモ成功セズ、牛酪・肉エキスノミ有ルカ無シノ姿ニテ、辛クモ危機ヲ免カレ居ル有様ナリ

商店輸入肥料ノ大停滯ト新規輸入頓挫

肉骨粉類ノ肥料ハ一昨三十年ニ於テ早クモ商店ニ取りテ一廉ノ輸入重要品トナリ、昨年ハ各輸入商品中、實ニ首位ノ利益ヲ計上セシモ、其勢ニ乗ジテ供給ノ存スルニ任セテ節度ナク輸入ヲ続行セシニ、生憎、米価下落、北海豊漁、豆粕下落等ノ為メ其売行頓ニ鈍リ、昨年末ヨリ本年初頭へ持越シタル商店ノ肥料ストックハ實ニ千三百屯ノ巨量ニ上リ、猶今年上半ノ輸入高七百屯ヲ数ヘシニ、肥料商ノ最重要視スル所ノ元肥季節ヲ含ム当年上半期ノ販売高ハ関西ニ於テ五百余屯、関東ハ二百屯ニ充タズ、合計七百屯ニシテ依然千三百屯前後ノ滞荷ヲ秋肥ニ持越シ、為メニ下半期ハ全然輸入中止ノ外無カリシガ如キ、聊カ乱暴ナル猪進商策ト評セザル可ラズ

幸ニ秋肥ノ売行ハ意外ニ宜敷、本年末ノ決算ニハ肥料ノ利益一万千四百円ヲ計上シ、翌三十三年ニモ更ラニ約九百屯、五万八千円ノ新規輸入ヲ為シ、同年ノ利益計上高亦八千六百円ニ上ル等、

一見頗ル好成績ナルガ如キモ、帳簿組織上、商品勘定外ニ置カレタル千数百屯ノ滞荷ニ対スル金
利倉敷等ハ当然相当ノ額ニ上ル可ク、殊ニ三十四年ノ恐慌ニ際シ、既ニ蚕糸部ノ大失敗ニ疲弊セ
ル商店ニ取りテハ、殆ンド致命傷ヲ成シタル不渡り受取手形ノ殆ンド全部ガ此肥料代金尻ナリシ
ガ如キ大失態ノ累根ハ、正シク此猛進的暴商策ニ存セリト断ズルモ不当ニ非ル可シ

羊毛ノ輸入扱高急増シテ初メテ二千俵ヲ超ユ

羊毛ノ輸入扱高ハ、創業ノ翌年以来漸増ノ大勢ノ下ニ明治廿九年遂ニ千六百余俵、此価格十五六万円ヲ算スルニ至リシモ、三十年及三十一年ハ反動的減退ヲ告ゲタルガ、本年ノ扱高ハ急増シテ二千〇拾俵、此斤量五十七万ポンドニ上リ、殊ニ其金額ハ相場急騰ノ結果廿七万八千円ヲ算スルニ至レリ、其注文先別ハ

東京製絨会社	一二八四俵	日本毛織会社	四六俵
大阪毛糸会社	三九三俵	大阪毛布会社	一〇俵
大倉組	八六俵	当店見込輸入	二四五俵

ニシテ、当時ノ業界形勢ヲ考察スルニ頗ル有力ナル資料タルヲ失ハズ
即チ東京製絨ハ関税改正ニ伴フ毛織物輸入税引上げニ勢ヲ得テ、新タニコローミングノ設備ヲ為シ、
ウーステッド製品ノ為メニ使用量ヲ増加シタルニ反シ、大阪毛糸会社ハ羊毛相場ノ暴騰ニ僻易シ
テ原料ヲZOOIニ採ルノ窮策ニ出テ、日本毛織会社ハ創立後漸ク二三年ニ過ギズシテ、支那乃至
印度羊毛ヲ専用シテ毛布ノ製絨ヲ試ミ居リシ時代ナリ、而シテ大倉組注文ハ勿論千住製絨所注文
ノ一小部分ヲ商店ニ分配下請セシメシモノニ外ナラズ

年度輸出入高初メテ五十万円ヲ超エ六十万円ニ垂ントス

輸入ニ在リテハ、羊毛ハ二千余俵廿八万円弱ニ、Tallow ハ三百余屯六万五千円ニ、Oleine ハ五十屯弱八千円ニ何レモ著シキ増進ヲ示シタルニ反シ、肥料ハ七百三十屯三万四千円ニ著減シ、鉛及ビ Belting Leather ハ全減シタルモ、砂糖ノ四百八十余屯四万円、小麦粉ノ百五十屯弱一万余円、罐肉ノ二万四千ポンド五千円弱、牛肉エキス千三百ポンド二千円等、新商品ノ加ハルアリ、屠業雜貨二百六十余屯二万四千円并ビニ諸雜品数千円ヲ通算シテ、輸入総額四十七万余円ヲ算シテ前年ニ比スレバ十三万余円ノ増進ヲ示シタリ

輸出ニ在リテハ、筆頭ノ精米ハ二百七十屯二万六千余円ニ下リテ、前年ニ比シ三万円ノ減退ヲ示シ、織物類モ亦八百五十匹壹万五千円ニ下リタルモ、絹手巾ハ三千五百打式万余円ニ、魚油・陶器・鍛通等ハ各四五千円ニ、竹器・燐寸等ハ各二三千円ヲ増シ、紙卷煙草ノ三千円ヲ以テ加ハル

アル等略其減退ヲ償ヒ、諸雜品ヲモ併セテ總輸出高十二万余円ヲ算シテ、前年ヨリ減ズルコト數千円ニ過ギズ

輸出入總扱高初メテ五十万円ヲ超エ六十万円ニ垂ントス、之レニ蚕糸部ノ扱高五十余万円ヲ加フレバ、商店当年度商高ハ初メテ百万円台ヲ突破シタル訳ナリ

年度巨益二万五千円外ニ蚕糸部ノ奇利三万余円

当年度蚕糸部奇利ノ由来ハ別項既記ヲ経タルガ、貿易業収支ノ概数ハ左ノ如シ

〔表10 A 参照〕

〈表10〉 明治32年度 収支及び利益処分概表

A 収支概表

濠洲輸入品収支内容		損益概括	
羊毛	益	左表輸入商品利益	¥47,500
肥料	〃	輸出商品手数料	3,150
屠業雜貨	〃	輸出品見込増益	450
砂糖	〃	N. Y. K. Rebate	3,200
Oleine	〃	保險部収入	350
Tallow	〃	倉敷及家賃収入	2,000
其他諸品	〃	合計	56,650
以上合計	48,300	利息及諸経費 (明細右表)	31,750
小麦粉 損	250	差引純益	24,900
帶革	400	特別会計蚕糸部純益	31,700
皮革類	150	総計純益	56,600
差引輸入純益	47,500		
		経費	7,500
		利息	6,450
		給料	2,000
		旅費	2,000
		諸税	1,200
		借地料	4,300
		材料保險料及倉敷保管料	7,500
		其他諸雜費	2,800
		東京支店経費	2,800
		合計	31,750

B 利益処分

日本側年度純益金(明細前項既出)	¥56,600
此処分	
積立金	¥ 44,000 (此結果諸損金總計七万余円トナル)
地所家屋銷却積金	100
共有金	250
店長及夫人収得	2,500
本店々々員賞与金	6,900
濠洲支店員同上	850
東京支店員同上	500
鈴鹿保家氏謝礼	1,500
	56,600
	<u>0</u>

実行ニ際シ変更ヲ加フ次項参照

シドニー支店珍ラシク好蹟、店員私借千£ノ免除

シドニー支店ニ在リテハ、当年日本ヨリノ輸入額ハ敢テ前年ニ勝ル所ナキニ拘ラズ、精米ノ如キ薄利品ニ減ジテ手巾其他比較的好収品ニ増加シタル結果、輸入品総益ハ約千二百£ニ上リ、一方日本ニ対スル輸出額急増ニ伴ヒ、手数料収入亦著進シテ千六百£前後ヲ算シタレバ、二口合計二千八百£ノ多キニ対シ、給料約七百五十£、家賃約百五十£、其他ノ諸費約四百五十£、通計千四百£以内ニ止マリシカバ、差引純益ハ千四百£ヲ超エ、珍ラシクモ好成績ヲ挙ゲタレバ、此機ヲ以テ例ノ回収見込無キ店員私借約千£ノ免除切捨テヲ行ヒ、以テ其資産勘定ニ健実味ヲ加へ、之レヲ補填シタル残益約四百£ヲ以テ前年来ノ繰越損失金ノ一部填補ニ充当シタル結果、次ノ三十三年度へ繰越ノ欠損高ハ貳千三百余£ニ減縮シタリ

日本側巨益ノ処分、シドニー繰越欠損ハ依然放任

前項ノ如ク、シドニー支店ハ当年珍ラシクモ好成績ヲ示シテ、千£ノ多キヲ算スル店員私借勘定ノ切捨テ整理ヲ行ヒ、猶数百£ノ残益ヲ従来持越ノ欠陥補填ニ充当シ得タリト雖モ、而カモ同支店ノ繰越欠損ハ猶二千三百余£ノ巨額ヲ算スルニ拘ラズ、且ツ本店当年ノ巨益ハ優ニ之レヲ補填シ綽々トシテ余リアルニ拘ラズ、商店ガ依然トシテ無頓着ノ風ヲ示シ、支店ノ欠陥ハ其俶繰越サシメ、本店ノ巨益ハ单独ニ左表ノ通り之レヲ処分シタルハ、前年処分ノ項下記述ノ心事ニ基クモノト見ルノ外ナカル可ク、久シカラズシテ遂ニ大手術ノ必要ニ迫ラル、ニ至リタリ

〔表10 B 参照〕

以上処分後歳末ニ於ケル商店実資力十五万円ニ近シ、創業以来茲二十年余
資力商量従業員数共二十倍ス

前述処分ノ結果、商店ノ積立金ハ優ニ七万円ヲ超エ、シドニー支店ノ繰越欠陥約二千三百£ヲ控除スルモ猶五万円ニ近シ、即チ資本金勘定拾万円ヲ通算シテ商店ノ実資力ハ拾五万円ニ垂ントシ、創業以来、三回ニ亘ル新規投資額通計一万五千円ハ前後十年余ノ曲折ヲ経テ、茲ニ殆ンド十倍セ
ルノ好果ヲ収メタルノミナラズ、創業当時、主従合セテ僅ニ数名ニ過ギザリシ従業員数ハ、今ヤ濠洲支店雇外人マデヲ通算スレバ四十余名ノ多キヲ数ヘ、当初数年間数万円ニ過ギザリシ年度商
高ハ当三十二年ニハ輸出入商量実ニ六十万円ニ近ク、更ラニ蚕糸部商量ヲ加算スルトキ八年度売
買高優ニ百万円ヲ超エルノ盛運ニ会シタル次第ナリ

明治三十三年（一九〇〇）年

創業以来十年有半ヲ閲シ、第一次発展ノ頂ニ在リシ当年初頭商店ノ資債

明治廿二年商店創立ノ当時、店祖自身ノ投資額ハ第一編所載ノ通り金七千円ニシテ、外ニ住友家以下特志数巨頭ノ匿名出資二万数千円アリシモ、両三年ナラズシテ此内四五ノ大口合計二万円ハ据置借入金ニ変質シ、残余ハ脱退ノ結果、商店資本金ハ前記七千円ノミトナリ、其後、明治廿七年店祖ノ追加出資三千円、翌廿八年夫人ノ出資五千円ヲ併セテ総投資額一万五千円トナリシガ、開業当初ノ数年間ハ固ヨリ収益ノ言フベキモノナカリシモ、日清開戦ノ明治廿七年ニハ業績著シク好転シテ、同年末ノ結算ニ際シテハ利益ヲ処分シテ初メテ八千円ノ積立金ヲ得、戦勝ノ廿八年末ニハ更ラニ一万六千円ヲ加ヘテ積立金累計二万四千円トナリ、廿九年夏ニハ期ヲ誤ラズ出資変形ノ借入金ヲ完済シテ開業七週年ヲ祝シ、同年末ニ於テハ積立金累計三万五千円トナリタルヲ、翌三十年ニハ当時約五万円ヲ算セル所有不動産ノ評価額ヲ倍加シテ、其差増額并ニ右積立金ノ全

部ヲ繰込ミテ資本金額ヲ一躍金十万円ニ改メ、続キテ同年ニハ二万余円、翌三十一年ニハ一万数千円ノ利益ヲ挙ゲ、更ラニ昨三十二年ニハ約二万五千円ノ本業利益ノ外、特別会計蚕糸部ノ巨益三万二千円ニ上リテ、此三年間ニ早クモ累計七万余円ノ大積立金ヲ作りタル結果、当年初頭ニ於ケル商店ノ資産負債ハ左ノ如ク膨張シ、正味資力実二十七万余円ヲ示シタルモ、当時猶依然トシテ独立計算ノ立場ニ置カレ在リシシドニ一支店ハ、開設以来約十年間ノ収支差引キ約二千三百円ノ欠陥ヲ蔵シ居リシガ故ニ、内外本支ヲ通算シタル正当ナル商店実資力ハ十五万円弱ナリシ猶左掲対照表中、十二万円ヲ超エル蚕糸部勘定并二十万円ヲ超エル輸入商品勘定ハ何レモ関係商品ノ棚卸シ高ニシテ、資力ニ対シ其頗ル大ナルコト注目ニ値スベシ

明治三十三年初頭（実ハ三十二年十二月廿五日決算利益処分ノ直後）商店貸借対照表（概数）

〔表11参照〕

明治三十三年（一九〇〇）年

〈表11〉 明治33年初頭 貸借対照表

借方（資産）		貸方（負債）	
地所家屋	¥ 82,000	資本金	¥ 100,000
公債証書及諸株券	17,400	積立金	68,000
濠洲支店資本金	28,000	地所家屋銷却積金	2,300
濠洲支店	20,600	以上合計	170,300
蚕糸部	122,600	東京支店	12,400
輸入商品	102,200	輸入為替	167,500
輸出仕入品及諸掛	1,200	借入金	106,700
請取手形	51,200	支払手形及借買	11,900
貸売	31,200	諸預り金	8,800
貸金及仮勘定	12,800	銀行当座借越	16,200
雜勘定	24,400		
現金	200		
合計	¥ <u>493,800</u>	合計	¥ <u>493,800</u>

調査係ヲ置キ帳簿物品検査ノ制ヲ始ム（永続セズ）

此年一月、店則ニ一ヶ条ヲ加ヘテ初メテ調査係ヲ置キ、古立ニ命ジテ兼務セシメ、以テ本支店ノ帳簿及物品ヲ定期并ニ臨時ニ検査スルノ制ヲ定メシハ、店業急ニ膨張ノ結果、既ニ乱雜ニ渉ルノ嫌アリシヲ認メタルニ依ルヤ、將又之レヲ慮リテ予メ備フルノ精神ニノミ出デシカ、之レヲ知ルニ由ナキモ未ダ多ク之レヲ実行スルニ及バズシテ、商店ハ大改革ノ止ムヲ得ザルニ至リ、此係名并ニ制度ハ臆テ有耶無耶ノ裏ニ廢滅ニ歸シタリ

店祖大患ニ罹ル　―垂水ノ静養

店祖元來身長人ニ勝レ骨格亦頗ル佳、加之、年少ヨリ常ニ逆境ニ処シ鍛鍊到ラザル無ク、素質固ヨリ人後ニ落ちズト雖モ、辛酸其度ニ過ギタル為メ必ズシモ頑強ト稱スルヲ得ズ、然ルニ中年ニシテ三井組ニ勤務ノ当時、其所謂貸方主義ノ躬行ニ切ニシテ好ンデ難局ニ当リ、曾テ寧日無キノ結果、其健康兎角不充分ニシテ常ニ知人ヲシテ杞憂ヲ懷カシメシ程ナリシニ、店業創始以來、克ク局面ノ至難ニ堪エ、十有余年間、大故ナク事ニ当リ来リシモノ、主トシテ氣魄ノ其体軀ヲ維持シタルニ依ル、然ルニ近時店業稍其緒ニ就キ、前年ノ業跡亦特ニ佳ニシテ茲ニ一大進展期ヲ画スベク、其所謂三大事業（曰ク蚕糸業ノ大進展、曰ク支那貿易、曰ク商店店舖ノ建築）ヲ進メントスル矢先、店祖ハ不幸腎臟ノ障害ニテ改年早々病床ニ就キシガ、過去五十余年ニ亘リ酷使虐待止ム所ナカリシ肉体上ノ諸故障ハ此機ヲ以テ遠慮ナク見ハレ来リテ、在床百日ニ及ビ、尔來、漸次

体力ヲ快復シテ五月末ノ頃、病後始メテ店舗ニ出勤セシモ、固ヨリ多ク店務ヲ見ルコト能ハザルハ勿論、予後ノ警戒ヲ要スルコト頗ル切ナルモノアリ、加之、夫人亦次テ病ムヲ以テ医師ノ勧告ニ従ヒ、此夏、西部垂水ニ一家ヲ賃シテ居ヲ之ニ移シ、滞留数月、専ラ静養ニ勉ム、其間時ニ店舗ニ出勤スルコト無キニ非ズト雖モ、重要事項ハ支配人等時々同地ニ赴キテ指揮ヲ仰グヲ常トシタリ、而シテ吉報ノ速カニ通ズルニ反シ、不祥事ハ之ヲ病後ノ老体ニ告グルコト、自ラ控工勝トナルハ至情ノ然ラシムル所ニシテ、商店空前ノ危機ハ遂ニ不幸ニシテ這間ニ醸成セラレタルノ觀アリ

愈上海支店ノ開設

三十一年五月、清国各地へ出張ヲ命シタル大沢ハ視察数月ニシテ帰朝報告スル所アリ、店祖及支配人ハ其手ヲ対清貿易ニ拡ゲントノ希望益強キヲ加ヘタルモ、資力其他ノ關係ヲ考慮中、大沢ニ対スル当時ノ店員任命辞令ハ一応消滅ノ姿ニ歸シ居リシガ、幸ニモ前年末ノ決算ハ空前ノ好成績ヲ示シタレバ、茲ニ愈年来ノ希望実現ノ機到レリトナシ、別項ノ如ク此年一月、再ビ大沢ヲ大阪ヨリ招致シテ店員ニ列シ、更ニ高木忠ヲ採用シテ専ラ上海支店開設ノ準備ニ当ラシメ、三月下旬、支配人原自ラ右兩名及ヒ蚕糸部員足立ノ三名ヲ引卒シテ上海ニ渡航シ、仏租界公館馬路第三号ニ事務所ヲ物色賃借シ、四月九日ヲ以テ茲ニ兼松洋行ノ招牌ヲ掲ゲ、大沢（此時廿七才）ヲ支配人トシ（八月店則改正ノ結果、支店長ト改ム）、足立（当時廿五才）、高木（同ジク廿五才）ノ兩名ヲ之レニ附シ、營業ヲ開始セシム

然ルニ開店後僅カニ一月有余ニシテ露匪ノ北清事變發生シ、商況甚ダ振ハズ、此曆年中ニ商店ノ対上海輸出ハ僅カニ硫酸千二百個五千余円ヲ筆頭トシ、小麦粉五百袋千余円、石油紙等取合七千円弱、外ニ氷砂糖其他二三ノ小口委托品マデヲ通計シテ約八千円、輸入ハ種粕及蛹ノ各八千円前後、羊毛ノ七千円、麻ノ四五千円ヲ主要品トナシ、大黃・棉実・漆・皴等ヲモ通算シテ三万円弱、即輸出入合計三万八千円弱ニ止マリ、輸入品ノ為メニハ本店ハ八百円ノ損失ヲ蒙リ、輸出品ハ上海支店経費ト相俟チテ同支店ノ年度末損失高四千二百円ヲ計上スルノ不成蹟ニ終リシハ、一見、時ノ非ナリシガ如シト雖モ、前文支店員ノ年輩及前歴ト入店後ノ訓練皆無ニ近キ実情トヲ考フルトキ、当時ノ一般的不況コソ商店ノ損失ヲ輕微ナラシメシ福ノ神トモ称ス可ク、万一、四困ノ好況ニ乗ジ其手腕ヲ揮ハシメシナランニハ、到底、数千円ノ損失ニ止マラザリシヤ察スルニ難カラズ

牛莊方面ニ対スル取引ノ開始、出張所開設ノ準備

四月上海支店ノ開設ヲ了シタル支配人原ハ、同地ヨリ北上シテ芝罘・牛莊等ヲ視察ノ結果、追テ牛莊ニ開店スベキ腹案ヲ固メ、当面ノ施設トシテ広瀨某氏ノ経営ニ係ル同地ノ福富洋行ト取引聯絡上ノ交渉ヲ遂ゲ、同時ニ通訳生トシテ牛莊領事館ニ在勤一年ニ近キ松崎翠ノ商才アリテ実業ニ従事セン志望アルヲ知り、予メ内意ヲ打合ス所アリ、更ラニ北京天津等ヲ経テ五月下旬帰朝、六月初本店ニ新タニ支那部ヲ置キテ上海支店トノ策応ヲ期セシガ、恰カモ義和団匪ノ暴動起リ、世ニ所謂北清事変ナルモノ勃発シタルヲ以テ、直ニ小麦粉罐肉等食料品数千円ヲ福富洋行ニ送荷シテ其販売ヲ委托シタリ

其後、事変拡大シテ一時ハ北清ノ商業全ク杜絶シタルモ、数月ナラズシテ聯合軍ノ策動ハ克ク団匪ヲ鎮圧シ得タレバ、支配人ハ店祖ト協議ヲ進メ、愈牛莊ニ開店ノコトヲ決意シ、松崎入店ノ約

モ整ヒタルガ、松崎ハ同地有力ノ清商裕盛東裕盛増等ヲ説キ、結氷前、商店トノ共同勘定ニ於テ豆粕二万千枚、大豆一万五千担ノ積合セ一船、此価額六万円弱ノ神戸向ケ積出シヲ決行シテ、十月初頭帰朝、直ニ官ヲ辞シテ店籍ニ入り、橋本龍吉ヲ薦メテ店員ニ採用シ、之レニ同月末牛莊出張員ヲ命シテ同地ニ冬籠リ旁研究画策セシムルコト、シ、十一月ヨリハ既ニ本店帳簿ニ牛莊出張所勘定ヲ開キシガ、翌三十四年三月、松崎支那部主任ニ臨時牛莊出張ヲ命シ、愈裕盛東内ニ出張所ヲ正式開設シテ、茲ニ兼松洋行ノ看板ヲ掲グルニ至リタリ

斯クテ当三十三年中ニ於ケル商店ノ対牛莊輸出ハ、燐寸約百九十函五千円、精米五百袋五千余円、之レニ初夏福富洋行へ委托セシ食糧品ヲ併セテ合計一万千余円、輸入ハ前文共同勘定ノ大豆・豆粕ニシテ輸出入合計七万円前後ニ止マリシモ、翌三十四年ヨリハ豆粕ノ満船輸入其他商量著シク増加シテ相当ノ波瀾アリ、結局、少カラザル損失ニ終リシモ、上海支店ガ其開設後、僅カニ一年有余ニシテ閉鎖セラレシニ対シ、牛莊出張所ハ克ク三四年ノ存続ヲ見タリ

手代名ノ廃止、転勤支度料ヲ規定ス

昨年十二月末、通達第四十二号ヲ以テ店則第廿一条ノ表中一等ヨリ四等ニ至ル手代名ヲ廃止シタルガ

本年五月十五日、通達第五十四号ヲ以テ店則末尾へ左ノ二条ヲ附加シ転任支度料ヲ規定シタリ

第四十条 転勤者支度料ハ旅費実費ノ外、本給料額一ヶ月分ヲ支給ス、但家族ヲ有シ、之レト同行スル者ニハ三割増トス

海外へ転勤スル者ハ規定額ノ二倍以内ト定メ、転勤地ノ遠近其他ノ事情ヲ酌量シ増減スルコトアル可シ

第四十一条 内外各地へ出張スル者ハ実費ノ外、別ニ手当金ヲ支給セズト雖モ、場合ニヨリ臨

時応分ノ手当金ヲ支給スルコトアル可シ

法令万能ノ臭味ヲ覚ユ

店則ノ完備 — 形式徒ラニ備ハリテ実質伴ハズ

明治廿九年末、商店々則并ニ事務細則ヲ統一改正シ、活版印刷ニ附シテ以来、制度ノ改廢引続キ瀕繁ニシテ店則内訓等ノ達示殆ンド枚挙ニ堪エザルモ、其主タルモノヲ挙グレバ

三十年末、店則中等級俸給表ニ改正ヲ加ヘ（同年ノ項下詳出）、又決算年度ヲ定メテ細則ニ一ヶ条ヲ加ヘタル（既出）ヲ始メトシ

三十一年一月、蚕糸部内規十六項ヲ

同年二月、東京支店仮規則十二ヶ条（同年項下詳出）ヲ定メ

同年三月、店則第十六条ノ分課ヲ改メテ、総務・庶務・輸出・輸入・會計・蚕糸ノ六部ヲ置キ、此外必要ニ応シ各部係ヲ置クコトアルベシト定メテ、新設総務部ノ主任ハ原支配人ノ兼任トシ、更ラニ職制ニ関シ内外支店ニ正副支配人（四月ニ至リ但書ヲ加ヘテ）三等店員以上ヲシテ任務セ

シム」ト註釈ス）各一人、庶務・輸出・輸入・會計四部主任各一人ヲ置キ、此外必要ニ応シ各部係ヲ置クコトアルベク、又業務ノ繁閑ニ仍リ省略スルコトヲ得ベキコト并ニ支店職員別途手当ニ関シ、「其地ノ狀況ニ応シ、正副支配人一ケ年二千円以内、各部主任千五百円以内、其他八千円ノ範圍内ニテ支給ス」ルコト及ビ「外国支店従事者ニハ其地ノ貨幣制度ニ基キ、換算法ハ本店所定ニ拠ルベキ事」及ビ支店員貯金ニ関スル一條ヲ併セテ支店条規三ヶ条ヲ追加シテ再ビ店則ヲ印刷ニ附シ

同時ニ濠洲支店仮規則十九ヶ条ヲ定メ、十二月本規則十八ヶ条ニ改メ（同年項下詳出）、翌三十二年四月ニハ蚕糸部規則十八ヶ条ヲ、同七月ニハ同部売買係担任規定十九ヶ条并ニ蚕糸取扱改良規定八ヶ条ヲ定メ、以テ同業年来ノ通弊悪習ヲ打破シ、兼松式ノ取引振りニ依リ商店ト其特定商標トノ信用ヲ世界的ニ高メンコトヲ期シ

同年末ニハ店則第廿一條ノ等級表中一等ヨリ四等ニ至ル手代名ヲ全廢シ、越テ三十三年一月ニハ店則二一ヶ条ヲ加ヘテ調査係ヲ置キ、本店ノ毎三ヶ月一回定期ノ外、総務部ノ指揮ニ仍リ内外本支店共臨時帳簿及物品ノ検査ヲ行フヘキコトヲ規定シ、恰カモ副支配人ニ昇任セシ古立ニ調査係兼務ヲ命シ

同年三月ニハ上海支店々則十七ヶ条ヲ定メ、又転勤者支度料出張者手当等ヲ（同年項下詳出）定メテ三タビ店則ヲ活字印刷ニ附シ

同年六月ニハ支那部ヲ増設シ

同月忌引及弔慰仮規定九ヶ条ヲ設ケ（忌引ハ父母嗣子妻ノ場合ハ七日、祖父母子女三日、高祖叔伯兄妹孫妾二日トシ、欠勤日数ニ算入セザルコト、香花料ハ父母ノ場合八月給ノ十分ノ二、嗣子妻ハ十分ノ一半、祖父母子女十分ノ一、高祖叔伯孫妾二十分ノ一タルコト等）

八月ニハ出張旅行汽車汽船ノ等級、店長ハ一等、支配人各部主任ハ二等、各係以下ハ三等タルベキコトヲ達シス

店則第十条ニ各支店所在地ノ法律ニ依リ支店支配人ヲ要スル外、支店長ヲ置ク旨ノ但シ書ヲ加へ、更ニ

同月金銭出納規定十二ヶ条ヲ

十一月、店員服務心得四十八ヶ条ヲ編シテ夫々別冊印刷ニ附スル等、諸法規燦然トシテ大二備ハリ、殆ンド剩ス所無キノ慨アリ

試ミニ当明治三十三年末現行ノ諸法規中、著シキモノヲ挙グレバ、一般法トシテ兼松商店々則一冊四十一ヶ条、同事務細則一冊廿二ヶ条、金銭出納規定一冊十二ヶ条、店員服務心得一冊四十八ヶ条、忌引弔慰規定九ヶ条、合計百三十余条、部分法トシテハ東京支店仮規則十二ヶ条、濠洲支店規則十八ヶ条、上海支店規則十七ヶ条、蚕糸部規則十八ヶ条、同売買係担任規定十九ヶ条、同取扱改良規定八ヶ条等、合計九十余条ニシテ、一般規則ト通ジテ実ニ二百二三十条、此外宿直・

当直・出勤・退出等ニ関スル時々ノ令達ハ挙ゲテ算フ可カラズシテ、宛然、一大管衙ノ行政ノ如キ觀アルモ、其支配ヲ受クル人員如何ト見ルニ、内外本支店上下総員ヲ通算シテ最高人員僅ニ四十余名ノミ、法ノ形式徒ラニ備ハリテ人ノ實質之レニ伴ハザルノ譏ヲ免カレズ

蓋シ維新ノ大改革以來、茲ニ三十余年、旧慣全ク廢シテ新紀未ダ就ラズ、之レヲ商界ニ見ルモ所謂御店風ノ準繩既ニ毀ケテ、新營業組織ノ一般的標準ノ認ム可キモノ猶立ツニ至ラザルニ当リ、我商店従務員ガ其素質頗ル区々、且其多クハ店歴極メテ短カキノ事實ヲ考慮ニ加フルトキハ、之レヲ統御シテ活動セシメン為メニハ一々規矩ヲ示スノ要アリシヲ否マスド雖モ、法權回復ノ必要上、無暗ニ生硬ナル法令ヲ製造□下セシメツ、アリシ當時ノ我国情ニ想到スルトキ、商店亦聊カ法規万能ノ世風ニ染シタル嫌ナキ能ハザルヲ看取シ得ベシ、彼ノ榮町時代ノ商店事務所ヲ評シテ世間往々町役場ト称シタルモノ、亦必ズシモ所以無キニ非ザルベシ
斯クテ商店法令制度ノ改廢ハ

同年十二月、庶務・肥料ノ兩部ヲ係ニ引下ゲ、夫々総務・輸入ノ兩部ニ属セシメ、越テ翌

三十四年二月、内外支店職員手当ノ条下ニ「家族携帯者ニ在テハ、本文ノ外、特ニ若干ノ手当金ヲ増給スルコトアルベシ」ノ一項ヲ追加シタルヲ最後トシテ、臆テ商店ハ大改革大整理時代ニ入りタレバ、事毎ニ商店ノ死活ヲ決スベキ真劍勝負ノ場合トテ、相互ノ信賴諒解ト各員最善ノ判断トニヨリテ百事ノ進行ヲ期スルノ外ナク、復タ規則条文ノ閑文字ヲ詮索スルニ違ナシ

其後五年、店運漸ク小康ヲ得、三十九年十一月、俸給規定ヲ改正シテ、店長月俸百五十円乃至四百円、支配人百円乃至三百円、副支配人五十円乃至貳百円、普通店員十円乃至百五十円、等外店員五円乃至三十円トシタル頃ニハ、複雑ナル店規細則ハ殆ンド全員ノ腦裏ヨリ忘失セラレ居リシ有様ニシテ、尔後ノ商店ハ益法文主義ヲ離レ、実行主義ニ就ケルノ觀アリ

本店ヲ一時栄町一丁目ニ移ス

海岸通三丁目二番地ノ店舗ハ、明治廿七年、地所ニ附属トシテ有姿ノ仮購入シタル旧屋ニシテ、三十一年夏頃、約二百人手間ヲ加ヘテ大修理并ニ多少ノ模様替ヲ行ヒタルモ何分類朽甚ダシク、且増員ノ収容ハ殆ンド不可能ニ属ス、然ルニ一面近年ノ業績好調ノ結果、画時代的ノ發展策タル三大事業トシテ、蚕糸業・支那貿易ト併考セラレタル店舗新築ノ議モ既ニ決シタレバ、恰カモ三十年購入ノ栄町一丁目敷地上ノ倉庫ガ其外商ニ賃貸中、三十一年七月火災ニ罹リテ全焼シ、商店ハ保険金六千円ヲ収得シタル仮空地トナリ居ルニ付、此処ニバラツク式大倉庫ヲ新築シ、其一部ヲ当分事務所ニ代用スルコト、シ、本年五月末工事略成ルヲ以テ、六月三日之レニ移転シタルガ、七月ニ精算シタル建築費ハ六千五百余円ニシテ、曩日ノ保険填補金ヲ超過スルコト数百円ノミ

織物係ヲ廃ス

先年絹手巾、自製輸出開始ノ頃ヨリ、輸出部内ニ特ニ織物係ナル一係名ヲ設ケ、妹尾ヲ以テ其主任トセシガ、最近織物手巾等ノ輸出高ハ既ニ減退セシ上、シドニー小売店ノ撤廃ト相俟チテ、特ニ同係存置ノ要ヲ認メザルニ至リシヲ以テ、此織物係ハ本年十二月限之レヲ廃シ、主任妹尾ハ輸出部勤務ヲ命ゼラル

積極経営振リト新聞広告

前年来ノ商店積極経営振リハ、本年上半ニ於テ其最高潮ニ達シタルノ觀アリ、上海支店ノ設置、本店ノ一時移転ハ勿論、一般ノ營業廣告ノ外、或ハ濠洲肥料（天然肥料ト称ス）ノ売拡メニ、或ハ乳牛ノ紹介ニ、或ハ小麦并小麦粉、或ハ罐肉ノ推奨等、新聞廣告ヲ瀕用シタルコト前後其比ヲ見ズ

其頃ノ商店通信設備

明治廿七年、神戸市ニ初メテ電話局設置セラレ、三月末ヲ以テ加入申込ヲメ切ルヤ、商店ハ直ニ店舗及店祖宅ニ電話機各一口ノ申込ヲ為シ、間モ無ク市内通話ノ便開ケシガ、店ノ電話ノ長巨離通話ノ便開ケシハ昨三十二年末ニシテ、本年一月十二日、本店原支配人ヨリ入江東京支店員ニ小麥ノ件ニテ通話シタルヲ長巨離電話使用ノ始メトス、又店務ノ繁ヲ加ヘタルニ鑑ミ、本年一月、更ラニ電話機一口ノ増設ヲ電話局ニ申込み、間モ無ク二口トナリタルガ、翌三十四年改革ニ当リ、内一口ハ不動産ト共ニ住友ニ譲渡売却シタリ

又昨三十二年四月、電信取扱規則改正実施ニ際シ、商店ハ其発電略号「〇」ヲ定メ、各取引先ニ通知セルカ、当時ノ電信往復ハ多ク肥料及蚕糸ノ取引先ニシテ、相互ニ電信暗号ヲ使用スル場合ニハ丸善書店発行イロハ暗号帳ニ多少ノ品名ヲ増補シテ、之レヲ専用シタリ

本店東京支店間モ凡テ此丸善暗号ニ依リ、本店ト濠洲支店間モ亦丸善暗号ニ多少ノ増補ヲ施シタルモノヲ主用シ、ローマ綴平文ヲ混用シ居リシガ、昨三十二年ヨリ五位ノ数字暗号ノ編成ニ着手シタルモノハ、本夏前田・石丸（素一）等ノ入店ニヨリ大ニ促進セラレ、年末漸ク一応完成シテ神戸濠洲間ニ此私用暗号ノ用ヒラル、ニ至リタル程度ニシテ、A. B. C. Code ヲ今夏購入シテ上海支店トノ間ニ使用シタルハ、外国刊行暗号帳ノ使用初メナリトス

猶本店ニ於テハ悪筆前田ノ希望ヲ容レ、此秋始メテ英文ノ印字機一台ヲ購入シタリ

其頃ノ羊毛委托注文発註振り

東京製絨会社ハ、其頃ニ於テハ商店ニ取りテ殆ンド唯一ノ書キ入レ口トモ称スベキ羊毛委托注文ノ得意先ナリシガ、水戸ノ出身ニテ武士気質ノ倂ヲ留メタリトモ言フベキ同社ノ老社長宮部久氏が、我が老店祖ノ人格ニ甚大ノ信用ヲ与ヘタル結果、注文主ト買次代理者トノ相互信頼的關係ハ頗ル理想的ナリシ

其注文量ハ固ヨリ年々相当著シキ増減ヲ免カレザリシモ、先以テ脂付斤量年額十五万乃至廿万ポンド、時ニハ三十万ポンド位ニシテ、品種ハ四五段ニ分レタルガ、一ケ年ノ総需要量ハ大抵毎年新季節開始直後ノ市況情報ニ接シタル上、十一月頃一回ニ決定セラル、ヲ普通トシ、注文案内定マデノ情報等ハ東京支店ヲ通ジテ之レヲ供給スルモ、愈会社ノ注文内決ト進メバ必ズ神戸ヨリ支配人特ニ上京シテ、社長ヨリ親シク下命ヲ蒙リ、注文書ノ交附ヲ受クルヲ例トシタリ

而シテ其積出シハ各種別ニ早キハ十一月積ヨリ、遅キハ翌年四月積位マデニ亘リ、会社ノ入用ニ
応ズル月割ヲ指定シ、且之レニ相当進退ノ余地ヲ与ヘタルガ、積出シ期ノ關係上、急速買附ヲ要
スル分ニ限りテハ電信注文トセシモ、其他ハ凡テ郵便注文ニ譲リテ電信料ヲ節シタル有様ニシテ、
値段モ多クハ成行一任ニシテ指値ヲ附スルコト殆ンド無之、買次手数料ハ原価ノ百分ノ三トシ、
荷為替期間ハ普通九十日トシ、時二百廿日ノ立案アリシモ実行ヲ見ザリシモノ、如ク、而シテ期
日ニ至リ手形更新等ノコトハ一部稀レニ之レ有リシト雖モ、如此場合ニハ社長自ラ交渉ニ当リ頗
ル前広ニ協議シ、非常ニ慎重ナル態度ニ出デタルコト勿論ナリトス

郵船ノ運賃秘密戻率ノ廃止ト其頃ノ羊毛輸入規模

廿九年、郵船会社濠洲航路開始以來、商店ハ輸出入積荷ニ対シ、種々ノ名義ノ下ニ運賃ノ割引、又ハ割戻ヲ受ケ来リシモ、近年同社ニテハ次第ニ此種特約ノ廃止整理ノ歩ヲ進メ、一般輸入貨物運賃ニ対シテハ遂ニ最近之レヲ全廃スルニ至リシガ、羊毛ノ一品ニ限りテハ猶重要ナル荷主ニ対シテ秘密戻シノ制ヲ維持シ居リシモノ、如ク、当三十三年三月、商店ヨリノ問合ニ対スル郵船会社ノ回信ノ保存セラレシモノヲ見ルニ

一ヶ年積入高	二十万ポンド以上ナレバ	壹割
同上	十五万ポンド以上廿万ポンド未満	七分五ノ一
同上	十五万ポンド未満ナレバ	五分

トアリ、以テ當時ノ羊毛取扱高二関スル考慮ノ標準ヲ知ルニ足ルベシ

濠洲乳種牛ノ初輸入

日清戦後、我が国民生活程度ノ向上著シク、衛生思想亦一段普及ノ結果、近年牛乳ノ需要量頓ニ増加シ、乳牛改良ノ必要ヲ唱フル声漸ク高シ、百事ノ商眼人ニ抽テ、早ク往々利害ヲ超越シテ卒先事ニ当ルノ風強キ店祖ハ、濠洲ヨリ乳牛及乳用種牡牛ヲ輸入シテ本邦畜産ノ改良ニ資セントシ、先ヅ都鄙ノ各新聞ニ広告シ、此年六月、Ayrshire Breed ヲ主トシ、Jersey 及ビ Holstein 種ノ少数ヲ加ヘタル乳牛及種牛十五頭ヲ初メテ試輸シタルガ、時既ニ一般不況ニ傾キ、乳業界ノ景氣亦宜シカラズ、曩ニ輸入計画ヲ立テシ頃ニ進ンデ買取ノ意向ヲ示セシ連中モ愈トナレバ多クハ躊躇シ、且当業ノ弊習トシテ安値ニ買倒サント図ルモノスラアリ、輸入後半歳ニシテ猶過半ハ売残リトナリ、徒ラニ飼料代ノ負担ヲ重ヌルノ外無カリシカバ、年末ニ及ビ、止ムヲ得ズ多大ノ損失ヲ覚悟シテ売却スルコトニ決シ、翌春ニ亘リテ全部ヲ売切りタルガ、着価総計僅カニ六七千円ニ

対シ、結局、實ニ二千六七百円、即四割前後ノ大損失ニ終リタリ
然レドモ之レヨリ濠洲乳牛ノ声価、初メテ見ハレ、買人ハ何レモ其血統蕃殖ニヨリテ奇利ヲ博シ
タレバ、後ニハ進ンテ保証金ヲ提供シテ注文ヲ寄セ来ル者ヲ生ジ、三十五年以後、官用種牛并ニ
民間注文分等尚三回ノ輸入ヲ行ヒ、幾分ノ利益ヲ挙ゲテ此損失ヲ償ヒタルガ、其後本邦ノ乳牛ガ
一ト通り改良セラレタル結果、其取引モ亦中絶シタリ

濠洲小麦ノ初輸入

前年初メテ試輸高金一万円ヲ算セシ小麦粉ハ、北清事変ノ好影響モ加ハリテ、本年ニハ輸入高一躍八万円ヲ超エシガ、商店ハ更ラニ一步ヲ進メ、折柄ノ濠洲ノ豊作ニ乗ジテ少量ノ小麦ヲ輸入シ、在東京日本製粉会社并ニ東京製粉会社等ニ試売セシニ品質佳良ニシテ好評ヲ博シ、折柄二見丸沈没ノ補欠トシテ当時ニアリテハ巨船ト称スベキ六千屯級ノ信濃丸ガ一航セシ際、15ノ特安運賃ニテ一船二千屯（売価百斤ニ付参円八九十銭）トイフ当時レコード破リノ大積取リヲ決行スル等、当年中ノ輸入高通計二千五百屯、産地原価一万二千三百余円ノ多キニ上リ、翌三十四年ニモ亦三千余屯ヲ取扱フニ至レリ

尔来、濠洲作柄ノ豊凶ト一方北米産麦トノ価位権衡ノ如何ニヨリ、時ニ数年ニ亘リ輸入中絶ヲ見ルコト必ズシモ珍ラシカラザルモ、本邦製粉業ノ進歩ニ伴ヒ、相場一タビ出合ヘバ大量ノ取引忽

チ成立スルヲ常トシ、今ニ到ルモ商店ニ取りテ一大重要輸入品タルヲ失ハズ

明治三十三年（一九〇〇）年

二七五

其頃ノ製粉界ト外国小麦商談振り

当時以前日本ニ於ケル小麦粉ノ需要ハ専ラ麵類製造ノ方面ニ存シテ、其他ノ需要ハ未ダ甚ダ多カラズ、而シテ従来専ラ其供給ニ当リシ内地ノ水車製粉業者ガ漸ク近年米国ヨリ輸入セラル、機械製粉ノ競争ヲ感ズルコト著明トナリタル時代ナリシガ、日本製粉会社ガ僅ニ数十万円ノ公称資本ヲ以テ本邦ニ於ケル最初ノ機械製粉業トシテ東京ニ創立セラレタルハ、明治廿九年末ノコトニ属シ、其後間モナク東京製粉会社亦組織セラレタルモ、当時ハ何レモ内地ノ水車製粉業ニ取ツテ代ルコトヲ差詰ノ目標トシ、原料ノ如キモ専ラ之レヲ内地小麦ニ求メタル状態ナレバ、適々濠洲等外国産小麦ヲ購入スルコトアルモ、採算本位ニ非ズシテ、新穀端界期ノ補充ヲ兼ネテ内地新麦買附上ノ牽制材料タラシムルコトヲ主眼トシタリ、サレバ工場規模ノ猶頗ル小ナリシ事実ト相俟チテ外国小麦ニ対スル購入量ハ固ヨリ未ダ多カラズシテ、一口ノ商談ニ五十屯ノ小ヨリ百屯ヲ普通

トシ、二百屯ハ大口ニ属シ、一回ノ商談ニテ三百屯ノ約定成立ノ如キハ稀有異例ノ大量ヲ以テ目セラレタリ

而シテ年末ニ近ヅキ、シドニー支店ヨリ相場入電アリテ商機稍熟セリト見レバ、其入電相場ヲ携ヘテ特ニ本店ヨリ係員ヲ上京セシメ、東京支店員ヲ伴フテ深川扇橋日本製粉会社ニ至リテ商談ヲ進ムルヲ常トシ、又約定品ノ入着スルヤ、双方立会ヒテ每袋秤量受渡シヲ遂ゲシコトモ少ナカラズ、同品ノ取引発展セル今日ヨリ之レヲ見レバ、実ニ隔世ノ感ナキ能ハザル所トス猶前文東京製粉会社ハ不幸永続セザリシガ、現今日本製粉ト対立セシ日清製粉会社ノ創立ハ遙カニ後ニテ明治四十五年ノコトニ属ス

〔付箋〕

日清製粉会社ハ鈴鹿製粉株式会社トシテ明治三十年以前ニ存立シアリ、其後熊谷製粉其他ヲ買収シテ日清製粉会社ト改称セルナリ、現社長正四郎氏ハ鈴鹿時代ヨリノ人ナリ

濠洲骸炭ノ輸入　― 遂ニ大成セズ

商店ガ濠洲ヨリ石炭并ニ骸炭ノ見本ヲ取寄セタルハ明治三十年ノコトニ属シ、当時商店ハ直ニ神戸石炭同業組合ニ加入シテ販路ノ研究ニ着手セシモ、何レモ商機到来セズシテ三年ヲ経過セシガ、本年ニ至リ東京支店ガ同地ノ骸炭商秋葉七兵衛ニ接触シ、漸ク販売ノ端緒ヲ得ルニ及ビ順次注文ヲ受ケ、本年中ノ骸炭輸入額ハ千百余屯、価額一万数千円ニ上リシガ、使用ノ成績ハ兎角今一段思ハシカラズ、翌三十四年ニハ輸入高忽チ百屯以内ニ減シ、加フルニ秋葉失敗ノ為メ数千円ニ上ル手形代金ハ遂ニ回収不能ニ帰シ、猶其後モ一兩年間ハ他ニ買人ヲ物色シテ少量ノ輸入ヲ続ケシモ、遂ニ商品トシテノ基礎ヲ作ルニ及バズシテ絶滅シタリ

年度輸出入高一躍百万円ヲ超ユ

当年ノ濠洲輸入ニ於テハ、羊毛ハ下半新季品ノ輸入絶減ノ結果、数量千五百余俵ニ減退セシモ、相場暴騰期ノ買付ニ属スルコト、テ、価額ハ廿九万円ヲ算シテ却テ前年ノ上ニ出デ、肥料モ亦約九百屯五万八千余円ニ増加シ、新商品ノ小麦ハ約二千五百屯十三万五千円ノ巨額ニ上リ、小麦粉亦一躍五万袋八万四千円ニ激増シ、砂糖ハ昨年来ノ引続キニテ年初ニ五千五百袋三万余円ノ輸入アリ

Tallow ハ一万八千円ニ急減セシモ、Olefine ハ二万九千円ニ、罐肉ハ二万六千円ニ、牛酪ハ二千余円ニ何レモ激増シ、屠業雑貨ハ三万五千円、肉エキスハ二千円ト何レモ前年同調ヲ維持シ、近年中絶ノ觀アリシ鉛八万六千円、皮革類八千五百円ノ再現、新商品骸炭ノ一万六千円、乳種牛ノ六千円、其他雑品ヲモ通算シテ輸入総量約八千屯、産地総原価六万八千五百円、此輸入陸揚総価

格約八十三万円ニ上リテ、前年ニ比シ、実ニ七割以上ノ急進ヲ示シタルハ数種ノ新商品ニ負フ所
尠ナカラザルト共ニ、鉛・麦粉・罐肉等、北清事変ノ好影響ヲ蒙リタルコト亦明カナリ
又対濠輸出ニ於テハ、精米ハ急ニ昨年ニ倍加シテ五万八千円ヲ算シ、紙巻煙草・燐寸・魚油・合
利類・竹器等ハ前年ト大差ナク、手巾・花筵・陶磁器・雜貨等ハ減退セシモ、印刷紙八千余円、
板紙三千余円、硫黄千数百円等ノ新規商品モ加ハリ、輸出総額十四万円ヲ超エ、前年ニ比シ二万
余円ヲ増進ス、以上対濠輸出入高合計約九十七万円ニ加フルニ対上海輸出入四万円弱并ニ对牛莊
輸出入高七万円弱ヲ以テスルトキハ、商店ノ年度輸出入総金額八百十万円ニ近ク、殆ンド前年ニ
倍スルノ進境ヲ示セルモ、之レヲ同年ニ於ケル本邦貿易総額五億円弱ニ對比スレバ、僅カニ十分
ノ二強ニ過ギズ

業績商量ニ伴ハズ、本業年度益一万六千円ニ下ル、其収支概表

当年度ノ輸出入本業ハ其商量ヲ前年ニ比スレバ、前項記載ノ如ク対濠貿易ニ於テ既ニ三分ノ二以上ノ増進ニシテ、更ラニ対清貿易高ヲ加算スレバ殆ンド倍加ト称スベキニ拘ラズ、支那関係商品ノ損失少ナカラザリシ為メニ本業ノ総益ハ前年ト大差ナキニ、諸経費ハ給料諸雑費ノ急増セシ上、上海支店経費ノ新タニ加ハル等、前年ニ比シ一万円以上ノ増額ヲ来シタレバ、本業純益ハ前年ノ二万五千円弱ニ対シテ、却テ忽チ九千円前後ヲ減ジテ一万六千円ニ下リタリ、収支概数、左ノ如シ

〔表12参照〕

〈表12〉 明治33年度 決算概表

濠洲輸入品收支内容		損益概括		利息及経費内訳		
	益	差引				
羊毛	益	¥ 11,100	左表濠入商品収益	52,700	利息	7,800
肥料	〃	8,700	濠州輸出手数料収入	2,500	給料	10,500
Oleine	〃	8,000	各部雑益 (主トシテ牛荘両)		旅費	2,100
小麦	〃	5,000	建借入金決済為替益)	4,600	諸税	1,500
Tallow	〃	4,700	N. Y. K. 運賃戻リ)	4,400	倉敷保険・保管料	2,500
屠業雑貨	〃	11,200	内国売買益	500	其他ノ諸雑費	9,700
食料品類	〃	6,100	以上利益合計	64,700	東京支店経費	3,900
砂糖	〃	1,200	支那輸入損失	800	上海支店経費	4,100
骸炭	〃	4,200	大豆及豆粕内地見込		合計	¥ 42,100
以上合計		60,200	売買損	5,500		
小麦粉	損	3,000	差引営業益	58,400		
乳種牛	〃	2,800	所有株券損失	300		
鉛	〃	1,000	差引	58,100		
雑品	〃	700	利息及諸経費 (右表)	42,100		
差引 濠洲輸入品益		¥ 52,700	再差引 本業純益	¥ 16,000		

シドニー支店ハ又モヤ逆転シテ欠損ニ終ル

前年珍ラシク千数百£ノ利益ヲ剩シタルシドニー支店ハ、本年ニ入りテ成績再ビ悪化シ、広告費・割引・貸倒レ等ヲ扣除シタル輸入部利益ハ九百余£ニ減退シ、其輸出手数料モ羊毛及鉛ノ（手配違ニ因スルモノナラン乎）損失四百£ヲ差引キ残収九百£ニ充タズ、二口合計約千八百£ニシテ、前年ニ比シ千£ノ著減ヲ来セルニ反シ、諸経費ハ給料千二百余£、家賃二百余£、利息約三百£、電信料百七十£、其他諸費七百余£ト各費目何レモ大ニ膨張シ、以上総経費二千六百£ニ近ク、殆ンド前年ニ倍加シタル結果、収支差引八百£ニ近キ純損ヲ生シ、繰越損金ヲ通算シテ欠陥実ニ三千百£ニ垂ントシ、例ノ支店資本金勘定三千£ハ雲散霧消シ了シテ、猶百£近キ不足ヲ来スニ至リタリ

蚕糸部ノ思惑外レ、其巨損商店ノ基礎ヲ危クス

昨三十二年春、自己計算ノ売買兼営ヲ開始シタル商店蚕糸部ハ、同年末ノ決算ニ当リ三万余円ノ巨益ヲ計上シタリト雖モ、当時熨斗・出殻繭・生皮苧等約五万五千斤ノ未売約手持品ヲ擁シ、其棚卸シ評価約九万円ヲ以テ越年シタル実情ナレバ、相場ノ騰落極メテ激シキ商品ノ性質上、前文利益ハ頗ル不確實ノモノニシテ、嚴格ナル意味ヨリスレバ単ニ帳簿上ノ利益ニ過ギザリシヤモ未ダ知ル可ラズ、然ルニ此奇利ニ酔ヒタル当局ハ其勢ニ乗ジテ本年ニ入りテモ猶強氣一点張りニテ、新年早々ヨリ係員ヲ諸方ニ派シテ、約四万斤ノ生皮苧ヲ主トシテ濃尾地方ニテ買付ケ、手持高通計十萬斤ニ垂ントセル折柄、商勢却テ下抑シノ兆ヲ示シタルモ、三月中ニ僅カニ出殻繭一万七千斤前後ヲ売放チタル外ハ僅々2%乃至3%ノ損失ニ躊躇シテ見切り兼居ル内、不計モ北清事變ノ突発スルアリ、四五月ノ交、遂ニ成行売抜ケヲ決行シタル頃ニハ市価ハ既ニ頂上ヨリ二三割方ノ

大下落ヲ示シ居リシカバ、忽チ巨額ノ損失ヲ来シタリシガ、当年後半、新季節ニ入ルニ及ビ我当局ハ一變弱氣方針ヲ以テ出動シ、以テ上半季ノ失敗ヲ恢復セント焦慮セシニ、期初僅カニ策戰ノ的中ヲ喜ビ居ルノ違モ無ク、一般市況忽チ逆轉ノ結果、徒ラニ先売品ノ買埋メニ狂奔セルノミニテ下半季戰モ亦所謂損失ノ上塗りニ終リ、当年度ノ売仕切高各種品通算三千余俵、此金額廿六万二千余円ニ対シ純損実二六万四千円ヲ算シ、更ラニ同部ノ本年度資金使用高二対スル店内利息一万余円ヲ加算スルトキハ同特別會計ノ年度損失無慮七万五千円ノ巨額ニ上リ、恰カモ廿九年六月、蚕糸取扱開始以來、前年ニ至ル四ヶ年間ノ利益累計額ニ倍スルノ慘況ヲ呈シ、創業以來十年有余ノ苦酸ヲ経テ、漸ク就ラントセル商店ノ基礎モ忽チ之レガ為メニ動揺セントシ、当年度ノ決算面ハ対銀行ノ体面取繕ヒ上、種々糊塗修飾ノ苦策ニ出ヅルノ止ムヲ得ザルニ至ル

姑息ヲ極メタル内外損益欠陥ノ処理

前諸項記述ノ通り、本店（東京及上海両支店ヲ含ミテ）ハ僅カニ一萬六千円ノ年益ヲ挙げ（蚕糸部ニ対シ、正当ノ店内利息ヲ課シテ之レヲ収メタランニハ二萬六千円ニ上リシ筈）タルモ、シドニ一支店ノ累積欠陥ハ実ニ三萬円ヲ超エ、更ラニ蚕糸部ノ年度大欠損ハ（一萬円ニ上ルベキ店内利息ノ負担ヲ全然免除シテ猶）六萬四千円ノ多キニ上リタレバ、右三者ノ差引実ニ七萬八千円前後ノ大欠陥トナリ、年初ニ於ケル商店正味資力ノ一半ヲ過グト雖モ、一方、当年初頭ニ繰越シタル諸積立金ノ累計ハ七萬余ニ上レルガ故ニ、其一掃処分ハ必ズシモ不能ニ非ズ即チ強テ減資ノ英断ニ出デズトモ、積立金ノ全処分ヲ行ヒ、以テ欠損超過額約八千円ノミヲ次年度へ繰越スコト誠ニ自然ノ順序ト思ハル、モ、稀有ノ好蹟ヲ収メ得タル前年末ニ於テスラ、猶シドニ一ノ欠陥ヲ放任シテ、処理ノ法ヲ講ズルコト無カリシ商店ハ、今回モ亦其筆法ヲ踏襲シテ其

欠陥三千百円ハ其俣繰越サシメテ、本店ノ資産表面ニ累ヲ及ボスコト無カラシメタルノミナラズ、蚕糸部ノ欠損ニ関シテモ店内利息一万余円ハ先ヅ之ヲ免除シ、而カモ猶年度損失トシテ見ハレタル約六万四千円ノ内、同部開始以来ノ収益累計額ニ相当セル参万七千七百円前後ノミヲ積立金ヨリ補填処理スルニ止メ、差引約二万六千円ハ同部单独ノ繰越欠損トシテ之レヲ次年度へ持送り、一方、本業ノ利益一万六千円ノ内二千四百円（前年分ノ二割強ニ過キザルニモセヨ）ヲ割キテ店員賞与分配ヲ敢行シ、差引一万三千六百円ヲ積立金ニ繰込ミ、以テ計算面ヲ糊塗シタリ蓋シ店祖ハ猶予後ノ静養中ナルニ盛ンニ積極策ニ出デテ、此大失蹟ヲ招キタル商店幹部ハ将来ノ計ヲ樹ツルノ違ナク、不取敢、当面ノ姑息手段ヲ講ジテ、以テ越年シタルモノナラン歟

明治三十四（一九〇一）年

深創ヲ包メル当年初ノ商店資産勘定

前年項下既述ノ通り、決算ニ当リ甚ダ姑息ナル処置ヲ取リタル結果、当年初二繰越シタル商店ノ資産勘定ハ資本金十万円ハ固ヨリ無底ナルノミナラズ、諸積立金ハ加除差引猶約四万六千円ヲ剩シ、之レヲ表面ヨリ見ルトキハ正味資産十四万六千円ノ多額ヲ有スルガ如キモ、一方、特別会計蚕糸部ニ於テハ二万六千円ノ損失ヲ、又シドニー支店ニ於テハ約三千百ポンドノ欠陥ヲ繰越セシヲ以テ、此二口ノ繰越負担ノミヲ考量スルモ、正味資力ハ既ニ九万円前後ニ減ズベキ勘定ナリ、況ンヤ立替貸金受取手形其他二三ノ資産勘定ニ就キテ、一步其内容ニ立入りテ精察スルトキハ、果シテ何レノ辺ヲ以テ確實ナル正味資力ト認ムベキヤヲ知ラズ、到底、一日モ晏如タルコト能ハザル状態ナリ

蚕糸部ノ撤廃

店業ノ本体タル貿易方面ニ於テハ、一昨年ニハ及バズト雖モ、昨年モ亦相当ノ純益ヲ挙ゲ得タルニ拘ラズ、特別会計蚕糸部ハ昨一ケ年ニ七万数千円ノ大欠損ヲ醸シタル為メ、商店ハ深創ヲ包ミテ決算面ヲ糊塗スルノ外ナキニ至リ、前年頭初二於ケル商店帳簿面ノ資力十七万円ハ早クモ当年初二ハ差引其十ノ三ヲ失ヒタルノミナラズ、失ヘル所ハ大切ナル純真ノ流動資本ナルニ対シ、残ル所ノ表面資力十二万円ハ其四分ノ三以上固定セル不動産ニヨリテ代表セラレ、殊ニ其帳簿価格ハ三十年春標榜資本増大ノ為メ一挙其評価ヲ倍增セルモノナレバ、一般不況ノ此当時ニ於テ厳格ナル評価ヲ試ミシカ、価値ノ減退、果シテ幾許止マル可キヤヲ知ラズ、一面、昨春來ノ金融逼迫ハ漸次其度ヲ進メテ梗塞状態ニ進ミ、本年ニ入りテハ形勢暗胆トシテ不穩ノ兆ヲ示シ、到底、悠悠々々健康ヲ養フヲ許サズ

サレバ店祖ハ病余ノ身ヲ起シ、垂水ヲ引払フテ先ツ諏訪山ニ帰居シ、年初英断、先ツ蚕糸部ノ撤廃ヲ決シテ復タ未練ヲ残サズ、一方、西村主任以下同部員ヲ督シテ残荷残約ノ解決ヲ急ガシメ、他面、上海支店在勤蚕糸方面担当員足立ヲ召還シ、大体ノ整理就ルヲ見テ、二月末限り西村・足立・中川ノ三店員并ニ松本蚕糸倉庫係ヲ解職シテ同部ヲ閉鎖シ、僅ニ部員石丸（真一）一人ヲ残シテ調査係ニ属シテ些末ノ残務ヲ処理セシメシガ、六月末ニ至リ之レ亦完結シタレバ、翌七月中旬同人ヲ解任シ、恰カモ前年末計上ノ繰越欠損額ト格別ノ差違ナキ（即チ本年ニ入りテ特ニ言フベキ損益ヲ生ゼザリシナリ）特別会計蚕糸部借方帳尻二万六千数百円ヲ本店損益勘定へ転記シテ、茲ニ蚕糸部ノ終焉ヲ告ゲタリ

顧ミレハ、廿九年六月西村ヲ入レテ係トシ、蚕糸屑物ノ取扱ヲ開始シテヨリ茲ニ到ルマデ恰カモ満五年、盛時連日百数十名ノ女人夫ヲ使役シテ高額撰別如何ニモ景氣良ク、一昨年ニハ三万余円ノ巨利ヲ収メテ商店ノ花形タル觀アリシ蚕糸部モ奇利ヲ趁フテ背馳ノ結果ヲ致シ、忽チ此末路ヲ見ル、商標信用樹立、屑物取引改善、進ンデ神戸生糸市場設定等、店祖高遠ノ理想モ当局ノ実施当ヲ得ズシテ空シク葬ラレ、五年間差引（昨年糊塗免除シタル店内利息約一万円ヲ考慮シ）四万円ニ近キ大金ヲ失ヒタルノミナラズ、商店全体ノ信用ヲ毀チタル損害亦決シテ輕視ス可ラズ、而シテ店祖或ハ病中ナリシト雖モ、放任シテ監督ヲ怠リタル責ハ辞スベカラザル所ナラン

大恐慌初メテ新日本ノ經濟界ヲ襲フ

明治廿九年以來、連年ノ大輸入超過モ三十一年ノ破格的記録ヲ以テ一段落ヲ告ゲ、三十二年ニハ一時小康ヲ呈シ、貿易僅ニ五百万円ノ入超ヲ示スニ過ギサリシニ、昨明治三十三年春來、我貿易ノ逆勢再ビ甚ダシク正貨ノ流出止マル所ヲ知ラザルノ情勢ニ鑑ミ、日本銀行ハ同年三月以來、再三公定日歩ノ引上ゲヲ行ヒ、以テ警戒ノ態度ニ出デ居ル折柄、六月ニ至リ北清事變突發シ、我邦ヲシテ再ビ大兵ヲ動カスノ止ムヲ得ザルニ至ラシメント共ニ北清貿易ノ杜絶ヲ來シ、為メニ燐寸業・棉糸紡績業等ノ苦痛甚ダシク、紡績業者ハ同年七月遂ニ協定シテ操業四割減ヲ実行スルニ至リ、其他一般ノ商工業者齊シク手扣ヘ方針ニ傾キ來リシガ、九月ニハ大阪ニ於テ相当有力ナル肥料商数名ガ書キ合ヒ手形ノ決済ニ窮シテ一時ニ破綻スル有リ、十二月ニ入りテハ熊本第九銀行支払ヲ停止シ、延テ桑名・横浜・東京等小銀行ノ取付ヲ受クルモノ少ナカラザリシモ、之レ等ハ何

レモ地方的乃至局部的ノ故障ニ止マリ、先ヅハ金融逼迫一般大警戒ト称スベキ程度ニテ越年セシガ、当三十四年ニ入りテハ三月神戸ニテ日本生糸貿易会社、大阪ニテ北村銀行ノ何レモ支払ヲ停止シタルヲ先驅トシ、四月十六日、大阪七十九及難波ノ両銀行ガ同時ニ閉店スルニ及ビテ同地諸銀行ノ側杖ヲ蒙リテ取付ニ遭フモノ甚ダ多ク、此大阪財界ノ動揺ハ忽チ各地ニ波及シテ、茲ニ所謂財界ノ真恐慌ナルモノ我邦ニ於テ経験セラル、ニ至リタリ

七九・難波両銀行ノ破綻ハ、骨肉ノ兄弟タル西川・古畑ノ両行頭取ガ相共ニ窃カニ行金ヲ融通シテ投機ニ手出シ、其資金ヲ株式ニ固定シ、其株式市価ノ暴落ニ因リテ復タ起ツ能ハザルニ至リシ結果ニシテ、何レモ詐偽取財ノ処罰ヲ受ケタルハ因ヨリ其所ナリト雖モ、之レガ波響ニヨリテ内容健実ナル他ノ諸銀行ガ続々取付ケニ遭ヒ、遂ニ一流銀行ニモ及ブガ如キコトアランカ、信用制度ノ下ニ立テル明治財界ノ新組織ハ全然破壊セラル、ニ至ルベキヲ以テ、大阪組合銀行中、有力ナル委員銀行ハ日本銀行ノ援助ヲ求め、協同シテ被取付銀行ノ救済ニ当リ、大阪府亦告諭ヲ発シテ人心ノ沈静ヲ図ル等、官民ノ協力ニヨリテ五月末ニ至リ大阪地方ノ人心ハ稍落付キ始メタルモ、一般銀行ノ大警戒ニ因ル金融ノ梗塞ノ為メ、内容ノ充実セザル会社商店等ノ破綻倒産ハ各地ニ相踵テ見ハレ、世情騒然、業界ノ光景凄慘ヲ極ム

商店亦最近数年来、聊カ好調ニ酔ヒ、積極方針ニ出テ、盛ンニ手ヲ拡ケ、経営振り稍放漫ニ流レタルノ矢先、此恐慌ニ煽ラレ、正ニ此年死滅ニ瀕セシ一人ニシテ、幸ニ店祖ノ溢ル、誠意ト絶大

ノ英断ト而シテ別項詳説ノ正金銀行神戸支店山川支配人ノ任侠的救援トニヨリテ、纔カニ万死ニ一生ヲ得、時人ヲシテ神戸ノ貿易商中生残リタルモノ実ニ湯浅ト兼松アルノミト評セシメタルモ、店業ノ進展ハ此打撃ニヨリテ正二十年ヲ遅ラシタルコト、更ニ疑フ可ラズ

然リト雖モ、罪ヲ外恐慌ニ帰シ其襲来ヲ恨ムハ固ヨリ非ニシテ、内之レニ乗セラルベキ弱点ヲ発見シ、之レガ改造ニ勉ムルコト唯一ノ順路ナルコトハ正ニ論ヲ俟タズ、偶々此試練ニ遭ヒテ昨ノ非ヲ悟リ、今ノ是ニ就キ得ンニハ恐慌ハ日先キノ禍害ニシテ、而カモ永久ノ福音タラズンバ非ズ、尔来恰カモ二十年、大正九年ノ大恐慌ニ当リ、世間大小ノ会社商店、或ハ斃レ或ハ傷クモノ比々トシテ殆ンド皆然ルノ有様ニシテ、這次同難ノ湯浅亦免カル、能ハザリシニ当リ、独り商店ガ泰然トシテ動かズ、聊カ異彩ヲ放チ得シモノ、実ニ此苦験ニ負フ所ナリト評スルモ毫モ過言ニ非ルベシ

肥料ノ大売掛金回収難

従来、当店輸入商品ノ売却代金収入方法ハ、羊毛ニ在リテハ夙ニ九十日延ノ習慣ヲ形成シ、猶稀ニハ其手形期日ニ一部更改延期ノ依頼ヲ受クルコト無之ニ非ザリシモ、売先ハ何レモ相当ノ大会社ニシテ経営振りモ真面目ナルモノ多ク、差シテ懸念ヲ要セズ、骨蹄・膠原料等屠業雜貨ハ何レモ現金引換方針ヲ固執シ来リ、小麦・牛脂等ハ多ク六十日延ナルモ、彼ノ鍵栄堂事件ノ外、曾テ代金回収難ヲ惹起スルコト無カリシガ、独り廿九年来輸入ノ肥料ニ至リテハ、其売拡メニ当リ内地肥料界古来ノ取引習慣ニ引付ケラレ、且好収ニ誘ハレテ販売高ノ多キヲ望ムノ弱点ニ助ケラレテ、日清戦後ノ一般ノ好調ニ乗ジテ放漫ニ近キ積極方針ヲ以テ、長期ノ貸売ヲ敢行シタルノミナラズ、其撰定シタル各地特約店ハ多クハ従来ノ輸出商品取引先タラズンバ所謂地方ノ名望家ニシテ、肥料商トシテハ勿論ノコト、往々商人トシテノ素養ニ於テ欠クル所多キニ拘ラズ、貸売上、

過大ノ信用ヲ与ヘタル非難ヲ免レズ

本年上半季中、商店試算表ニ見ハレタル受取手形勘定尻ハ、常二十二三万円ヨリ十五六万円ノ間ヲ往来シタルガ、其一半ハ実ニ此種肥料代ノ手形ニシテ、其振出人ノ支払能力ハ左ラデダニ頗ル怪シキモノ多キニ、前項大恐慌ノ襲来ニ遭ヒテ殆ンド其全部ヲ拵ゲテ支払不能ニ陥リ、已ムヲ得ズ更新ニ更新ヲ重タルノミニテ、手形ノ融通力皆無ナレバ長崎山口商店ヘハ古立ヲ特派シテ六月三旬ヲ費シテ第一次整理（主トシテ不動産ノ担保出入登記）ヲ行ハシメ、金沢若林ヘハ再三再四稲葉ヲ派スル等、極力回収ニ努ムルモ、効果或ハ至テ少ナク或ハ皆無ニシテ、商店ノ金融ハ之レガ為メニ極度ノ困難ヲ加フルニ至レリ

之レヲ後日整理ノ結果ニ徴スルニ廿九年ノ試輸以來、本年末ニ至ル六ケ年間、肥料輸入扱高累計実ニ数千屯、此産地仕入レ価格三十万円ニ対シ、商店収ムル所ノ総益五万円ニ及ブト雖モ、其代金タル手形ノ回収不能ニ因スル切捨損害高ハ恰カモ之レニ匹敵シ、商店ハ之レヲ内輪ニ見積ルモ全ク費用損ノ草臥儲ケニ終リ、無謀ナル貸売商策ノ醜果ヲ赤裸ニ表現シタリ

主銀行ノ圧迫的回収

商店ノ三十四銀行ニ対スル取引ハ必ズシモ最近ノコトニハ非ザルモ、以前ノ取引關係ハ至テ輕微ナルモノナリシニ、昨三十三年春夏ノ交、所謂遣り手ノ称アリシ同行神戸支店長某氏、深ク店祖ノ手腕ト商店ノ發展振リニ対シ期スル所アリ、瀕リニ踏込ミタル取引ヲ望ミ来リ、格外ノ便宜ヲ供スルニ伴ヒ、同年下半年期ノ初頭頃ヨリノ同行ニ対スル商店ノ取引ハ急ニ濃厚トナリ、当座借越高往々十万円ヲ上下スルノ外、商品担保ノ手形借亦屢数万円ニ及ビ、更ラニ本年初ニ及ビテハ当店ノ為メニ一挙百万円トイフ巨額ノ信用状發行ヲ敢行スル等、僅カニ半年前後ニシテ事実上商店ノ主銀行トナリタリ

然ルニ当春財界ノ風雲益險惡ノ度ヲ加フルヤ、官海ヨリ轉業就任後、多ク年処ヲ経ザル為メ特ニ警戒嚴重ナル小山同行頭取ハ、其神戸支店ガ薄資ニシテ而カモ最近商買上大手疵ヲ負ヒタル兼松

ニ対シ、過大ノ信用ヲ与へ居ル事實ヲ発見スルニ及ビ、忽チ急速ノ回収ヲ命ジ、且支店長モ更迭セラル、ニ至リタル結果、此主銀行ノ急激ナル回収ニ遭遇シタル我が商店ノ金融ハ俄然麻痺シテ機関ノ運転、一朝ニシテ停止セントス

商店破滅ニ瀕ス ― 店祖畢生ノ苦惱

商店創業以前、店祖四十五年ノ辛酸ハ須ク言ハズ、明治廿二年開店以來、外間ノ想像ヲ超越セル創業期ノ苦心ヲ続クルコト正ニ七年ニシテ、事業僅カニ収支相償期ニ入り、廿九年漸ク資金返還ノ約ヲ果シテ不羈独往ノ経営時代ニ達シ、更ラニ雌伏スルコト三年、明治三十二年ニハ蚕糸部ノ奇功ニ助ケラレテ益金五万有余ノ好成績ヲ挙ゲ店資著シク加ハリ、業礎稍就リタルヲ見テ、茲ニ事業上一大転期ヲ画セントセル折モ折、身ハ病魔ニ襲ハレテ在褥数月、健康漸ク加ハリシ頃ニハ蚕糸部ノ一敗既ニ店資ノ半ヲ失ヒ、善後ノ策未ダ立タザルニ忽チ財界ノ大恐慌ニ見舞ハレ、主銀行ノ圧迫的回収ニ遭遇シテ金融立口ニ停マリ、店業ノ破滅今ヤ日睫ノ間ニ迫ル、店祖ノ意中果シテ如何

五十七年辛酸ノ生涯、十有二年苦闘ノ業礎時利アラズシテ茲ニ消エナントス、店祖一身ノ存亡ニ

関シテハ将タ誰ヲカ恨ミン、而カモ半百ノ部下ヲシテ忽チ其前路ヲ誤ラシメンコトハ、経営ノ責任者トシテ実ニ忍ビ難キ所ナリ、商店ヲ投出サンカ、多大ノ物的損失ヲ債権者ニ賠スベキコト明々白々、一死罪ヲ謝スルハ固ヨリ易々タルモ、残ル所ノ負債ハ永劫ニ返弁ノ途ナキヲ奈何、更ラニ過去十数年ノ血ト涙トニ培ハレ、漸クニシテ蕾ヲ含マントセシ日濠貿易ノ中絶ヲ奈何
店祖苦悶、連日終夜一睡成ラズ、尿水赤変恰カモ血ノ如シ、万策尽クル所遂ニ意ヲ決シ、横浜正金銀行神戸支店長山川勇木氏ヲ訪フ

山川正金支店長ノ救済ニ辛フシテ一条ノ活路ヲ開ク

商店開業以來ノ金融機關トシテハ当初数年間ハ専ラ三井銀行ニ依リ、日清戦後、神戸ニ日本貿易銀行設立セラル、ニ及ビテ漸次三井貿易銀行ノ併用トナリ、更ラニ昨春ヨリハ三十四銀行トノ關係急速ニ濃厚トナリテ、三井ハ勿論、貿易銀行ノ取引モ亦其重要度ヲ失ヒタルガ如キ変遷アルモ、輸出入荷為替關係ハ此全期間ヲ通ジテ主トシテ香上銀行ニ取組ミタレバ、正金銀行ニハ從來僅少ナル対清荷為替以外、格段重要ナル取引ハ絶テ之レ無カリシニ拘ラズ、店祖ノ言外ニ溢ル、誠意ト火ノ如キ熱情トヲ以テセル哀願ヲ受ケタル山川支店長ハ「兼松商店ノ破滅ハ即チ日濠貿易ノ中絶也」トノ店祖ノ所説ニ動カサレ、我邦貿易業ノ發達ニ資スヘキ同行特殊ノ使命ニ鑑ミ、且ツハ商店資債ノ対比ハ甚ダシキ不良ノ状態ニ陥リ居レルモ、病根ハ対清貿易、蚕糸取引等ニ存シ、本業ノ対濠貿易ハ堅実ニ營業セバ収支償ハザルニ非ズ、漸次頹勢ヲ挽回シ得ヘキヲ洞察シ、折角其緒ニ就

ケル唯一ノ邦人日濠貿易機関ヲ救済セントノ内意ヲ定メ

- 一、資産負債其他商店ノ内容ヲ真ニ赤裸ニ告白スルコト
- 二、營業方針ヲ緊縮シ、見込商買ヲ全廃スルコト
- 三、店祖専心自ラ事ニ当リ、原支配人ヲ革職スルコト
- 四、改革ヲ断行シ、營業經費ノ一大節約ヲ期スルコト

等ノ条件ヲ附シテ救済ノ内意向ヲ示サレタルガ、此内支配人ノ革職ハ原ノ遣り口、兎角投機的氣分ヲ含ミ猪進ノ危癍アルノ故ナルモ、店祖ハ多年其片腕トシテ熱心当務シ来リシ此股肱ヲ馘ルニ忍ビザルノミナラズ、此重要ナル働キ手ヲ失ヒテハ差当り業務ノ進行事實不可能ニ陥ルベキ事情ヲ陳弁シ、充分ノ監督ヲ盟ヒテ革職ノ延期ヲ乞ヒタル外、他ノ諸条件ハ総テ固ヨリ自ラ期スル所ナレバ着々其実行ヲ進メタルガ、正金銀行重役会ニテハ山川氏ノ兼松救済案ニ対シ、反対意見者多数ニシテ其通過ハ困難ヲ極メシモ、支店長ハ之レ一兼松ノ救済ニ非ズシテ日濠貿易ノ救済ナルコトヲ説キ、不幸万一之レガ為メ二十万円ヲ失フトモ、正金本来ノ使命上深ク憾ムヲ要セズ、願クハ余ヲ信ジテ此挙ニ同意ヲ与ヘヨト力争甚ダ努メ、漸ク重役会ヲ通過シタリト聞ク

斯クテ瀕死ノ商店ハ山川支店長ノ俠拳ニヨリテ辛フシテ一条ノ活路ヲ得、着々整理改革ノ歩ヲ進

メ、栄町地所売却代金并ニ正金ヨリノ一時的融通ニヨリテ、三十四銀行ニ対スル債務ハ五月末ヲ以テ早クモ事実上完済シ、担保物件ノ纏マルヲ待チテ、七月末、共有地所ヲ含ム不動産全部ヲ正金銀行ニ書キ入レ、特ニ八万五千円ノ据置的借入金ヲ為シ、改メテ之レヲ同行ニ定期預金トナシ、此預金ヲ見返リトシテ手形其他ノ形式ニヨリ隨時極度ノ金融ヲ受クルノ便宜ヲ与ヘラレ、茲ニ漸ク融通上ノ安定ヲ得テ、信用状ノ発行、輸入受荷ノ保証等為替關係ノ業務ハ勿論、一般内地ノ金融ニ至ルマデ事実上ノ一行主義ヲ立テ、総テ同行ニ依リ漸次瘡痍ヲ医シテ体力ノ恢復ヲ期シ、五年半後ノ明治三十九年末ヲ以テ不動産担保ノ据置借入金ハ其返弁ヲ了シタルモ、事実上ノ正金一行主義ハ其後廿年ノ今日ニ至ルマデ依然トシテ敢テ渝ル所ナク、僅カニ四囲ノ事情ニ依リ多少ノ潤色の補助取引ノ変遷ヲ見タルニ止マル

栄町地所ノ売却ト貸金勘定ノ整理切詰

正金銀行ヨリ救済ヲ受ケ得ルノ諒解漸ク進行スルニ従ヒ、商店ノ貸借対照表ハ其提出前、出来得ル限り之レヲ整理緊縮スルノ必要ヲ認メ、先ヅ栄町一丁目ノ地所三百六十坪弱并ニ附属倉庫ヲ処分セントシ、店祖自ラ奔走シタル結果、坪約百五十円替ノ五万三千八百円弱ニテ住友銀行ノ買取リヲ得、五月末登記受渡シヲ結了シタルガ、此価額ハ住友家ニ於テモ店祖此際ノ立場ニ対スル相当ノ同情ヲ加味シタルモノナリトス

又当時商店貸金勘定ノ殆ンド全部ハ、店祖ノ借越高二万八千円弱及支配人原ノ借越高六千円弱ヨリ成リ居リシヲ以テ、之レヲ整理セン為メ店祖所有ノ諏訪山邸宅（借地上ニ在リ）ヲ当時ノ時価ヨリモ増シテ一万円ノ評価ニテ商店資産ニ繰込ミテ一部ノ決済ニ充テ、其不足高約一万八千八百円ハ商店ノ雑損ニ振替へ、又原ヨリハ有価証券千余円ヲ提供セシメシ外、九百余円ハ信認貯金ト

相殺シタルモ、差引不足高約三千九百円ハ是亦雜損勘定ニ振替ヘタリ
当年末決算ニ当リ貸金切捨トシテ約二万二千七百円ヲ損失勘定ニ計上セルモノ、即チ之レナリ
斯クテ帳簿面ヨリ単純ニ数字ヲ見ルトキハ、店祖ハ自己并ニ其夫人名義ノ当初来ノ出資累計額以
上ノ金員ヲ商店ヨリ引出シ、結局、損失ニ帰セシメタル姿ナレトモ、由来、本事業ノ為メニ疾ク
ニ其身命ヲモ賭セシ店祖生活ノ内面ハ固ヨリ常ニ相当切詰メアリシニ拘ラズ、外部ニ対シテハ其
地位体面ト商店ノ信用トヲ保持スルノ必要上、其一家ノ経費ガ相当ニ嵩ムコトハ数ノ免カレザル
所ナルニ、其全資ト全力ヲ店業ニ投セル店祖ハ固ヨリ他ヨリ何等ノ收入アル可キ筈モナク、毎月
商店ヨリ引出セシ給料ハ最高僅々月弐百五十円、而シテ配当金功労金等、商店ノ利益処分ニ因ル
其取得ハ夫人出資ニ対スル分マデ計上スルモ、創業以来、十二ケ年ノ累計一万数千円、即平均年
二千余円ノ微ニ過キズ、自然不足ハ商店ヨリノ借越トナルハ寧ろ当然ノコト、称スベク、前文切
捨一万九千円弱ハ其性質ノ内容ニ立入りテ觀察スレバ、商店存立ノ必要経費ニ属シタルモノト
言フベシ

上海支店ノ閉鎖、代理店ノ設置

大沢上海支店長ハ此年一二月ノ交、支店開設第一年ノ経過ヲ報告旁打合等ノ為メ帰朝シテ神戸ニ在リ、恰カモ昨年十一月、商店ニテ汽船北辰丸ヲ傭船シ、硫酸ヲ上海ニ輸送スルニ当リ調査ノ命ヲ受ケ、之レニ上乘リシテ渡清、尔来上海ニ在リシ河野店員ハ支店長不在中代理ヲ命ゼシハ本年二月ノコトニシテ、日本海上保險会社上海代理店ヲ引受ケタルハ翌三月ノコトナリシガ、元来同支店ハ開設以來一年ニ充タズ、彼是其将来ヲ論ズルコト固ヨリ早計ナリト雖モ、昨年来ノ実績ハ商店ノ期待ニ及バザルコト遠ク、且支店長大沢ニ対スル信任亦厚キヲ加フル能ハズシテ、却テ著シク薄ラギタル趣アリ、殊ニ蚕糸部撤廢ニ引続キ店運一層蹙ルニ從ヒ、同支店廢止ノコトモ自ら店祖ノ考慮ニ上リ居リシ場合トテ、大沢ニハ一時帰任ヲ見合イサシメ、四月初、河野ニ改メテ同支店詰支店長代理ヲ命シ置キシカ、財界ノ形勢益險悪ナルニ及ビ、愈同支店ノ撤廢ヲ決シ、新ニ

吉田順藏氏経営ノ同地順泰洋行ト代理店契約ヲ結ビ、残務ノ処理并ニ今後ノ取引ニ関スル段取成
ルニ及ビ、此年六月、遂ニ同支店ヲ閉鎖シ、河野以下三名ハ相踵テ六月末帰朝、河野・高木ハ直
チニ辞任シ、速水一人ノミ商店ニ残りテ會計部ニ配セラレタリ
上海支店存立、僅カニ一年二ヶ月ニ過ギズ

上半期仮決算ト正金へ提示シタル貸借対照表

上述諸項ノ整理ヲ進行シテ、六月末日ヲ以テ仮決算ヲ遂ゲタル結果

〔表13 A 参照〕

右七万八千円ノ損失ヲ表現シタル六月末ノ貸借対照表

〔表13 B 参照〕

ヲ初メテ正式ニ正金銀行ニ呈示シ報告シタルガ、其内容如何ニモ不振ニシテ、此資産中ノ受取手

形ノ実質如何ヲ詮索スル迄モナク、同行重役会ガ兼松救済ノ決行ニ躊躇シタルコト、故無キニ非ルヲ首肯セシムルニ足ル

明治三十四（一九〇一）年

三一

〈表13〉 明治34年上半期仮決算表

A：仮損益計算表

濠洲輸入益金	¥ 13,550	利息	¥ 7,250
同上輸出益金	1,400	経費及雑損	10,500
支那輸出入利益	900	上海支店経費及雑損	3,650
合計営業益	<u>15,850</u>	東京支店経費	1,750
外ニ		有価証券評価減損	4,950
地所家屋并什器評価増	11,200	貸シ金切り捨損 (内容別項)	22,650
合計総益	¥ <u>27,050</u>	シドニー支店資本金減失	28,000
		蚕糸部(前年繰越)損失	<u>26,300</u>
		以上総損	105,050
		合計総益	<u>27,050</u>
		損益対照差引純損	¥ <u>78,000</u>

B：仮貸借対照表

借方 (資産)		貸方 (負債)	
地所家屋	¥ 68,800	資本金	¥ 100,000
公債及有価証券	10,100	諸積立金	46,000
濠洲輸入商品	64,150	委托品	142,850
同 輸出商品	2,450	借入金	9,350
支那輸入商品	6,550	支払手形	65,900
内地売買商品及委托品	800	預り金及店員信認金	4,700
受取手形	105,650	銀行当座借り越	24,150
貸シ売及貸金	10,300	仮勘定及借買	5,850
濠洲支店	28,250		
其他ノ支店出張所	3,100		
預ケ金及現金	4,150		
仮勘定	14,500		
什器	2,000		
欠損	78,000		
合計	¥ <u>398,800</u>	合計	¥ <u>398,800</u>

海岸通りニ飯店舗ヲ急造シテ之ニ復帰ス

昨年、栄町焼跡ニ木造ノ大倉庫ヲ急造シ、店舗ヲ一時之レニ移転スルヤ、前年ノ好業績ニ乗シ、大発展ノ方針ヲ立テ居リシ折柄トテ、海岸通りノ頽廢セル古建造物ヲ取毀チ、約三万円ノ予算ヲ以テ宏壯ナル事務所ヲ新築シ、且ツ七八千円ノ予算ヲ以テ大倉庫ヲ附設スルノ腹案ニ出デシモノニシテ、既ニ工事請負人ヨリ見積書マデモ徴シ居リシガ、不幸店運急遽逆転ノ為メ、不得止、遂ニ見送り居リシモ、既ニ栄町ヲ売却処分シタル結果、速カニ立退ノ必要ヲ生ジタルヲ以テ、今回ハ改メテ海岸通り旧屋取払跡へ最少限度ノ費用ヲ以テ洋風木造ニ階建事務所ヲ建設スルコト、シ、橋本客員ヲ普請奉行トシテ設計ヲ定メ、店祖大阪時代以来ノ出入ノ棟梁北野力松ノ請負ニテ、七月六日着手、工事ヲ急クコト廿数日、早クモ略竣成シタレバ同月末日ヲ以テ商店ハ直ニ之レニ移転シタリ

其総工費約一千六百円、以テ其規模ノ如何ニ小ニシテ、質ノ粗末ナリシカラ察スルニ足ルト共ニ北野棟梁ガ商店ノ悲運ニ際シ、店祖ノ旧恩ニ酬ヒンガ為メ殆ンド損益ヲ顧ミザリシヲ知ルニ難カラズ、而シテ橋本客員ガ其工兵科出身ノ深キ経験ト手腕ヲ揮ヒテ、短少ノ期間ニ移転ヲ可能ナラシメシ非凡ノ努力ト手際トハ、当時店内上下ノ齊シク歎賞セシ所トス

猶此年十月、工費約五百円ヲ以テ西隣ノ旧倉庫ヲ二階建事務所ニ改造シ、十一月末ヨリ月七十余円ニテ谷道回漕店へ賃貸シ、猶同地上倉庫ノ一部ハ三井物産ニ賃貸スル等以テ収入ノ一助ニ供シタリ

シドニー小売店遂ニ撤廃

明治廿四年、我がシドニー支店が自ラ小売店 T. O. Sada & Co. ノ経営ヲ開始シテ以来、之レニヨリテ日本商品ヲ濠人ニ周知セシムル上ニ於テ相当ノ効果アリシハ疑ヲ容レズト雖モ、年処ヲ経ルニ従ヒテ（1）小売ハ一見甚ダ好収益アルガ如キモ、経費ノ嵩ムト店曝シ品売残り品等ヲ生ズルトノ為メ結局収支償ハズ、（2）商店ハ其商号ヲ小売店ニ見ハサヅルモ、其経営ノ事実ハ外間ニ対シ到底之レヲ掩フ可ラズ、自然主タル得意先ナル卸売問屋トノ利害相衝突シ、其反感ヲ招クノ不利アリ、ノニ理由ノ下ニ次第ニ店内ニ小売店廃止論ノ高マラントスルアリ、三十年濠洲ニ出張セル原支配人モ実地視察ノ上、其予テノ廃止意見ヲ堅メタルモ、シドニー支店側ニ於テハ現実ニ原価一円ノ品ガ二円三円ニ売行クヲ目撃スルニ因リテ生ジ易キ一種ノ迷想ト、小売店ノ現金収入ガ常ニ支店ノ有力ナル金融調節機能ヲ遂ゲ居ルトノ姑息ナル未練アリテ、屢本支店間ノ議論ニ

上リ乍ラ、兎角断行ノ勇ヲ欠キタルノミナラズ、昨三十三年三月ニハ奥村主任ノ妻女ニシテ小売店ノ事実上ノ支配人トモ見ルベキ婦人ヲ商品仕入レノ目的ヲ以テ一時帰朝セシメシ程ナリシガ、間モ無ク展開シ来リシ商店悲運ノ幕ハ自ラ多年ノ懸案ヲ解決シ、「事業ノ緊縮、確實ナル注作品ノミ輸出」ノ方針強行ノ犠牲トシテ、兎角ノ論評裡二十年余ノ長命ヲ保チタルシドニー小売店ハ店舗賃借期限ノ残存ニ拘ラズ、遂ニ本年限リ撤廢セラレ、奥村主任ハ翌三十五年三月帰朝ノ上、直ニ整理解任セラル、ニ至リタリ

当時商店ハ財政不如意ノ極ニ在リシモ、猶金百£ヲ同人ニ贈リ、多年ノ勤勞ニ酬ユル所アリシガ、此小売店經營十ヶ年ノ収支如何ハ数字的ニ之レヲ明カニスルノ資料ヲ欠クト雖モ、断片的ニ發見セル数字ハ何レモ香バシカラズ、別項シドニー支店ノ巨損ハ少クモ其一部此小売店ニ歸スベキモノト考ヘラル

牛莊出張所ヲ開設シカヲ北清貿易ニ注グ
店祖自ラ牛莊及奧地ヲ視察ス

昨春大袈裟ニ開設シタル上海支店ニハ速カニ見切りヲ付ケ、早クモ本年六月、之レヲ閉鎖シタルニ反シ、昨年十月末、橋本（龍吉）ヲ派シテ冬籠り中ニ調査并ニ準備ヲ進メシメ、更ラニ本年三月、松崎支那部主任ヲ一時派遣シテ、愈出張所ヲ開設セシメタル牛莊方面ノ取引ニハ大ニ力ヲ注グベキヲ決シタル店祖ハ、商店内部ノ大改革略一段落ヲ告クルヲ待チ、九月ニハ（出張所ノ開設ヲ遂ケテ六月ニ一旦帰朝セル）松崎ニ牛莊出張所主任ヲ命ズルト共ニ之レヲ帶同シテ、同月五日発自ラ牛莊ニ出張シ、同地并ニ奧地ノ状況ヲ視察スルコトニケ月、十月六日帰朝、同月下旬速水ニ同出張所詰ヲ命ジテ大ニ牛莊ノ陣容ヲ整ヘタルガ、同所詰橋本ハ母ノ疾ニ遭ヒテ十一月末急遽帰朝、請暇ニケ月余ニシテ漸ク帰任シタリ

一方、本店ニテハ大減員ノ結果、部名ノ存続セルハ輸出・輸入及會計ノ三部ニ止マリ、支那部ハ既ニ廢滅ニ歸シタレバ、牛莊トノ策応ハ原支配人自ラ之レニ当リ、大豆・豆粕・雜穀等ノ取引ニハ伊勢店員、其他ノ輸出入品ハ夫々輸出入部員ニ於テ支配人ノ指図ノ下ニ其事務ヲ処理シタルガ、豆粕ノ商買ノ如キモ當時猶一般ニ幼稚ニシテ、現今ノ電話兩三回ニテ満船荷ノ取引ヲ結ブガ如キ手輕ナルノ比ニ非ズ、僅ニ小型一船ノ取引ニ伊勢店員ノ四日市出張、延日数一ヶ月ヲ超エタルノ類、敢テ珍ラシカラザリシ

古立氷砂糖売込ノ為メ上海ニ出張ス

現大日本製精糖ノ前身タル日本製糖会社ニ於テ其頃氷砂糖ノ大量生産ヲ始メ、支那方面ヘ其販路ヲ求ム可ク商談ニ接シタレバ、上海支店引揚前、見本ノミハ送付セシモ、多ク其取引ノ進行ヲ見ザル内、早クモ支店ノ引揚ヲ見ルニ至リシガ、其後、同社ヨリ再三ノ懇懇アリシカバ、十月中頃特ニ古立ヲ上海ニ派シ、約一ヶ月ヲ費シ、代理店順泰洋行ト協力シテ旧正月宛テノ売込約定ニ勉ムル所アリ、約二万円ノ取引成立シタリ

年度商量対濠貿易ニ著減シ、牛莊貿易ニ躍進ス

当年ノ対濠輸出ハ、金融上ノ目的ヨリスル精米ニ在リテハ三百七十五屯六万余円ニ増進セシモ、シドニー小売店廃止ノ結果、織物絹手巾類ノ取扱ハ殆ンド全減シ、落花生百四十屯一万四千元、板紙二百余屯一万千元、硫黄百余屯四千元、紙卷苘・合利類・刷子・竹簾・麻鍛通・釣糸其他諸雑貨取合二万数千円ニシテ、輸出総原価十一万三千余円ニ止マリ、前年ニ比スレバ約一割ノ減退ヲ示シ

濠洲輸入ハ、小麦ノ三千余屯約十七万五千円ヲ筆頭トシ、羊毛ハ恐慌ノ影響痛切ニシテ僅カニ六万円ニ止マリシモ、オリーン油ハ引続き金融上ノ意味モ加ハリテ二百余屯五万二三千元ヲ算シ、TALLOW 八百八十屯四万七千元、肥料ハ六百余屯四万五千元、屠業雑貨ハ五百余屯三万円ヲ計上シ、鉛八百屯一万八千元、骸炭ハ九十余屯八千元ニ著減シ、麦粉八百四十屯一万千余円ニテ僅ニ

余喘ヲ保チ、其他雜品ヲ通算シテ輸入總量約五千屯、此価額約四十六万円ニ止マリ、之レヲ北清
事變ノ好影響ヲ受ケタル昨年ノ実績ニ比スレバ、僅ニ其一半ニ過ギタルノミ
以上対濠輸出入額通計六十万円未滿ニ対シ、牛莊方面ハ大ニカヲ用ヒタル効アリテ、輸出ニ於テ
ハ棉糸千俵十万円ヲ筆頭ニ燐寸千函二万八千円、卷苘百五十箱一万七千円、其他諸品ヲモ通算シ
テ十五万円ニ上リ、輸入ニ於テハ豆粕約一万屯三十三万円、大豆二千屯十万円、カストル油其他
ヲ併セ總額約五十五万円、此輸出入通計七十万円ニ近ク、一挙対濠貿易ノ金額ヲ抜クコト十万円
以上ニ及ビタリ

慘憺タル当年ノ収支業績并概表

北清貿易ニ力ヲ注ギタル結果、商店本年ノ対清輸出入額ハ前項ノ通り七十万円ニ垂ントセルモ、其主要品タル豆粕及大豆ノ取引ハ兎角投機的臭味ヲ脱セズシテ損益常ナク、七十万円ノ大取引ニ対スル差引益金ハ驚ク勿レ、僅カニ数十円ニシテ、上海牛莊両店ノ経費ハ全然欠損ニ歸シ、六十万円ニ充タザル対濠貿易ハ *Online* 并ニ屠業諸雜貨ノ各一万円ヲ根幹トシ、約二万六千円ノ年益ヲ計上シ得タルモ、本店諸経費ハ前年来大膨張ノ余波、店祖今夏ノ大英断ニ拘ラズ、年度ノ数字トシテハ容易ニ収縮ノ実ヲ示サズ、結局、本年度ノ収支ハ差引一万千四百円ノ欠損ニ終ル

〔表14参照〕

概数前表ノ如シ

〈表14〉 明治34年度 収支概表

対濠輸出入損益			対清輸出入損益内容		
Oleine	益	¥ 9,500	支那輸入	益	損
屠業雜貨	〃	9,500	豆粕	4,900	
肥料	〃	3,700	其他	1,950	
小麦	〃	2,800	大豆		8,400
Tallow	〃	1,500	其他		2,800
羊毛	〃	600	支那輸出		
其他	〃	400	棉糸	3,300	
以上計		¥ 28,000	氷砂糖（主トシテ 上海向）	1,100	
小麦粉	損	2,600	其他	1,700	
製革	〃	400	其他		1,400
其他雜品	〃	500	其他		300
差引濠入益		24,500			
濠洲輸出手数料		1,500		12,950	12,900
計対濠貿易利益		¥ 26,000		12,900	
			差引純益	¥ 50	

年度総益概括表

対濠貿易利益（上表ノ通り）	¥ 26,000
対清貿易 〃 〃	50
内地売買差引純益	150
家屋倉庫賃貸料	1,050
雑益	1,250
以上総益	¥ 28,500
右表年度総損金	¥ 39,900
上表 〃 総益金	28,500
差引年度純損	¥ 11,400

年度総損概括表

利息	¥ 7,200
本店俸給	9,200
旅費	2,000
諸税	1,500
収入印紙	550
諸経費	7,300
東京支店諸費	3,350
上海支店 〃（半年）	3,700
牛莊出張所 〃	1,900
以上合計	36,700
三十二三年度賞与金	
超過支出分	1,400
本年度賞与金（無資源）	
支出総額	1,800
以上総損金	¥ 39,900

シドニー支店亦大欠損、累積ノ巨損五千四百余£

前年項下既載ノ通り、シドニー支店ハ昨年末ノ決算ニ於テ既ニ既^(ママ)ニ累計三千余£ノ欠損ヲ計上シ居レルニ拘ラズ、本店ニ在リテハ昨年末ニハ蚕糸部巨損ノ一半ヲ其俣繰越スガ如キ糊塗決算ヲ遂ゲタル程ノ立場トテ、右シドニー支店ノ大欠損ニ対シテモ依然トシテ何等処理スル所ナク、姑息ニモ其俣当年度へ繰越サシメ置キシガ、前章記述ノ如ク本年上半期末ノ仮決算ヲ行ヒ、之レヲ救済主タル正金銀行へ提出スルニ当リテハ、其俣有耶無耶ニ附スルコト到底不可能ナルヲ以テ、不取敢、従来ノ支店資金勘定ノ疾クニ全滅ニ帰セル二万八千円ノミヲ損減ニ計表シ置キタル次第ナリシニ、支店ノ経費ハ依然トシテ多ク減退セザルニ取引ハ大不振ノ結果、本年一月ヨリ十月末ニ至ル十ヶ月間ニ於テ支店ハ又モヤ千三百余£ノ大喰込ヲ示シ、前記資金三千£ノ棟引キノ外ニ猶十月末ニ於ケル欠損高千四百余£ヲ算ス、加フルニ其計上資産中（店員私借約千£ヲ既ニ三十二

年末、免除切り捨ノ後ナルモ）貸金及滞り貸ノ回收到底絶望ナルモノ猶四百£前後ヲ存シ居リ、更ラニ小売店撤廃ニ伴フ未決算損失見積概算額六百£ニ達シ、之レ等ノ総計無慮二千四百余£ヲ示シタレバ、本店ニテハ遂ニ当年度ノ総決算ニ於テ此邦貨換算額約二万三千八百円ヲ損失トシテ切り捨テ、以テ断然腐肉ヲ剔出シタリ

即チ上半期末計出セル滅失支店資金勘定ヲ併セ、シドニー支店（創立来十一ヶ年間ノ累損ト考ヘラル）累積ノ損失ニシテ本店ノ負担ニ帰セシモノ五千四百余£、邦貨約五万二千円トス

差詰処理ヲ要スル内外ノ欠陥累積無慮十二万円

前記本年度（支那貿易ヲ含ム）日本側経営損失一万千余円并ニ前項シドニー側多年累積ノ巨損約五万二千円ノ外ニ、猶差当り処理ヲ要スル商店資産ノ欠陥ハ、上半期仮決算ノ項下記述ノ通り蚕糸部繰越損金二万六千円ヲ始メ、店祖及ビ支配人ニ対スル立替貸金回収不能切捨高約二万三千円アリ、更ラニ有価証券ノ評価切り下ゲヲ必要トスル額四千数百円アリ、手形債権ノ実質如何ノ大問題ハ暫ク不問ニ附スルモ、以上差当り応急ノ処理ヲ要スル欠陥、実ニ無慮十一万六千二百円ノ巨額ニ上リ、実ニ惨状ヲ極ム
即チ

日本側当年経営損

約 円 11,400

蚕糸部繰越損金	〃	25,900
有価証券減価必要額	〃	4,400
立替貸金切捨	〃	22,700
シドニー支店累積損失	〃	51,800
総計		<u>¥116,200</u>

明治三十四（一九〇二）年

巨損ノ処分　―資本金ノ半減

前項十一万六千余円ニ上ル巨損ノ処分法トシテ、商店ハ先ヅ積立金ノ全部ヲ充当シ、資本金ヲ半減シテ五万円ニ改メ、更ラニ不動産ノ評価ヲ引上げ、僅少ノ什器評価ニ及ビ漸クニシテ一万九千円ヲ剩シテ之レヲ滞貸準備金トシ、受取手形勘定中、不良分ニ対スル申訳的引当金ニ供シタリ。蓋シ商店ノ積立金ハ昨年ノ決算処分ニ当リ著大ノ減額ヲ来シタルニ拘ラズ、猶本年初四万六千円ヲ算シ居リシト雖モ、当時既ニ蚕糸部其他ノ繰越欠損ト対照セラレ居リシモノナレバ、此際其全部ガ先ヅ以テ此欠陥補填ニ供セラル、コト固ヨリ当然ノ次第ナルモ、不動産評価ニ至リテハ曩ニ明治三十年増資ノ材料トシテ既ニ一挙倍価ニ引上ゲタルモノニシテ、尔来僅カニ四年ニ過キズ、其間同海岸及栄町ハ売却シタルモ、漸ク新評価ヲ充タシタルノミニシテ、残存不動産ノ評価ニ何等余裕ヲ生ゼシムルニ及バザリシコトナレバ、此財界沈淪ノ極ニ於テ現在帳簿尻四万七千余円ノ

不動産ニ対シ忽チ三万八千七百円、即チ八割以上ノ評価引上ゲヲ行フガ如キハ全ク乱暴ノ譏ヲ免カレザルモ、僅々五百円前後ノ什器勘定ニサヘ十割ノ評価増ヲ行ヒシ程ノ窮境ニ立チテハ、此種資産表面ノ無理ナル糊塗手段モ亦実ニ止ムヲ得ザルモノト見ルノ外ナカラシ

斯クシテ膨大サレタル地所家屋勘定約八万六千円ノ対象トシテハ、例ノ明治廿八年一万三千余円ニ買取リタル海岸通りノ地所及地上建物（此建物ハ其後多少ノ異動アルモ、価額ニ於テハ敢テ論ズベキモノ無シ）ト最近一万円ニテ商店勘定ニ移シタル諏訪山借地上ノ店祖邸アルノミナリシニ当時ノ會計主任四方ガ内情ニ通ゼザル結果、仮勘定ニ於テ既ニ資産ニ計上セラレアル例ノ組合地所（廿九年ノ購入総価約二万円）ヲ誤テ不動明細表ニ計入シ居リ、店祖及支配人ガ此ニ重計上ニ氣付カザリシコトハ確カニ債権銀行ヲシテ過当評価ノ感ヲ薄カラシメシ効大ナリシナルベク、所謂怪我ノ功名トモ、將又一種ノ天佑トモ称シ得ベシ

而シテ叙上ノ大調節ヲ行フモ、猶三万千円前後ノ大欠陥ヲ残スヲ以テ、遂ニ空前ニシテ且絶後ナルベキ減資ヲ断行シテ資本金ヲ半額ノ五万円ニ改メ、以テ欠陥ノ補填ニ充テ、其過剩約一万九千円ハ滞貨準備金口座ヲ再開シテ、之レヲ振替ヘ入帳シタリ

処分後ノ貸借対照表、正味資産事実皆無、寧口負債超過

前記詳述セル処分ヲ了シタル本年末日ノ貸借ヲ対照スレバ

〔表15参照〕

概数前表ノ通りニシテ、一見正味資産六万九千円ヲ示スト雖モ、一步資産ノ内容ニ立入りテ考察スルトキハ実ニ肌ニ粟ヲ生ズルヲ覺ユ
即チ定期預金ハ正金銀行ヨリ救援ノ手段トシテ商店所有并ニ共有不動産ノ全部ヲ同行ニ書キ入レ、寛大ニモ当店帳簿価格一杯ノ借入金ヲ許シ、改メテ之レヲ同行へ定期預金トシテ之レヲ見返リニ凡テノ金融ヲ与ヘラレ居ルモノニシテ、預金自体ニハ何等ノ弱点ナク、支店及出張所勘定ハシド

ニ一支店累積欠損処分直後ノ故ヲ以テ、又貸売貸金等ハ前述切捨処分後ノ故ヲ以テ、何レモ先ヅ安全ナルモノト見做シ、有価証券モ評価減直後ナレバ、商品勘定ト共ニ固ヨリ此場合何等ノ余裕ヲ存セザルモ、而カモ一応ハ充実セルモノト認メ、什器勘定ハ何レニシテモ僅小二付キ論外トシ、仮勘定ノ五万円ハ一見過大ナルモ、其大部分ハ未着商品及共有地所ニ関スルモノナルガ故ニ、跡三四千円ノ小口ハ不透明ナルモノ無キニ非ザルモ暫ク之レヲ不問ニ附スルモ、地所家屋勘定ニ於テ既記ノ通り少クトモ二三万円ノ無理アル上、受取手形ニ至リテハ総額八万余円中、一ト通り健全ナルモノハ三万数千円ニ過キズ、尔余ノ四万数千円ハ殆ンド全部肥料代金ニ因スル反古紙同様ノ手形ニシテ（金沢若林孫四郎約二万円、長崎山口菅三郎付片山繁約一万七千円、鹿児島山下多八郎三千余円、其他十数名取合セ四五千円、通算約四万五千円ハ尔後僅小ノ入金アリシモ、督促費用ヲスラ償フニ足ラス、小口ハ後日□々帳消シヲ為シタルモ、残高三万数千円ハ三十八年七月ニ至リ、仮勘定中滞貸口座へ振替ヘテ手形勘定ヲ整理処分シ）、其後結局全損ニ終リシ実績ニ見ルモ、右正味資産勘定六万九千円ハ単ニ表面取繕ヒノ役目ヲ勤ムルニ過ギズシテ、全ク何等ノ実質ヲ備ヘズ、若シ嚴格ナル評価ヲ行ハンニハ、必ズヤ最少限度ニテモ一二万円ノ負債超過ヲ示シタリシヲ知ル可シ

商店ノ運命岌々乎トシテ危イ哉

〈表15〉 明治34年度 貸借対照表

借方 (資産)		貸方 (負債)	
地所家屋	¥ 86,000	不動産担保借入金	¥ 85,000
什器	1,000	輸入荷為替手形	156,000
定期預金	85,000	支払手形	70,000
有価証券	11,000	割引手形	40,000
請取手形	80,000	銀行当座借越	11,000
商品	71,000	預り金及店員信認貯金	3,000
仮勘定	50,000	滞り貸準備金	19,000
支店及出張所勘定	41,000	資本金	50,000
貸売貸金及現金	9,000		
合計	¥ <u>434,000</u>	合計	¥ <u>434,000</u>

兼松商店史料 第I卷

兼松資料叢書(商店史料) 1

平成18年3月25日 印刷
平成18年3月25日 発行

(非売品)

編 著

神戸大学経済経営研究所

発行所

神戸市灘区六甲台町2-1

神戸大学経済経営研究所

印 刷

神戸市兵庫区西柳原町3-29

有限会社 岸本出版印刷

